

田 屋 遺 跡

— 紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 —

2020 年 12 月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



2-3区 竪穴建物 278・280・291 (南東上空から)



3-1区遠景 (東から)

序

田屋遺跡は、和歌山市の東部、紀ノ川北岸に所在する縄文時代晩期から中世にかけて断続的に続く複合遺跡です。これまで一般国道24号（和歌山バイパス）建設工事に伴う大規模な発掘調査が実施されたほか、和歌山市により多数の発掘調査などが実施され、縄文時代晩期、弥生時代後期から古墳時代後期、さらには古代・中世と幾重にもわたる先人の営みが確認されてきました。

本報告書は、紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良工事に伴い平成27年度から令和元年度にかけ当文化財センターが実施した発掘調査の成果を取りまとめたものです。本調査においても古墳時代及び奈良時代の堅穴建物跡や掘立柱建物跡など重要な遺構が多く見つかри、新たな知見を得ることができました。

本書が郷土の歴史を知るだけでなく、広く文化財の保護や活用をはかる上での一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査並びに調査報告書作成に当たりご指導・ご協力をいただきました関係各位の皆様・地元の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも当文化財センターへの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年12月

公益財団法人 和歌山県文化財センター
理事長 櫻井敏雄

例 言

- 1 本書は、和歌山市田屋及び小豆島に所在する田屋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、和歌山県による紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴い平成 27 年度から令和元年度まで発掘調査を実施し、令和元年度から令和 2 年度に出土遺物等整理業務を実施した。
- 3 当業務は、和歌山県から委託を受けた公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当文化財センター」）が、和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」）の指導のもとに実施した。
- 4 発掘調査及び出土遺物等整理業務に要した経費は、和歌山県が負担した。
- 5 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は以下に示すとおりである。

事務局長（管理課長）	米田 良博（平成 27 年度）、南 正人（平成 28・29 年度） 井上 拳宏（平成 30～令和 2 年度）
事務局次長	寺本 就一（令和元年度）、立花 佳樹（令和 2 年度）
埋蔵文化財課長	土井 孝之（平成 27・28 年度）、藤井 幸司（平成 29 年度） 丹野 拓（平成 30～令和 2 年度）
発掘調査業務担当	小林 充貴（平成 27 年度）、金澤 舞（平成 28・29 年度） 森田真由香（平成 30 年度）
出土遺物等整理業務担当	森田真由香（令和元・2 年度）
- 6 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務に際し、各関係機関並びに近隣の方々から多大なご協力を得た。また、次の諸氏から多大なご指導・ご教示を賜った。

井馬好英（公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団）、寺西貞弘（和歌山地方史研究会） 中村浩道（和歌山県立紀伊風土記の丘）
--
- 7 本書は、発掘調査業務担当者との協議のうえ、森田が編集・執筆した。
- 8 写真図版に使用した遺構写真は、各担当者が撮影し、第 1 次～第 4 次調査の遺物写真は森田が撮影した。
- 9 発掘調査・出土遺物等整理業務で作成した図面・写真及び台帳等の記録資料は当文化財センターが、出土遺物は県教育委員会が保管している。

凡 例

- 1 遺構実測及び地区割の基準線は、平面直角座標系第Ⅵ系（世界測地系）に基づき、値はm単位で表記している。また、図面に示した北方位は座標北を示す。
- 2 遺構実測で使用した標高は、東京湾標準潮位（T.P.+）を基準とした。
- 3 発掘調査及び整理作業で使用した調査コードは、以下の通りである。
 - 第1次調査：15-01・093（2015年度 - 和歌山市・田屋遺跡）
 - 第2次調査：16-01・093（2016年度 - 和歌山市・田屋遺跡）
 - 第3次調査：18-01・093（2018年度 - 和歌山市・田屋遺跡）
 - 第4次調査：18-01・093-2（2018年度 - 和歌山市・田屋遺跡 - 同年度2度目の調査）出土遺物・記録資料の整理にあたって、すべて上記の調査コードを使用している。
- 4 本書における地区名及び遺構番号は、調査時のものを使用した。
- 5 本書の遺構・土層断面図は特に縮尺を統一していないが、各々に明示している。
- 6 遺構番号及び遺物番号は、本文・実測図・写真図版において一致する。
- 7 遺物実測図の縮尺は、土器類は原則として1/4で、それ以外の場合は必要に応じて縮尺を明示している。遺物写真の縮尺は、特に統一していない。
- 8 調査時の土層の色調・土壌の粒径区分及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』を使用した。土層名で2種類以上の記載のある場合は、前者が主体で、後者が副になることを示す。
- 9 土層番号の表記は、基本的に調査時のものを使用した。そのため、第1次・第3次・第4次調査では数字、第2次調査ではアルファベットと数字を併用している。

本文目次

序・例言・凡例

第1章 位置と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第3節 既往の調査	2
第2章 発掘調査の経緯と経過	4
第1節 発掘調査の経緯	4
第2節 発掘調査の経過	4
第3章 発掘調査の方法と資料整理	5
第1節 基準点・水準点と地区割	5
第2節 発掘調査・記録の方法	6
第3節 出土遺物等整理	6
第4章 調査の成果	8
第1節 第1次調査の成果（1区）	8
1. 調査の概要	8
2. 基本層序	8
3. 検出遺構と出土遺物	11
4. 第2次調査2-1区の成果	14
第2節 第2次調査の成果（2-2区・2-3区）	17
1. 調査の概要	17
2. 基本層序	17
3. 検出遺構と出土遺物	18
第3節 第3次調査の成果（3区）	39
1. 調査の概要	39
2. 基本層序	39
3. 検出遺構と出土遺物	39
第4節 第4次調査の成果（4区）	52
1. 調査の概要	52
2. 基本層序	52
3. 検出遺構と出土遺物	54
第5章 まとめ	57

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

図1 田屋遺跡と周辺の遺跡	1	図32 竪穴建物277・278・280・406出土遺物 実測図 (S=1/4、1/6)	34
図2 過去の調査地位置図	2	図33 竪穴建物406・409・428出土遺物 実測図 (S=1/4、1/6)	35
図3 調査区地区割	5	図34 竪穴建物429・430・582・802・849 出土遺物実測図 (S=1/4)	36
図4 第1次調査基本層序 (S=1/20)	8	図35 竪穴状遺構384・427、208・304・407・ 593・963土坑、210・274溝出土遺物 実測図 (S=1/4)	37
図5 第1次調査1区、第2次調査2-1区遺構全体図 (S=1/300)	9・10	図36 410・441・494・495・670溝、 426自然流路、2-3区南部、206落ち込み、 677ピット、包含層出土遺物実測図 (S=1/4)	38
図6 掘立柱建物実測図 (S=1/60)	11	図37 第3次調査基本層序 (S=1/20)	39
図7 1落ち込み、2溝土層断面図 (S=1/80)	12	図38 第3次調査遺構全体図 (3区) (S=1/200)	40
図8 3溝土層断面図 (S=1/40)	12	図39 21溝、60・61溝、49溝土層断面図 (S=1/20)	41
図9 4溝実測図 (S=1/80)	12	図40 掘立柱建物1・2実測図 (S=1/80)	43
図10 14溝土層断面図 (S=1/40)	12	図41 竪穴状遺構35・58土坑実測図 (S=1/40)	44
図11 自然流路土層断面図 (S=1/40)	13	図42 33溝・59井戸土層断面図 (S=1/40)	42
図12 2-1区平面図・南壁土層断面図、 202ピット断面図 (S=1/100、1/40)	15	図43 51土坑土層断面図 (S=1/40)	45
図13 第1次調査、第2次調査2-1区出土遺物実測図 (S=1/4)	16	図44 67溝土層断面図 (S=1/40)	46
図14 第2次調査基本層序 (S=1/20)	17	図45 18井戸土層断面図 (S=1/40)	47
図15 第2次調査2-2区・2-3区遺構全体図 (S=1/300)	19・20	図46 83土坑、19溝土層断面図 (S=1/40)	48
図16 竪穴建物277・278・280・291平面図 (S=1/80)	21	図47 20・21・49・60・61溝、41・51・ 58土坑、竪穴状遺構35出土遺物実測図 (S=1/4)	48
図17 竪穴建物277炭化材出土状況 実測図 (S=1/80)	21	図48 33溝出土遺物実測図 (S=1/4)	49
図18 竪穴建物277土層断面図・エレベーション図 (S=1/80)	22	図49 67溝出土遺物実測図 (S=1/4)	50
図19 竪穴建物278実測図 (S=1/80)	22	図50 46落ち込み、83土坑、19溝、79溝状 遺構出土遺物実測図 (S=1/4)	51
図20 竪穴建物280実測図 (S=1/80)	23	図51 第4次調査基本層序 (S=1/20)	52
図21 竪穴建物291土層断面図・エレベーション図 (S=1/80)	23	図52 第4次調査遺構全体図 (4区) (S=1/300)	53
図22 竪穴建物406実測図 (S=1/80)	24	図53 14溝、26溝土層断面図 (S=1/40)	54
図23 竪穴建物428実測図 (S=1/80)	25	図54 36土坑実測図 (S=1/40)	55
図24 竪穴建物429実測図 (S=1/100)	26	図55 34溝土層断面図 (S=1/40)	55
図25 竪穴建物430実測図 (S=1/80)	28	図56 第4次調査出土遺物実測図 (S=1/40)	56
図26 竪穴建物582・802実測図 (S=1/80)	29	図57 集落域の変遷案	58
図27 竪穴建物802土層断面図 (S=1/40)	30		
図28 掘立柱建物実測図 (S=1/80)	31		
図29 963土坑土器出土状況図・土層断面図 (S=1/40)	32		
図30 410・441・670溝土層断面図 (S=1/40)	32		
図31 426自然流路土層断面図 (S=1/40)	33		

表目次

表1 主な既往の調査	3	表2 調査工程表	7
------------	---	----------	---

写真図版目次

巻頭図版	2 竪穴建物 277 南北土層断面
1 2-3 区 竪穴建物 278・280・291	3 竪穴建物 277 内 900 柱穴土層断面
2 3-1 区遠景	写真図版 11
写真図版 1	1 2-3 区 竪穴建物 278・280・291
1 1-1 区・1-3 区全景	2 竪穴建物 278 遺物出土状況
2 1-2 区全景	3 竪穴建物 278 内 301 カマド
3 1-1 区・1-2 区・1-3 区全景	写真図版 12
写真図版 2	1 竪穴建物 278 内 301 カマド東西土層断面
1 1-3 区西壁・自然流路土層断面	2 竪穴建物 278 内 312 土坑土層断面
2 1-1 区 掘立柱建物	3 2-2 区 竪穴建物 406
3 掘立柱建物内 6 柱穴土層断面	写真図版 13
写真図版 3	1 竪穴建物 406 内 806 柱穴遺物出土状況
1 1-1 区 1 落ち込み・	2 竪穴建物 406 内 809 土層断面
2 溝土層断面	3 竪穴建物 406 内カマド
2 1-1 区 3 溝土層断面	写真図版 14
3 1-1 区 4 溝検出状況	1 2-2 区 竪穴建物 428
写真図版 4	2 竪穴建物 428 南北土層断面
1 4 溝遺物等出土状況	3 竪穴建物 428 内カマド
2 4 溝土層断面	写真図版 15
3 4 溝完掘状況	1 竪穴建物 428 内カマド東西土層断面
写真図版 5	2 2-2 区 竪穴建物 429
1 1-1 区 14 溝土層断面	3 竪穴建物 429 南北土層断面
2 1-2 区 102 溝土層断面	写真図版 16
3 1-2 区 連続土坑群	1 竪穴建物 429 内 937 柱穴土層断面
写真図版 6	2 竪穴建物 429 内 930 土坑遺物出土状況
1 2-1 区全景	3 竪穴建物 430 内
2 2-1 区南壁	写真図版 17
写真図版 7	1 竪穴建物 430 南北土層断面
1 2-1 区 201 溝	2 竪穴建物 430 内カマド遺物出土状況
2 2-2 区 202 ピット土層断面	3 竪穴建物 430 内カマド支脚出土状況
3 202 ピット完掘状況	写真図版 18
写真図版 8	1 竪穴建物 430 内カマド南北土層断面
1 2-2 区全景	2 2-2 区 竪穴建物 582
2 2-3 区全景	3 竪穴建物 582、922・899 柱穴土層断面
3 2-2 区・2-3 区全景	写真図版 19
写真図版 9	1 2-2 区 竪穴建物 802
1 2-3 区東壁	2 2-2 区 掘立柱建物
2 2-3 区 竪穴建物 211、210 溝	3 掘立柱建物内 944 柱穴土層断面
3 2-2 区 竪穴建物 277・291	写真図版 20
写真図版 10	1 2-2 区 963 土坑遺物出土状況
1 竪穴建物 277 上面焼失材検出状況	2 2-2 区 410 溝土層断面

3 2-2区 441 溝土層断面

写真図版 21

1 2-2区 651 溝

2 2-2区 670 溝

3 670 溝土層断面

写真図版 22

1 3-1区全景

2 3-2区全景

3 3-1区・3-2区全景

写真図版 23

1 3-1区西壁土層断面

2 3-1区 20・55 溝

3 3-2区 65 溝土層断面

写真図版 24

1 3-1区 21・22 溝

2 3-1区 21 溝土層断面

3 3-2区 21 溝土層断面

写真図版 25

1 3-2区 49 溝

2 49 溝土層断面

3 3-2区 60・61 溝土層断面

写真図版 26

1 3-1区 掘立柱建物 1

2 掘立柱建物 1 内 12 柱穴土層断面

3 3-1区 掘立柱建物 2

写真図版 27

1 掘立柱建物 2 内 10・11 柱穴土層断面

2 3-1区 竪穴状遺構 35

3 竪穴状遺構 35 土層断面

写真図版 28

1 3-1区 41 土坑土層断面

2 3-1区 51 土坑土層断面

3 3-1区 51 土坑杭跡検出状況

写真図版 29

1 3-1区 33 溝

2 3-1区 59 井戸、33 溝土層断面

3 33 溝土層断面

写真図版 30

1 3-1区 55 溝土層断面

2 3-2区 60・61・63 溝

3 3-2区 63 溝土層断面

写真図版 31

1 3-2区 67 溝

2 67 溝土層断面

3 3-1区 18 井戸土層断面

写真図版 32

1 3-2区 83 土坑土層断面

2 3-1区 19 溝土層断面

3 3-2区 79 溝状遺構土層断面

写真図版 33

1 4-2区全景

2 4-1区全景

3 4-1区・4-2区全景

写真図版 34

1 4-1区全景

2 4-2区全景

3 4-2区南壁土層断面

写真図版 35

1 4-1区 10・14・18 溝

2 14 溝土層断面

3 4-2区 36・37 土坑、26・35・39 溝

写真図版 36

1 36 土坑遺物出土状況

2 4-2区 34 溝、86 土坑

3 4-2区 小穴列、34 溝

写真図版 37

1 34 溝土層断面

2 34 溝・86 土坑土層断面

3 4-1区 19・20・21 溝

写真図版 38 1・2区出土遺物

写真図版 39 2区出土遺物

写真図版 40 2区出土遺物

写真図版 41 2区出土遺物

写真図版 42 2区出土遺物

写真図版 43 2区出土遺物

写真図版 44 2区出土遺物

写真図版 45 3区出土遺物

写真図版 46 3区出土遺物

写真図版 47 3区出土遺物

写真図版 48 3区出土遺物

写真図版 49 3・4区出土遺物

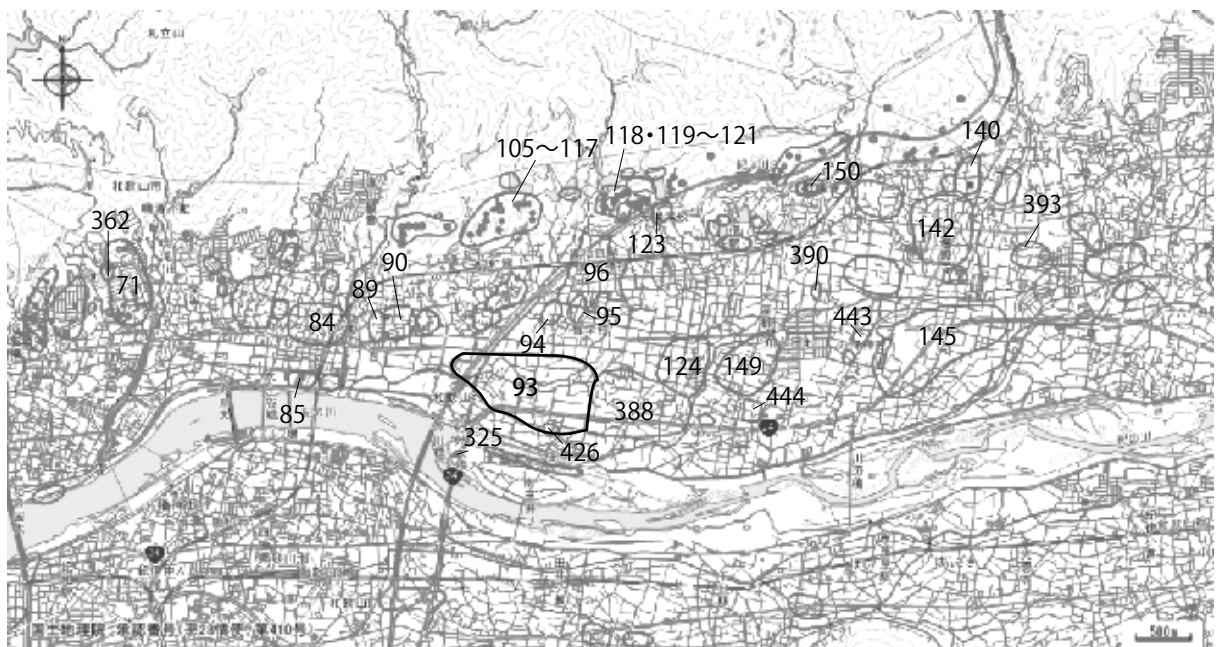
第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

和歌山県は南北に長く、北は和泉山脈を境として大阪府と接し、南は熊野川を境として三重県に接する。東は果無山脈を境として奈良県と接し、西には紀伊水道が広がる。紀ノ川は和歌山県の北部を西流する川で、奈良県の大台ヶ原を源流とし、奈良県では吉野川、和歌山県では紀ノ川と名前を変えて紀伊水道へ流れる。紀ノ川北岸では、古代より南海道を経由して人・ものや新たな文化が行き交ってきた。紀ノ川沿いでは歴史的な文化財が数多く残されており、和歌山市の和歌山城跡・岩橋千塚古墳群、岩出市の根来寺、紀の川市の紀伊国分寺跡・粉河寺、かつらぎ町の柿田荘跡などがこれらに代表される。

和歌山市内の紀ノ川流域に広がる和歌山平野を始めとした沖積地には、紀ノ川の旧河道が分布しているほか、中州状に微高地が点在し、これらには中之島・小豆島のように「島」のついた地名が残る。

田屋遺跡（93）は、和歌山市田屋・小豆島に所在する、主に古墳時代の集落遺跡である。遺跡は現在の紀ノ川河口から約9km上流の北岸で、標高6m前後の微高地に位置する。田屋遺跡や周辺の西田井遺跡（388）などは、この地域にみられる旧河道や低湿地を避けた微高地に形成された集落跡である。旧河道や自然堤防は現在の地形にも反映されており、調査地付近では微高地上に住宅地が点在している。また、土地割から旧河道の位置が復元でき、これまでの発掘調査からも確認されている。



- 71:鳴滝古墳群 84:六十谷遺跡 85:和田遺跡 89:直川遺跡 90:直川廃寺跡 93:田屋遺跡 94:府中Ⅱ遺跡
95:府中Ⅲ遺跡 96:府中遺跡 105~117:直川八幡山古墳群 118:八王子古墳群 119~121:橘谷Ⅰ~Ⅲ遺跡
123:弘西遺跡 124:北田井遺跡 140:山口廃寺跡 142:山口遺跡 145:川辺遺跡 149:宇田森遺跡 150:上野廃寺跡
325:紀の川銅鐸出土地 362:鳴滝遺跡 388:西田井遺跡 393:吉田遺跡 426:小豆島西遺跡 443:東城跡 444:山名館跡

図1 田屋遺跡と周辺の遺跡

第2節 歴史的環境（図1）

田屋遺跡の所在する紀ノ川流域には、縄文時代から江戸時代まで多数の遺跡が存在する。

縄文時代の遺跡として、六十谷遺跡（84）・直川遺跡（89）・川辺遺跡（145）などが知られている。

弥生時代前期には、現在の紀ノ川南岸を中心に太田・黒田遺跡などの集落遺跡が広がっていた。弥生時代中期以降になると、田屋遺跡をはじめとして川辺遺跡、西田井遺跡、北田井遺跡（124）、宇田森遺跡（149）に代表されるように、紀ノ川北岸にも集落が活発に営まれていく。弥生時代後期にはこれらに加え、山口遺跡（142）などの低位段丘上にも集落が展開されるようになる。弥生時代に展開した集落遺跡は、古墳時代に再び集落が展開されるようになる。

古墳時代になると、紀ノ川北岸より古墳が広がる。紀ノ川北岸の古墳群として、古墳時代中期の晒山古墳群などが代表される。古墳時代中期以降、紀ノ川南岸の岩橋千塚古墳群が爆発的に広がり、和歌山における古墳群の中心域になっていく。

奈良時代の遺跡には、山口遺跡・川辺遺跡・吉田遺跡（393）・府中遺跡（96）などがある。このうち府中遺跡に紀伊国府が置かれていたと比定されているほか、付近では南海道が通っていたと考えられている。これらの周辺には直川廃寺跡（90）など奈良時代の寺院が確認され、奈良時代の紀ノ川北岸には紀伊国の主要な施設が集まっていたと考えられる。

第3節 既往の調査（図2・表1）

田屋遺跡は、これまでに県関係で12次まで（県1～県12）、市関係で35次まで（市1～市35）調査が行われている。中でも一般国道24号（和歌山バイパス）建設に伴う調査（県1～5）

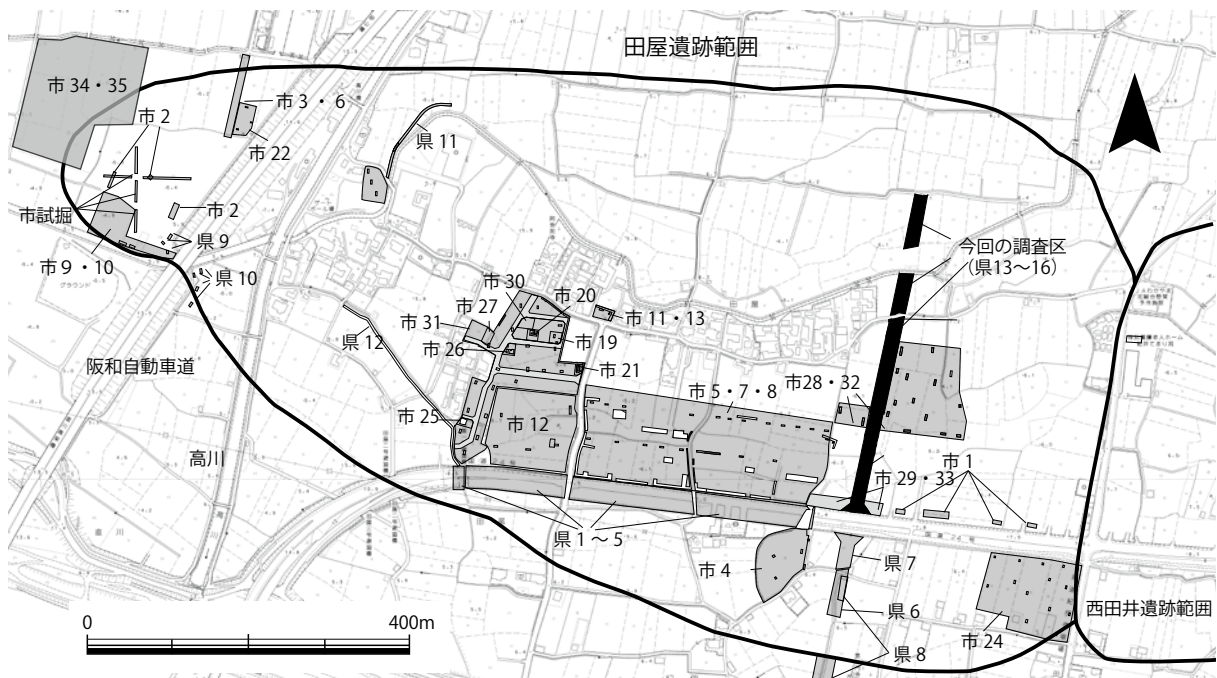


図2 過去の調査地位置図（市財団 2017 を改変）

では 13,000㎡以上に及ぶ広範囲の調査地から、計 40 棟を超える竪穴建物など、弥生時代から古墳時代に続く集落跡を検出した。また、検出した竪穴建物や出土遺物から、田屋遺跡の遺構・遺物の編年及び集落の変遷が明らかにされている。

市関係の調査では、旧河道の復元が行われており、旧河道に沿った集落域の広がりが確認されている。

表 1 主な既往の調査

回数	調査面積 (㎡)	主な調査成果
県 1～5	13,440.0	国道 24 号線建設に伴う調査。古墳時代の竪穴建物を多数検出。田屋遺跡における竪穴建物や出土遺物の編年及びそれらに基づく集落の変遷を明らかにした。
県 6	419.5	古墳時代の炉、中世の溝・杭などを検出。
県 7	942.0	古墳時代の竪穴建物、古代から中世の溝、中世以降の畦畔を検出。古墳時代から中世の地形と土地利用を窺える知見を得た。
県 8	1,818.0	区画溝や井戸などを検出。調査区南部の小豆島西遺跡は五輪塔・宝篋印塔・地蔵等が出土したことから、中世の寺院跡とみられる。
県 9	22.4	遺構は検出されなかったが、調査地の旧地形では北東から南西へ傾斜があったとみられる。
県 11	333.0	中世のピット・柱列、弥生時代の自然流路を検出。調査地周辺に中世の集落が広がるとみられる。
県 12	123.0	溝状遺構を検出 (時期不明)。
県 13	1,987.0	本書の第 1 次調査。連続土坑群・古代の溝状遺構などを検出。
県 14	1,782.0	本書の第 2 次調査。古墳時代の竪穴建物 13 棟を検出。
県 15	786.6	本書の第 3 次調査。掘立柱建物・古代の溝等を検出。
県 16	1,049.3	本書の第 4 次調査。弥生時代の溝・古代の土坑等を検出。
市 1	368.0	古墳時代の水田状遺構・畦畔・溝を検出。検出溝は水田の灌漑施設とみられる。
市 2	201.3	古墳時代の掘立柱建物の他、平安時代の大溝を検出。
市 3	100.0	古墳時代前期のピット群・竪穴建物を検出。遺構・遺物が古墳時代前期に集中。
市 5	260.0	古墳時代の自然流路を検出。自然流路に沿って遺構が展開されることを確認。
市 6	738.2	古墳時代の竪穴建物・溝を検出。微高地に竪穴建物が広がることを確認。
市 7	786.5	弥生時代・古墳時代の竪穴建物、調査区の南北に延びる自然流路を検出。県 1～5 で検出した竪穴建物の延長とみられる。
市 8	1,464.9	ベッド状遺構を伴う古墳時代の竪穴建物、古墳時代の自然流路および自然流路に直交する溝を検出。
市 9	10.8	古墳時代～平安時代の溝を検出。須恵器片、瓦器片が出土。
市 10	12.0	平安時代以降の溝を検出。
市 11	15.2	中世の溝を検出。
市 12	66.0	古墳時代の溝、竪穴建物とみられる遺構を検出。
市 13	116.4	中世の溝、近世の落ち込みを検出。
市 14	19.8	土坑・ピットを検出。
市 15	119.4	土坑・ピットを検出。自然流路より南に遺構が展開されることを確認。
市 16	72.0	古墳時代の竪穴建物、溝、ピットを検出。
市 17	17.1	中世の溝、落ち込み、土坑を検出。中世の遺構が遺跡の西側に広がることを確認。
市 18	3,700.0	11～13 世紀ごろの井戸・溝・ピット、古墳時代の竪穴建物群を検出。古墳時代の竪穴建物群が当時の自然流路と平行に分布していた他、中世以降も断続的に集落が存在したことを確認。
市 19	16.4	遺構は確認されなかった。土師器片、須恵器片が出土。
市 20	44.7	古墳時代の溝・ピットを検出。
市 21	54.8	東西方向の大溝を検出。旧河道内に相当。
市 22	17.8	ピットのほか、調査地北部で微低地状の落ち込みを検出。
市 23	130.1	古墳時代の溝・ピットの他、自然流路の一部を検出。
市 24	120.0	遺構は確認されなかった。中世とみられる土器片が出土。
市 25	57.0	古墳時代の竪穴建物、ピットを検出。
市 26	68.0	古墳時代の溝を検出。18 次調査でも見られた自然流路の一部とみられる。
市 27	72.0	古墳時代の竪穴建物、溝などを検出。
市 28	175.9	古墳時代の竪穴建物を 5 棟検出。
市 29	26.0	溝の肩部を検出。
市 30	52.8	鋤溝・ピットを検出。
市 31	46.8	古墳時代の竪穴建物・土坑・ピットを検出。竪穴建物の集中域。
市 32	269.0	古墳時代とみられる段差遺構を検出。
市 33	338.0	古墳時代の竪穴建物を複数棟を検出。集落域の境界付近とみられる。
市 34	44.4	調査区北西部 (田屋遺跡範囲外) から古代の土坑・ピットを検出。
市 35	9.2	耕作痕を検出。

第2章 発掘調査の経緯と経過

第1節 発掘調査の経緯

和歌山県により計画された県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業予定地の一部が、周知の埋蔵文化財包蔵地である田屋遺跡に該当したことから、県教育委員会が試掘確認調査を実施した。試掘確認調査の結果、埋蔵文化財包蔵地の範囲外となっていた事業予定地についても埋蔵文化財の展開が確認されたため、田屋遺跡の埋蔵文化財包蔵地範囲が変更された。発掘調査は当文化財センターが県教育委員会の指導のもと、平成27年度から令和元年度にかけて4次にわたり実施した。

第2節 発掘調査の経過

調査はすべて工事請負方式で実施した。

第1次調査 発掘調査工事は有限会社ユートピア建設に、基準点測量及び航空写真撮影・図化は株式会社共和に委託した。平成27年12月26日より機械掘削を開始し、平成28年3月8日に埋戻しを完了した。調査面積は1,987㎡である。調査区は排土置き場の確保のため、北から1-1区・1-2区・1-3区に区分けし、1-1区と1-3区の発掘調査を同時に行った後に1-2区の発掘調査を実施した。

第2次調査 発掘調査工事は根田建設株式会社に、基準点測量及び航空写真撮影・図化は株式会社ウエスコ和歌山営業所に委託した。平成29年2月21日より機械掘削を開始し、平成29年8月5日に埋戻しを完了した。調査面積は1,782㎡である。調査区は第1次調査調査地の北側と南側の2か所に分かれており、北側を2-1区、南側を排土置き場確保のため北から2-2区・2-3区に区分けし、2-1区・2-3区・2-2区の順に調査を行った。

第3次調査 発掘調査工事は株式会社森上土木に、基準点測量及び航空写真撮影・図化は和歌山航測株式会社に委託した。平成31年1月15日より機械掘削を開始し、平成31年2月27日に埋戻しを完了した。調査面積は786.6㎡である。調査区は排土置き場確保のため、北から3-1区・3-2区に区分けし、3-1区から順に調査を行った。

第4次調査 発掘調査は株式会社三崎工業に、基準点測量及び航空写真撮影・図化はワコウコンサルタント株式会社に委託した。平成31年4月8日より機械掘削を開始し、令和元年6月26日に埋戻しを完了した。調査面積は1,049.3㎡である。調査区は排土置き場確保のため、北から4-1区・4-2区に区分けし、4-1区から順に調査を行った。この他、普及活動として、現地説明会及び周辺住民を対象に現地公開を各調査中に行った。

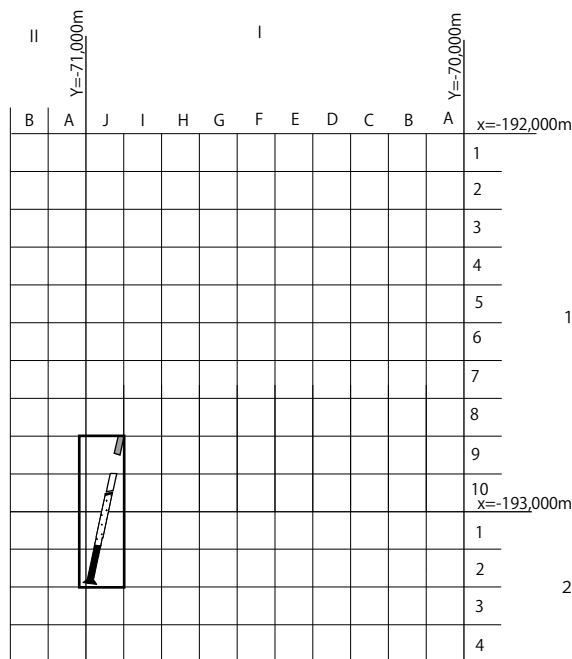


第4次調査 現地公開の開催状況

第3章 発掘調査の方法と資料整理

第1節 基準点・水準点と地区割 (図3)

発掘調査に際しての地区割は財団法人和歌山県文化財センターが定めた『発掘調査マニュアル (基礎編)』(2006) に準拠して行った。遺構の検出位置・遺物の出土位置を示すために、調査区に任意の基点に基づく地区割を行った。地区割の基点は (X = -192,000 m、Y = -70,000 m) とし、中区画・小区画の地区割を行った。中区画はこの基点から西方向と南方向にそれぞれ 100 m 四方の区画を 1 単位として設定し、西方向へ A ~ J、南方向へ 1 ~ 10 と表記した。さらに、中区画を 4 m 四方に区画し、それを 1 単位として小区画を設定した。小区画も西方向にローマ字で a ~ y と、南方向へアラビア数字で 1 ~ 25 と表記した。遺物取り上げの際は原則として小区画で行い、「J9-a1」のように中区画と小区画を組み合わせる表記した。

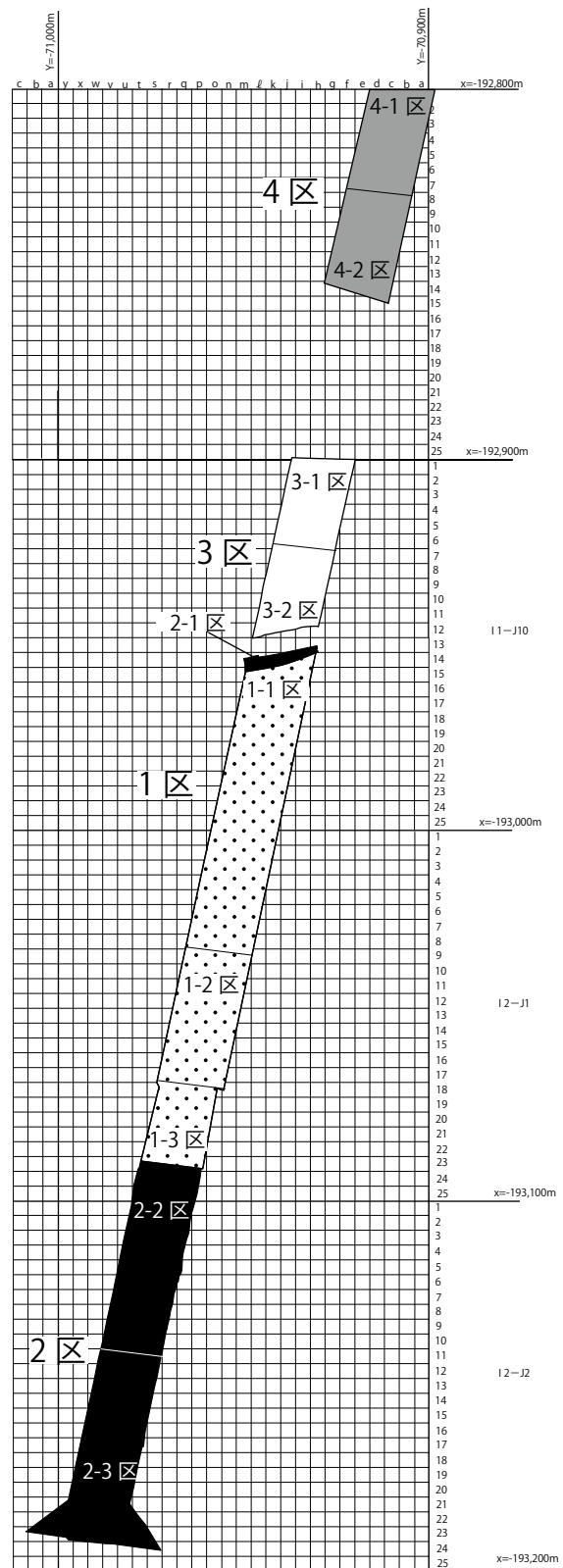


調査区大・中区画：大区画 1000m 方眼・中区画 100m 方眼

(S=1/20,000)

▨ 第1次発掘調査範囲 □ 第3次発掘調査範囲

■ 第2次発掘調査範囲 ▩ 第4次発掘調査範囲



調査区小区画：4m 方眼 (S=1/2,000)

図3 調査区地区割

第2節 発掘調査・記録の方法

調査は、財団法人和歌山県文化財センター策定の『発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006. 4）に準拠して実施した。発掘調査で使用した調査コードは、第1次調査が15-01・093、第2次調査が16-01・093、第3次調査が18-01・093、第4次調査が18-01・093-2である。

各調査区の重機による掘削は、県教育委員会の調査仕様に従い遺物包含層とされた層の上面まで慎重に行った。遺物包含層以下は人力で掘削を行った。

写真撮影は、第1次調査で4×5判及び6×7判、35mm判それぞれのモノクロームフィルムとカラーリバーサルフィルムを使用し、デジタルカメラを補助的に使用した。第2次調査では、6×7判及び35mm判それぞれのモノクロームフィルムとカラーリバーサルフィルム、35mmフルサイズデジタルカメラを使用した。第3次調査と第4次調査では、35mmフルサイズデジタルカメラと中判デジタルカメラを使用した。第3次調査及び第4次調査の写真撮影に際しては、色の正確さを期すためにグレーチャートまたはカラーチャートを写しこみ、ファイル形式はRAW形式とJPEG形式で撮影した。写真は、各調査担当者が撮影した。その他、委託業務によりラジコンヘリコプターにより調査区の遠景及び近景を撮影し、各調査区の俯瞰写真撮影を実施した。

記録図面は、手実測による個別遺構実測図（S = 1/10・1/20、遺構平面図・遺構断面・土層断面）を作成したほか、遺構全体は委託業者によりラジコンヘリコプターによる空中写真測量で作成した。

第3節 出土遺物等整理

第1次調査から第4次調査にかけて出土した遺物の総数は、遺物収容コンテナ（28ℓ）にして64箱である。遺物及び作成した記録・写真の整理は、「田屋遺跡第1次出土遺物等整理業務」（以下、第1次整理業務）、「田屋遺跡第2次出土遺物等整理業務」（以下、第2次整理業務）として当文化財センターが受託し、業務を行った。出土遺物等整理として行った作業は、洗浄作業、内容登録作業、注記作業、接合作業及び補強作業、遺物の実測図作成作業、遺構図面及び遺物実測図のトレース、遺物の復元作業、遺物の写真撮影、組版、編集及び校正、原稿執筆、報告書印刷である。

遺物は、現地調査時に応急整理として一部の洗浄を行っており、第1次整理業務では残る全量を対象に洗浄作業を行ったのち、乾燥の終了したのものから内容登録作業を行った。遺物は、出土遺構・区画ごとの取り上げ単位ごとに遺物ネット袋に分けて収納している。遺物は遺物ネット袋ごとに登録番号を付し、出土遺物登録台帳によって管理をしている。内容登録作業では、遺物内容を種類ごとに分けて集計登録した。内容登録の済んだ遺物は、破片の内面端に調査コードと登録番号の注記作業を行った。また、注記作業・内容登録作業の済んだ遺物に、接合作業・補強作業を行った。まず、同じ遺構の登録番号ごとで接合を行い、後に重複する遺構及びその遺構を検出した小区画の包含層での接合を試みた。接合作業は主に接着剤を用いて接着し、接合作業の後、欠損部については充填材を用いた補強を行った。また、一部の遺物は充填材を用いた復元作業を行った。遺物の実測図作成作業は、主に遺構の性格や時期を分類するために必要な遺物を抽出・図化する作業である。土器器面の調整など遺物の観察内容を遺物観察表にまとめた。遺物実測図は手描きでトレースを行い、遺構実測図はデジタルトレースを行った。

第4章 調査の成果

第1節 第1次調査の成果（1区）

1. 調査の概要

第1次調査の調査対象である1区は、4次にわたる調査の中央部分に位置し、後述する2-2区の北に隣接する。調査対象地は東西約15m、南北約137m、面積1,987m²で、調査前まで水田耕作地として利用されていた。第1次調査では調査区を3つに分割し、北から1-1区、1-2区、1-3区として調査を行った。調査前の現況地盤高は1-1区では6.40～6.45m、1-2区では6.30～6.35m、1-3区では6.05～6.10mである。

調査区は1-1区北端が微高地にあたり、この微高地に遺構が集中していた。さらに、微高地より一段低い落ち込みがこの微高地を取り囲み、落ち込みの肩部に沿って複数条の溝が延びていた。調査区の南側にあたる1-2区南部及び1-3区全体には自然流路が広がっていた。

2. 基本層序（図4、写真図版2）

1区の基本層序は下記の14層である。

第1層は、現代の耕作土である。

第2層は、鉄分を含む黄灰色シルトで、現代の耕作土下の床土である。

第3層は、砂と大量のマンガン粒を含む黄灰色シルト質で、近代の耕作土である。

第4層は、黄灰～灰黄褐色のシルトで、近世の水田耕作土である。中世の土師器や須恵器、近世の染付を含む。

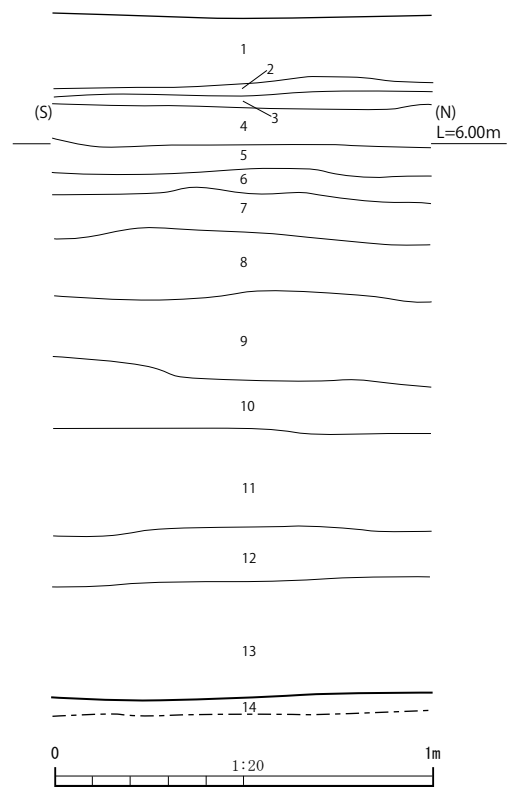
第5層は、黄灰色砂混シルトで、近世の水田耕作土である。

第6層は、灰黄褐色シルトで、瓦器・土師器を含む中世の遺物包含層である。

第7層は、灰白色のシルトで、古墳時代から中世までの須恵器片・土師器片を含む中世の層である。

第8～10層は、褐灰～黄灰色系の粘土層で、古墳時代の土器を含む。

第11層は灰黄褐色細砂で、土器を含む古墳時代の遺物包含層である。



- 1 7.5Y4/1 灰シルト
- 2 2.5Y6/1 黄灰シルト 鉄分含
- 3 2.5Y6/1 黄灰シルト・砂混シルト マンガン粒多量に含
- 4 2.5Y6/1 黄灰シルト 鉄分含
- 5 2.5Y6/1 黄灰砂混シルト 鉄分・土器含
- 6 2.5Y6/2 灰黄褐シルト φ1.0～3.0cmマンガン粒多量に含
- 7 2.5Y7/1 灰白シルト・粘土混シルト
- 8 10YR5/1 褐灰粘土・砂混シルト
- 9 2.5Y5/1 黄灰粘土砂混シルト
- 10 5Y6/1 灰粘土
- 11 10YR5/2 灰黄褐砂・シルト混粘土 土器含
- 12 N6/0 灰粘土 鉄分含
- 13 N3/0 暗灰粘土 土器含
- 14 2.5GY6/1 オリーブ灰粘土混シルト マンガン粒含

図4 第1次調査基本層序 (S=1/20)



図5 第1次調査遺構全体図(1区)(S=1/300)

第12・13層は、灰から暗灰の粘土で、1-2区の南側及び1-3区全域に広がる自然流路の堆積層である。第2次調査2-2区の426自然流路でも同様の堆積層が確認できる。

第14層は、マンガン粒を含むオリーブ灰色の粘土混シルトで、基盤層である。

3. 検出遺構と出土遺物

(1) 中世以前の遺構と遺物

《掘立柱建物》

掘立柱建物（図6、写真図版2）

1-1区北部で検出した掘立柱建物である。建物の平面規模は桁行（南北）2間、梁行（東西）2間の南北3.55m、東西2.95～3.00mである。なお、柱穴の削平が激しいため、東西方向の柱間から推定して南北3間の可能性がある。柱穴の掘方は円形を呈し、直径は0.15～0.20m、残存する深さは0.18～0.60mである。重複する素掘り小溝群に先行する。

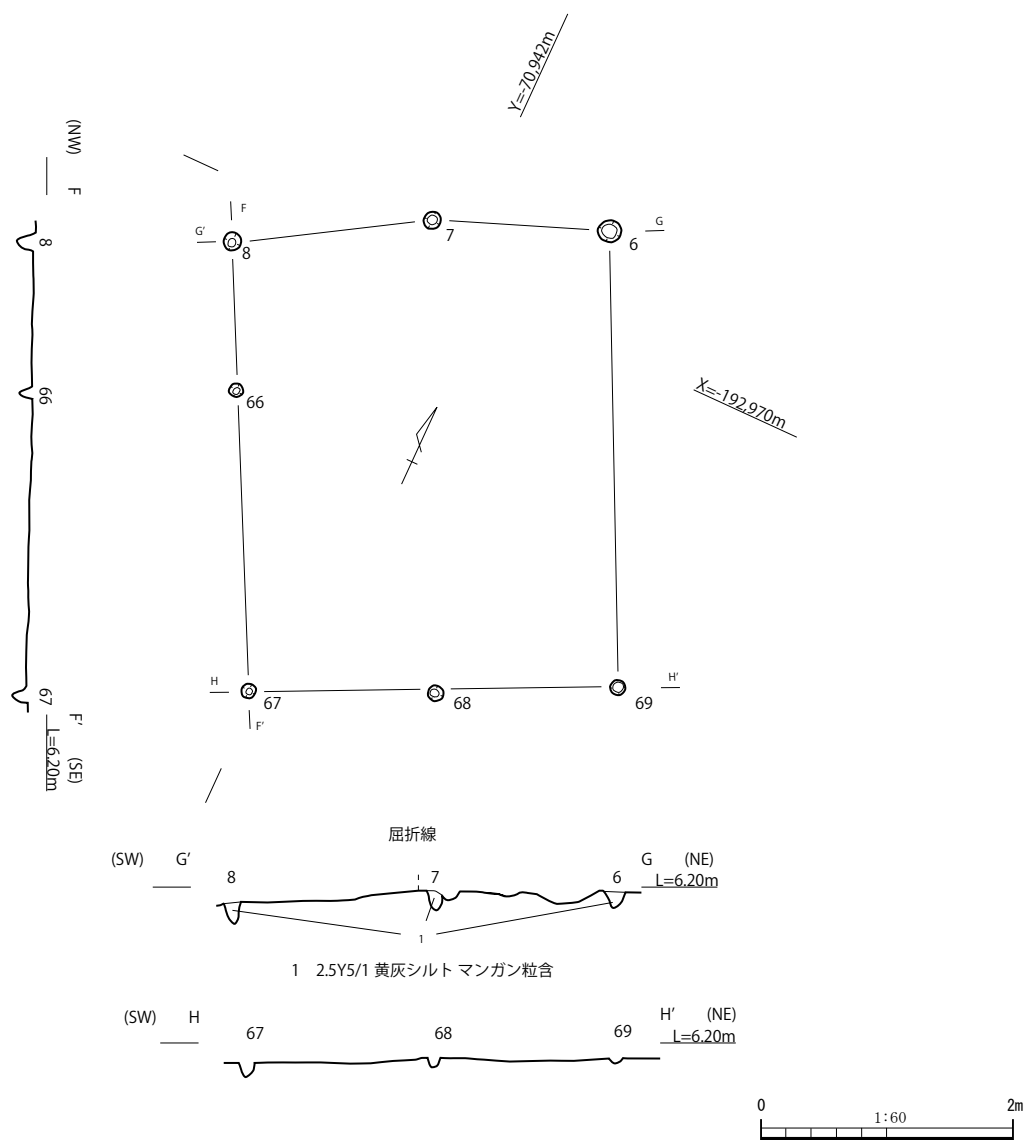


図6 掘立柱建物実測図(S=1/60)

柱穴から遺物は出土していないが、後出する素掘り小溝群よりキセルの雁首が出土し、素掘り小溝群が江戸時代に帰属すること、建物の軸が1落ち込みや3溝にほぼ平行であることから、3溝と近い時期の遺構の可能性はある。

《溝・流路》

2 溝 (図7、写真図版3)

1-1 区北部で検出した南北方向へ伸びる溝である。検出した延長は 11.80 m 以上、幅は 0.50 ~ 0.70 m、残存する深さは 0.20m である。断面は船底形を呈し、埋土はマンガン粒を含む灰黄褐色シルトの単層で構成される。1 落ち込みと 4 溝に重複し、新しいものから 2 溝、1 落ち込み、4 溝の順となる。先行する 1 落ち込みから瓦器・握り鋏が出土していることから、1 落ち込みが中世の溝で、2 溝は中世以降の溝とみられるが、遺物が出土していないため正確な時期は断定できない。

3 溝 (図8、写真図版3)

1 落ち込みの左肩部に沿って検出した、北西から南東へ伸びる遺構である。検出した延長は 18.50 m、最大幅は 0.70 m、残存する深さは 0.02 ~ 0.05 m である。断面は皿形を呈し、埋土は黄灰色シルトの単層である。

遺物は古代の土師器、黒色土器の破片が少量出土した。

4 溝 (図9・13、写真図版3・4)

1-1 区北西端で検出された溝である。溝は南肩が確認でき、第2次調査2-1区の201溝へ続く。北西部の肩は2-1区よりも北のため不明である。溝の幅は 2.20 m 以上、残存する深さ 0.40 m である。断面形は溝の中央(検出部分の西端)が段をなしてくぼんでいる。

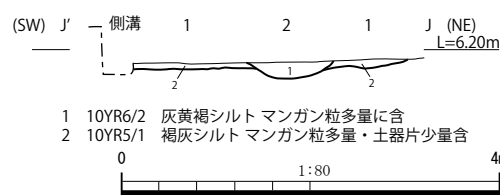


図7 1 落ち込み・2 溝土層断面図 (S=1/80)

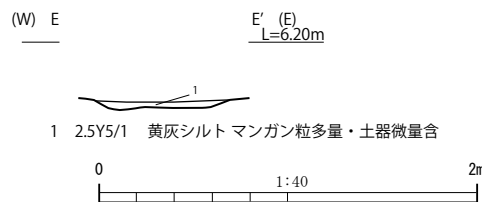


図8 3 溝土層断面図 (S=1/40)

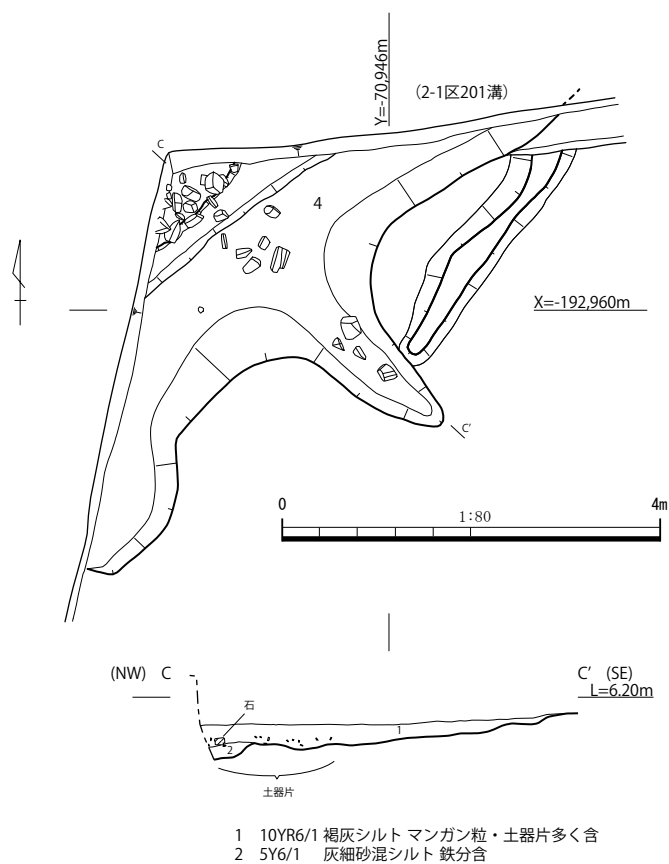


図9 4 溝実測図 (S=1/80)

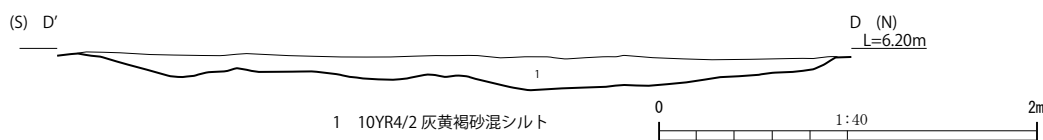


図10 14 溝土層断面図 (S=1/40)

埋土は2層に分かれ、1層はマンガン粒を含む褐灰色シルト、くぼみ部分の2層は鉄分を含む灰色細砂混シルトである。

遺物はおもに1層下位から飛鳥～平安時代の須恵器（1～4）、土師器（5）、黒色土器（6・7）が多数出土したほか、土錘（10）や奈良時代の瓦片（8・9）も出土している。この溝からは5のように多段ナデを有した土師器のほか、移動式カマドの破片が出土している。先行する1落ち込みからは瓦器が出ていることから、この溝は古代に機能し、中世に埋没していたとみられる。

なお、この溝は2-1区で検出した201溝と同一と考えられる。

14 溝（図10、写真図版5）

1-1区北部で東から西に延びる溝であり、検出した延長は13.00mである。溝の幅は4.00m、残存する深さは0.05～0.20mである。西側は1落ち込み及び素掘り小溝群に削られており、これらに先行する遺構であることが分かる。断面形は皿形を呈し、埋土は灰黄褐色細砂混シルトの単層である。遺物は飛鳥時代～平安時代の土師器、製塩土器片が出土した。

83・91・102 溝（写真図版5）

1-2区中央部付近で検出した3条の溝である。東から西に延びる83溝・102溝と、これらに直交する91溝でコの字状を呈している。遺物は91溝から土師器細片が2点出土しているのみで、83・102溝から遺物は出土していない。

自然流路（図11、13、写真図版2）

1-2区の南側で肩部を確認しており、南肩については調査区内では確認できなかった。流路は東西方向で、残存する深さ0.20m以上である。埋土は上から灰色粘土とオリーブ灰色粘土が水平に堆積している。完掘していないため流路として機能しはじめた時期は不明だが、位置関係から古墳時代とされる2-2区426自然流路とのつながりも否定できない。

遺物は古墳時代後期の須恵器（17）、土師器のほか、飛鳥～平安時代の土師器、製塩土器、黒色土器などが出土した。

《落ち込み》

1 落ち込み（図7・13、写真図版3）

素掘り小溝群を検出した1-1区北東部は微高地状になっており、ここから1-1区南端までは段状に標高が低くなっている。北東部の微高地より一段低い箇所が1落ち込みであり、微高地を取り囲むように南東から北西に延びる。残存する深さは0.23mで、底は平らである。埋土は基本層序第3層・第4層と同じ黄灰色シルトである。遺構の内部から、3溝をはじめとして、落ち込みの向きに沿った溝を複数条確認した。遺物は土師器（15）、黒色土器（13・14）、瓦器（11・12）、握り鋏（16）などが出土した。

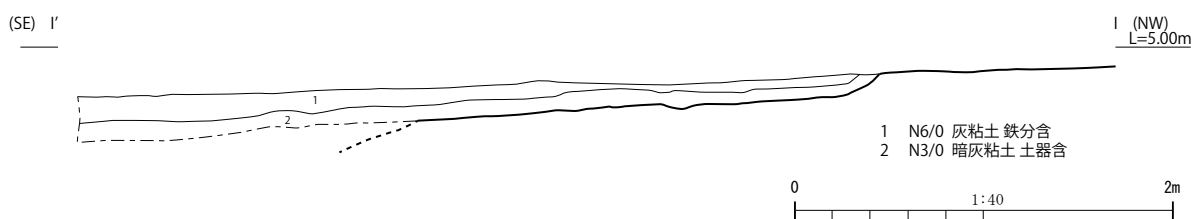


図11 自然流路土層断面図(S=1/40)

(2) 近世以降の遺構と遺物

《土坑》

連続土坑群（写真図版5）

1-2 区の南側で検出した遺構である。土坑は東西方向に 0.60 ～ 0.70 m 間隔で並んでいる。掘方は南北に長い楕円形を呈する。規模は長軸 0.50 m、短軸 0.30 m で、残存する深さは 0.04 ～ 0.07 m である。遺物は確認されなかった。なお、この土坑群は座標北にほぼ直交する。

《溝》

素掘り小溝群（図 13）

3-1 区北部の微高地上で検出した溝群である。遺構は南北方向に延び、東西方向で最大 12 条の溝が並ぶ。幅は 0.20 ～ 0.40 m、残存する深さは 0.04 ～ 0.15 m で底は平らである。遺物は、複数の黒色土器片や土師器片も出土したが、青銅製のキセル雁首（18）が出土しており、近世の耕作に伴うものと考えられる。

4. 第 2 次調査 2-1 区の成果

第 2 次調査では、調査区を 2-1 区～ 2-3 区の 3 つに分けて発掘調査を行った。調査面積の大半を占める 2-2 区・2-3 区が 1-3 区の南側に位置するのに対し、2-1 区のみ 1-1 区の北側に隣接し、1 区に関連する遺構も検出した。そのため、本節では 2-1 区の成果も併せて記述する。

《溝》

201 溝（図 12、13、写真図版 7）

調査区の南側で検出した溝である。検出した延長は 1.60 ～ 1.90 m、幅が 1.70 m、残存する深さが 0.90 m である。溝の断面は中央が段をなしてくぼんでいる。埋土は上から黄褐色シルト、灰黄色シルト、灰色系のシルト、明褐色シルトで構成され、6 層に分層できる。検出位置から、この溝は 1 次調査で検出した 4 溝の延長とみられる。遺物は、須恵器（23 ～ 25）、土師器、黒色土器片などが出土した。

《ピット》

202 ピット（図 12、写真図版 7）

調査区の中央で検出したピットである。直径は 0.30 m、残存する深さは 0.21 m である。断面形は U 字形であり、上層が土器片・マンガン粒を含む灰色シルト、下層が土器片を含むオリーブ褐色シルトで、レンズ状に堆積する。

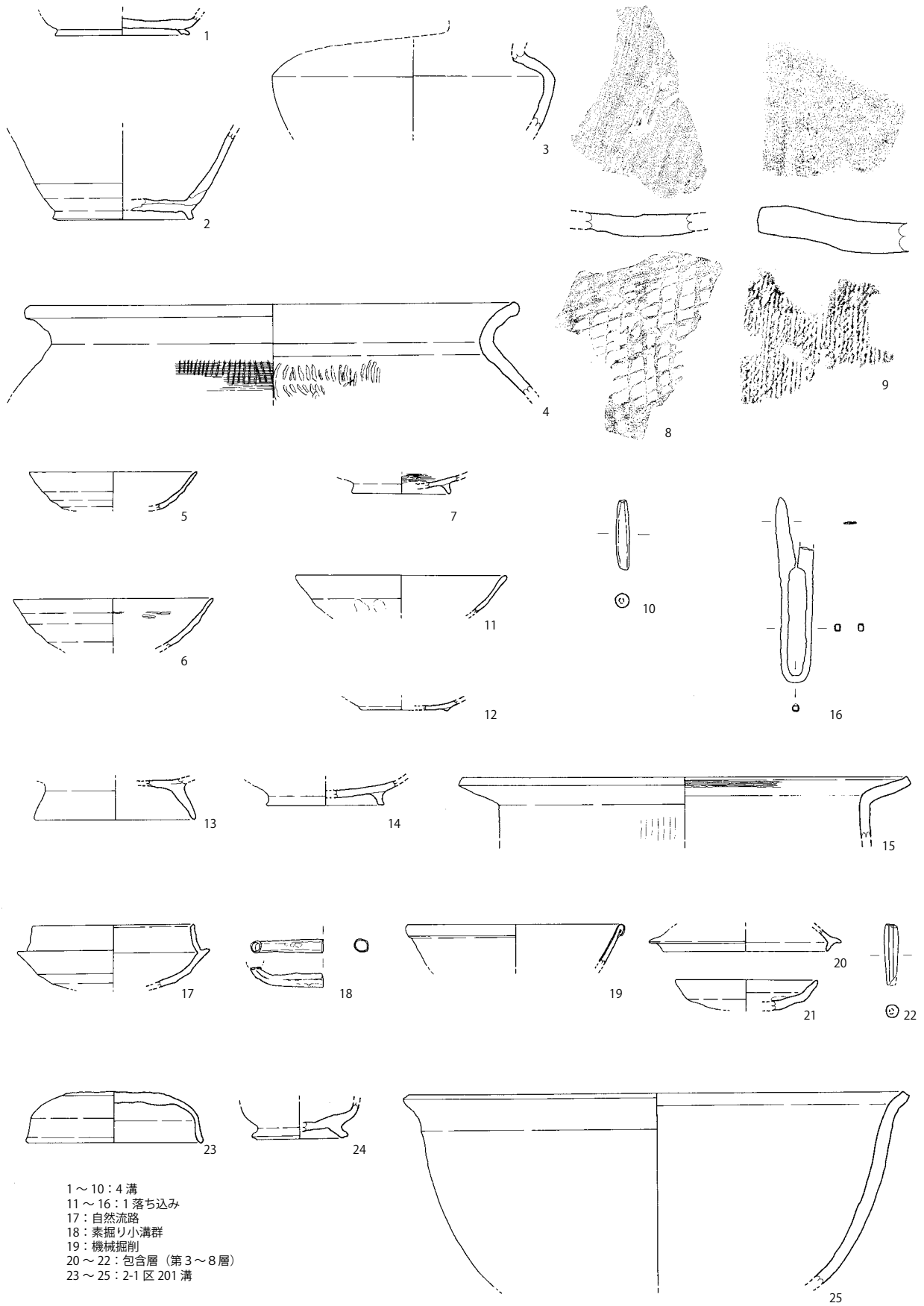


図 13 第 1 次調査、第 2 次調査 2-1 区出土遺物実測図 (S=1/4)

第2節 第2次調査の成果 (2-2区・2-3区)

1. 調査の概要

第2次調査の調査対象である2区は、1区の南北両端に位置する。第2次調査では、1区の北側に位置する小さな調査区を2-1区とし、1区の南側に位置する調査区を2つに分割して北から2-2区、2-3区として調査を行った。調査対象地は東西13m、南北合計105m、面積合計1,782㎡で、調査前までは2-1区は水路、2-2区・2-3区は駐車場として利用されていた。

この調査では、2-1区にてピット1基と、1区の溝4と同一とみられる溝を検出したため、2-1区の検出遺構・出土遺物については本書の14ページに記載した。

2-2区・2-3区では、自然流路と低湿地に挟まれた微高地上に古墳時代の遺構が広がっており、竪穴建物12棟、掘立柱建物1棟、複数条の溝を検出した。検出した竪穴建物の多くが平面形方形・4本柱であった。

2. 基本層序 (図14、写真図版9)

2-2区・2-3区の基本層序は下記の10層である。

第0層は、現代の盛土である。

第1層は、鉄分・マンガン粒を含む黄灰色シルトで、現代～近代の耕作土である。

第2層は、鉄分を含む黄灰色砂混シルトで、近世以降の耕作土である。

第3層は、マンガン粒を含む灰黄褐色シルトで、近世の耕作土である。

第4層は、灰白色シルトで、中世の層である。

第5・6層は、褐灰から黄灰色の粘土、砂混シルトで、古墳時代までの層である。

第7層は、灰色の粘土で、古墳時代の土師器・須恵器・製塩土器を含む古墳時代の遺物包含層である。遺構面はこの下面に展開する。

第8層・第9層は、マンガン粒を含む細砂層で、基盤層である。

なお、2-3区南端より北に17～20mまでは湿地帯が広がり、数条の溝状遺構を検出したが、

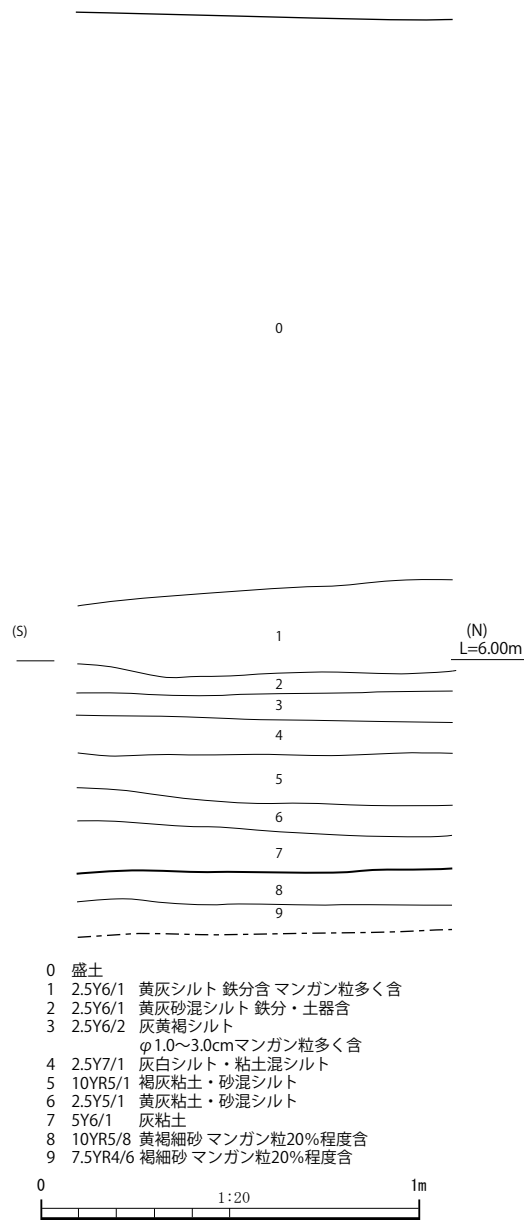


図14 第2次調査基本層序 (S=1/20)

いずれも浅いため、後世に削平された可能性がある。

3. 検出遺構と出土遺物

《竪穴建物》

竪穴建物 211 (写真図版 9)

2-3 区の北側西寄りで検出した竪穴建物である。この竪穴建物の南半部には 210 溝が重複しており、残存部の平面形は方形を呈し、規模は東西 3.00 m 以上、南北 1.20 m 以上、残存する深さ 0.34 m である。主柱穴は北半部の 2 基を確認でき、柱間は 2.10 m である。埋土は 3 層に分層でき、明黄褐色および黄褐色を呈するシルトであるが、いずれの層もマンガン粒を含み、少量ながら遺物も含まれていた。柱穴の掘方は円形で、直径 0.20 ~ 0.25 m、深さは 0.14 m である。また、北壁と東壁から幅 0.12 ~ 0.15 m の壁溝を検出している。210 溝の底で検出した 282 土坑は、建物の中央付近に位置することから、炉の可能性も考えられる。遺物は古墳時代の土師器片・製塩土器片が出土した。

竪穴建物 277 (図 16 ~ 18・32・写真図版 9、10)

2-2 区・2-3 区では、竪穴建物 277・278・280・291 の重複した 4 棟を検出した。竪穴建物 277 は重複する 291 竪穴建物より後出し、北西端は調査区外のため不明である。建物の規模は東西 4.20 m、南北 3.90 m である。深さは 0.40 m、埋土は炭を含む褐灰シルトの単層である。主柱穴は 4 基で、掘方の直径は 0.50 ~ 0.60 m、深さは 0.40 ~ 0.50 m である。柱間は東西 2.10 m、南北 2.00 m である。建物の北および西の壁際で幅 0.10 ~ 0.15 m の壁溝を検出した。床面上で炭化材を検出したことから、焼失住居と考えられる。遺物は、古墳時代の土師器 (26・28・29)、弥生時代後期末ごろの土器 (27) が出土したが、27 は混入と考えられる。

竪穴建物 278 (図 16・19・33、写真図版 11、12)

重複する竪穴建物 280 に先行し、竪穴建物 291 に後出する。建物の規模は東西 6.60 m、南北 6.50 m を測り、平面形は方形を呈する。残存する深さは 0.06 ~ 0.22 m である。主柱穴は 3 基を検出したが、4 基あると推定される。掘方の直径は 0.40 m、残存する深さは 0.21 ~ 0.35 m、柱間は 3.30 ~ 3.35 m である。東西の壁際の一部に幅 0.06 ~ 0.08 m の壁溝があった他、南東の壁沿いに貯蔵穴とみられる 312 土坑が築かれていた。312 土坑は方形を呈し、規模は長軸 1.35 m、短軸 1.05 m、深さは 0.37 ~ 0.47 m である。断面形は逆台形で、埋土は上層から灰白色シルト、遺物を含む暗褐色シルト~細砂、遺物を含む黄褐色シルト~細砂、遺物細片を多く含む暗褐色シルト~細砂である。建物の東壁には 301 カマドが取り付く。袖は削り出しであり、焚口及び燃焼部は幅 0.40 ~ 0.70 m、奥行きは 0.95 m である。煙道は焼成部からまっすぐ延びている。301 カマドからは、砂岩 (38) が立った状態で見つかった。38 は、被熱していることや出土位置から、301 カマドの支脚とみられる。遺物は、古墳時代の須恵器 (30・31)、土師器 (32 ~ 37) が出土した。このうち 32 ~ 34 は 301 カマドから、35 は 328 土坑から出土している。

竪穴建物 280 (図 16・20・32、写真図版 11)

重複する竪穴建物 278・291 に後出する建物で、平面形は方形である。建物の規模は東西 4.70 m、南北 4.60 m を測り、残存する深さは 0.23 ~ 0.26 m である。主柱穴は 4 基で、掘方の直径は 0.30 ~ 0.35 m、残存する深さは 0.22 ~ 0.30 m である。柱間は東西 2.30 m、南北 1.85 m

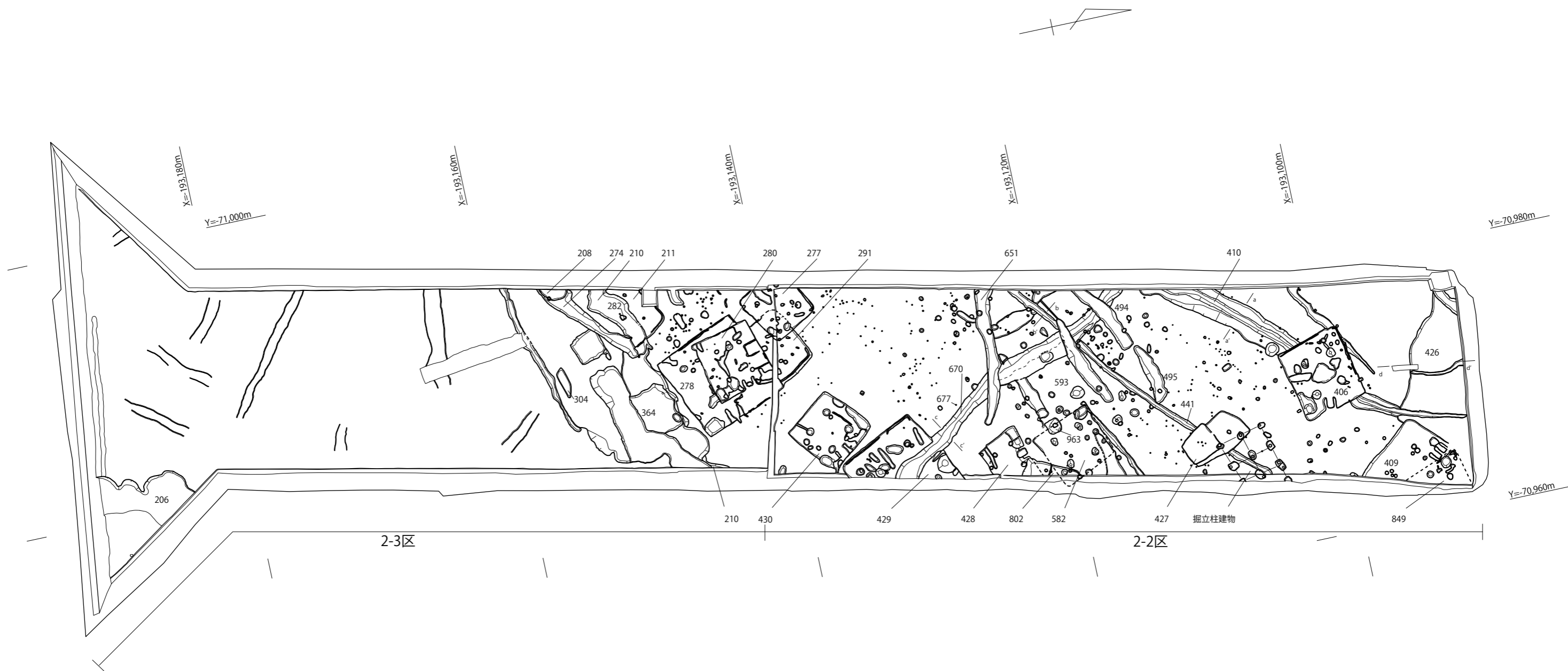


図15 第2次調査2-2区・2-3区遺構全体図(S=1/300)



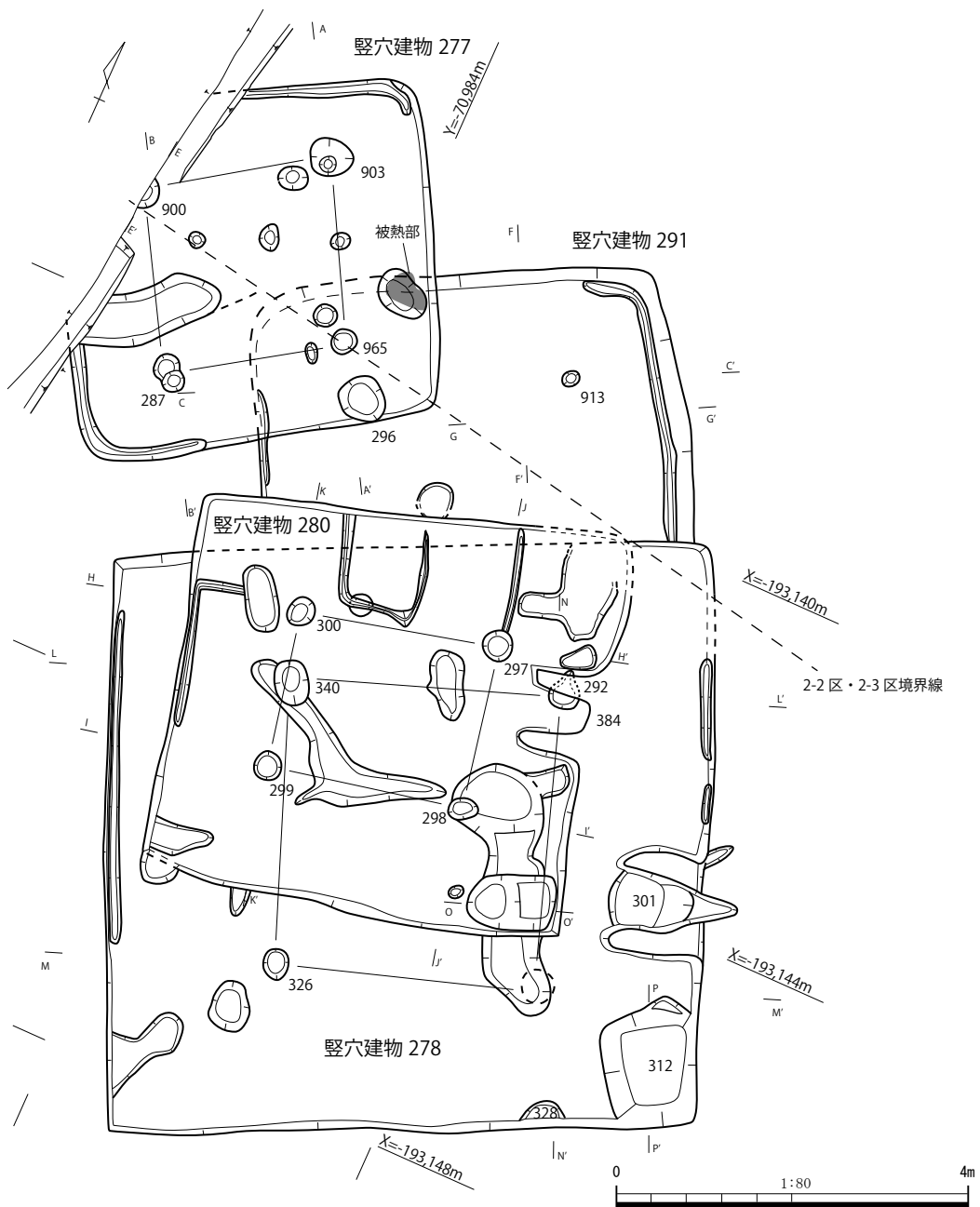


図16 竪穴建物277・278・280・291平面図(S=1/80)

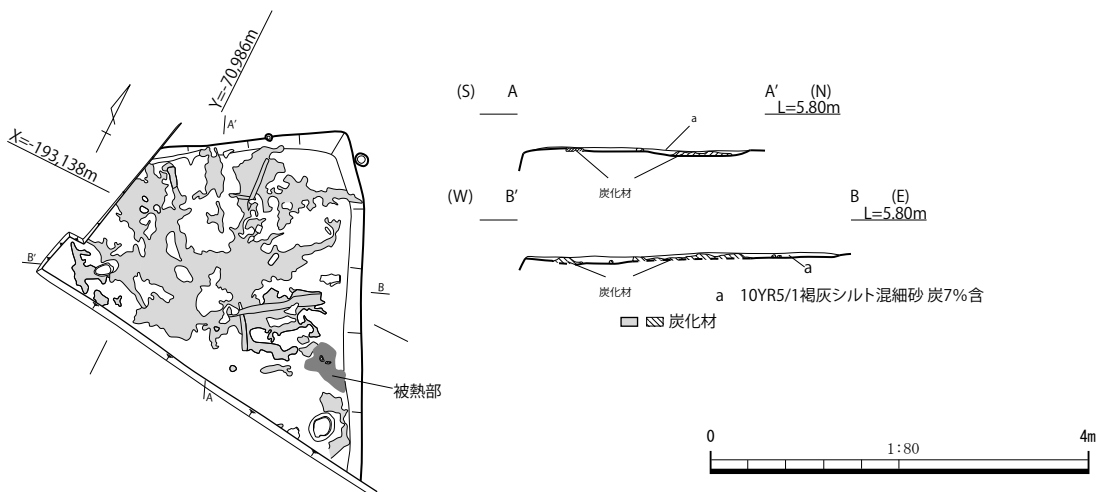


図17 竪穴建物277炭化材出土状況実測図(S=1/80)

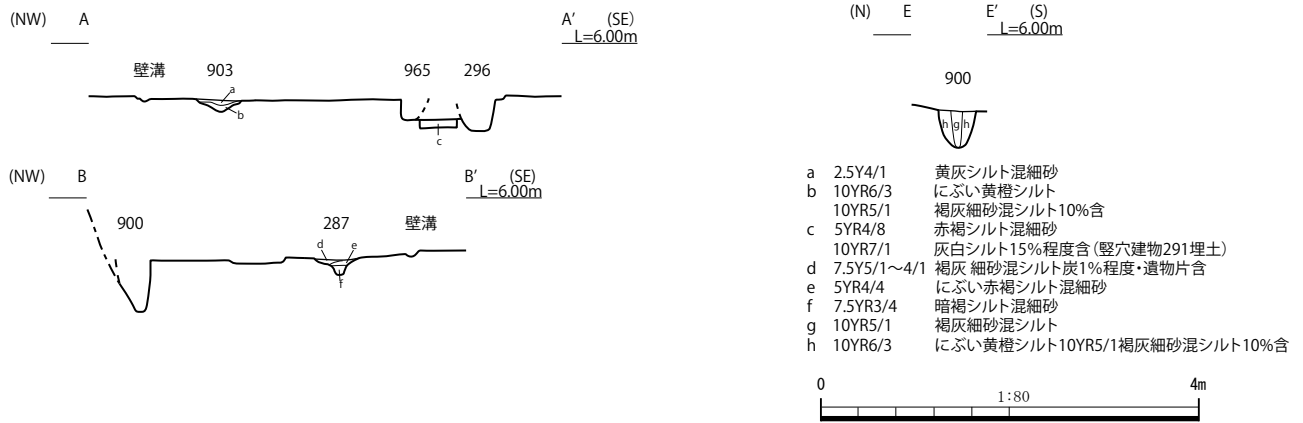


図18 竪穴建物277関連遺構断面図・エレベーション図(S=1/80)

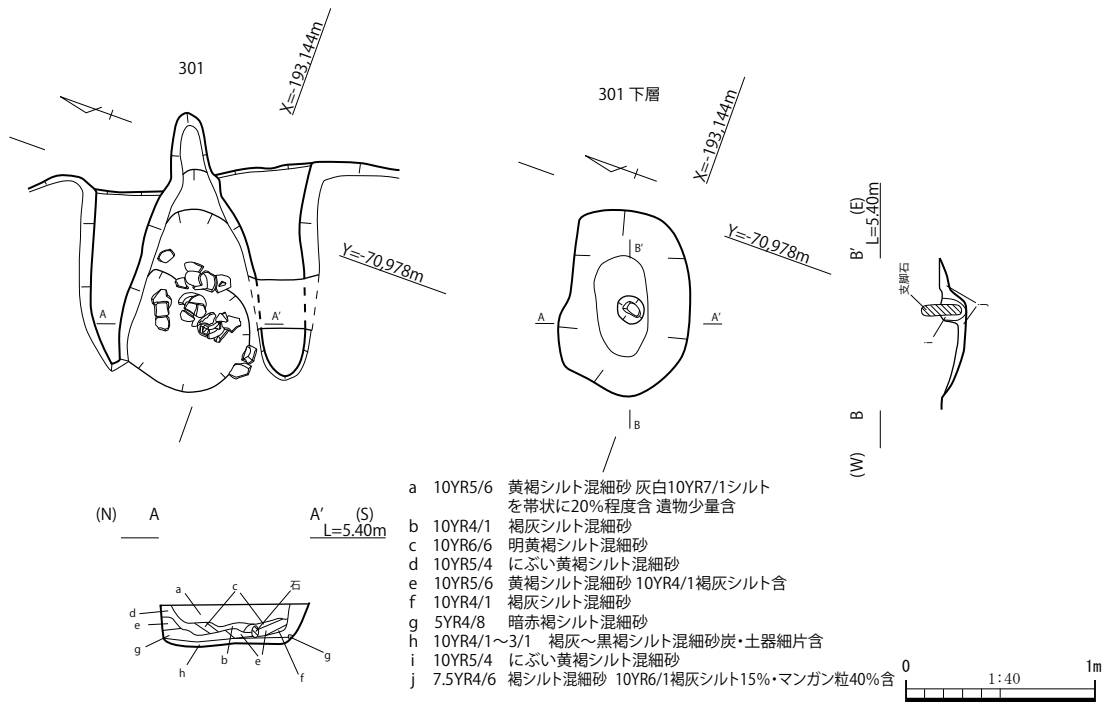
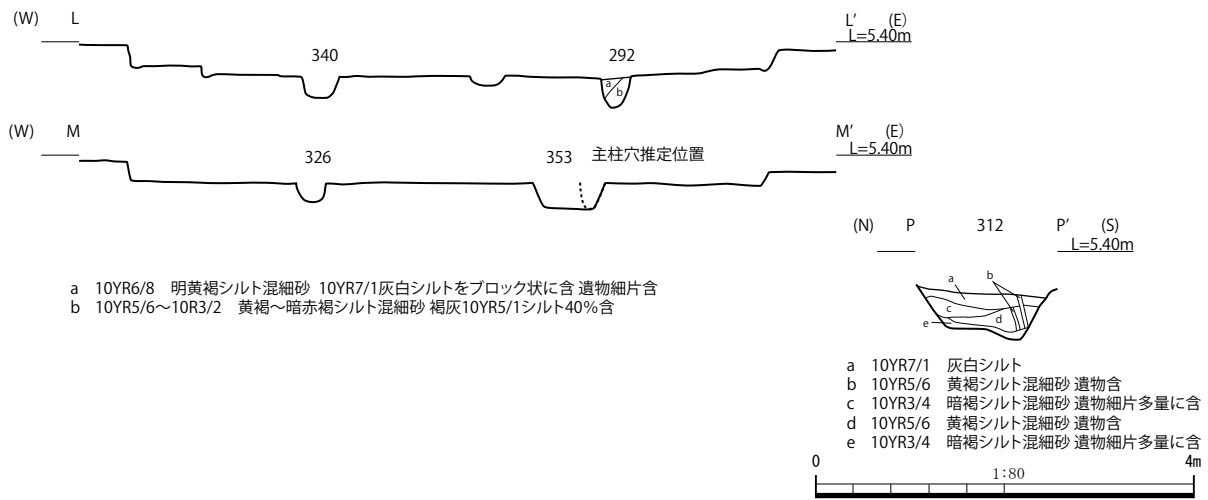


図19 竪穴建物278実測図(S=1/80・1/40)

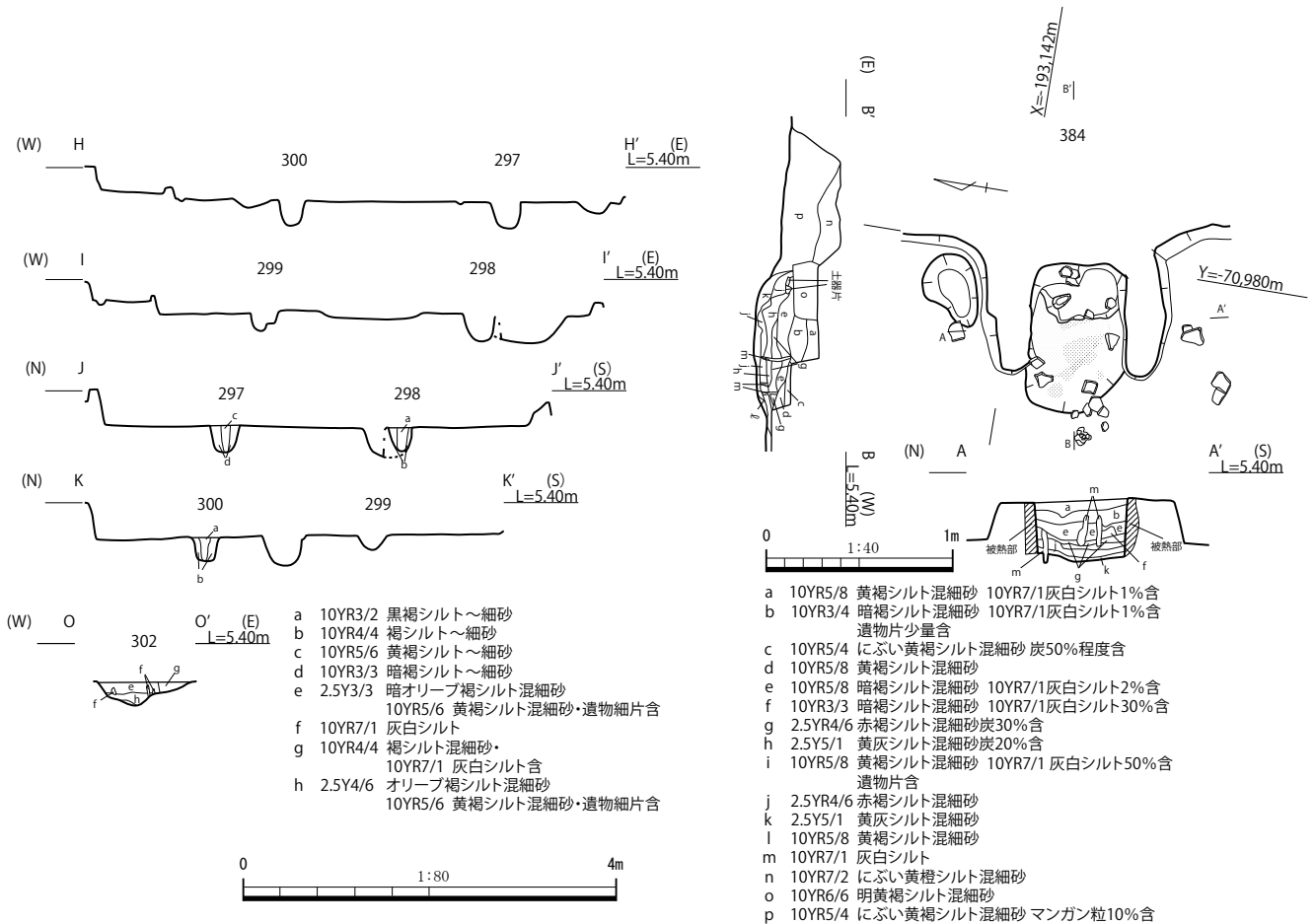


図20 竪穴建物280実測図 (S=1/80・1/40)

である。建物の東壁ほぼ中央に 384 カマドが取り付く。384 カマドの袖は削り出しであり、焚口及び燃焼部の幅が 0.50 m、奥行きが 1.2 m である。

遺物は古墳時代の須恵器 (39)、土師器 (40～42)、土製紡錘車 (43) が出土した。

竪穴建物 291 (図 16・21、写真図版 9)

2-2 区・2-3 区の境界付近で検出した 4 棟の竪穴建物のうち最古のものである。調査区内では建物の北半部を検出したが、建物の多くの部分がほかの竪穴建物により削平されている。建物の平面形は方形で、東西 4.70 m、残存する南北が 3.10 m である。残存する深さは 0.10～0.14 m である。埋土は赤褐色シルト混細砂の単層である。また、建物の東壁で 0.12 m の壁溝を検出した。

遺物は、土師器の高杯、壺ないしは甕の底部が出土した。高杯は無段高杯である。なお、須恵器は確認されなかった。

竪穴建物 406 (図 22・32・33、写真図版 13)

2-2 区の北側中央で検出した、410 溝の埋没後につくられた竪穴建物である。平面形は方形を呈し、規模は東西 5.66 m、南北 5.50 m である。残存する深さは 0.12～0.14 m である。埋土

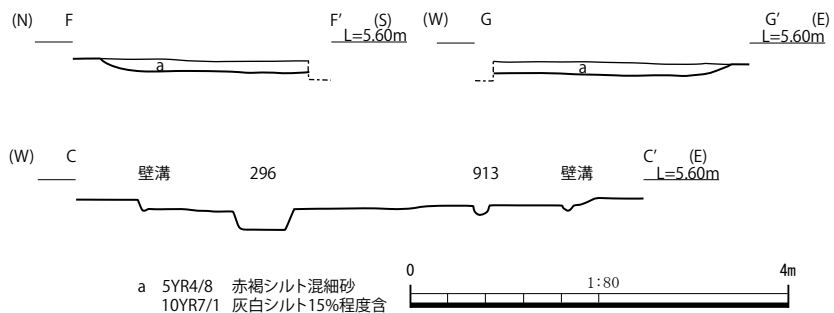
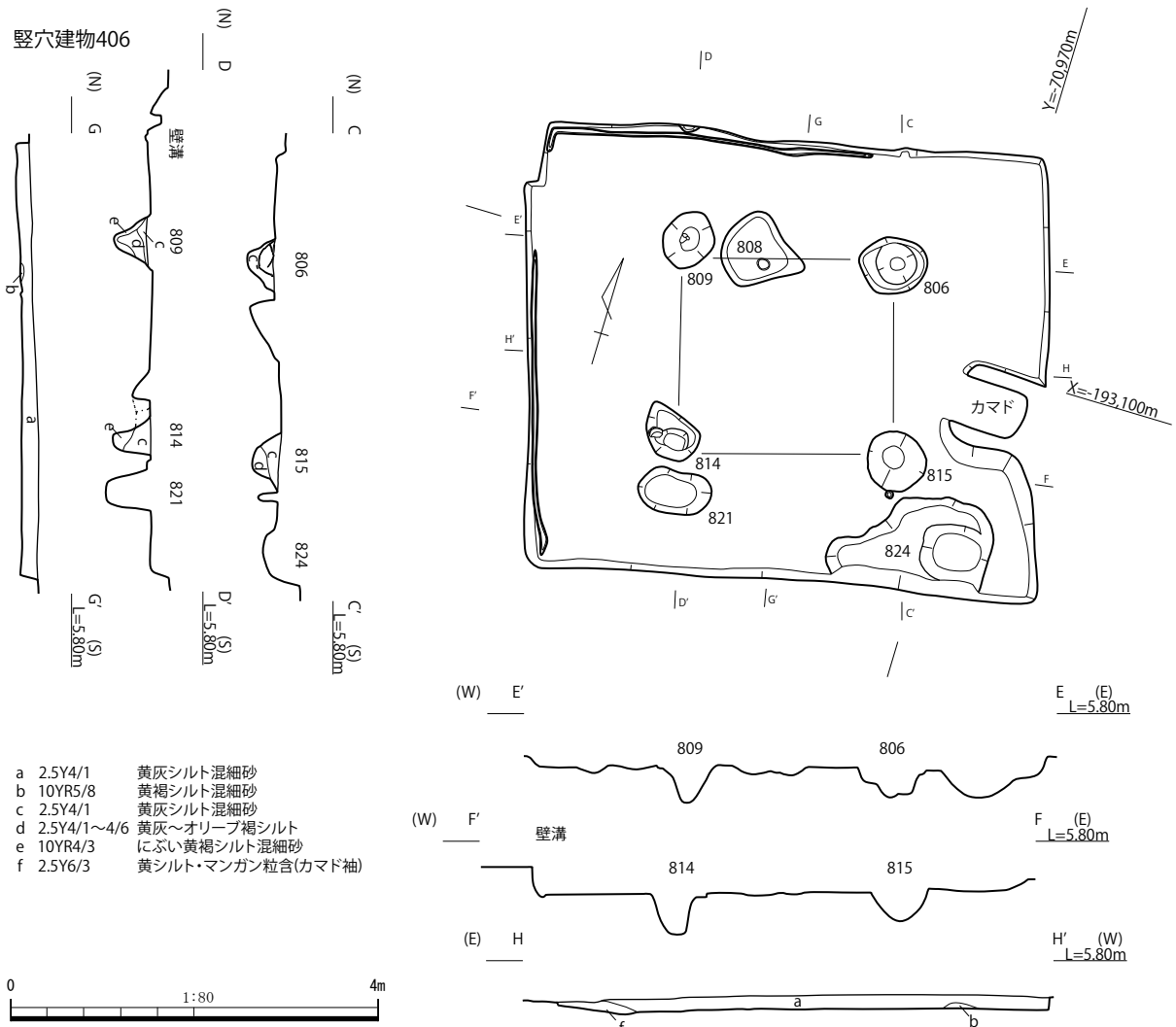


図21 竪穴建物291土層断面図・エレベーション図 (S=1/80)



竪穴建物406内カマド

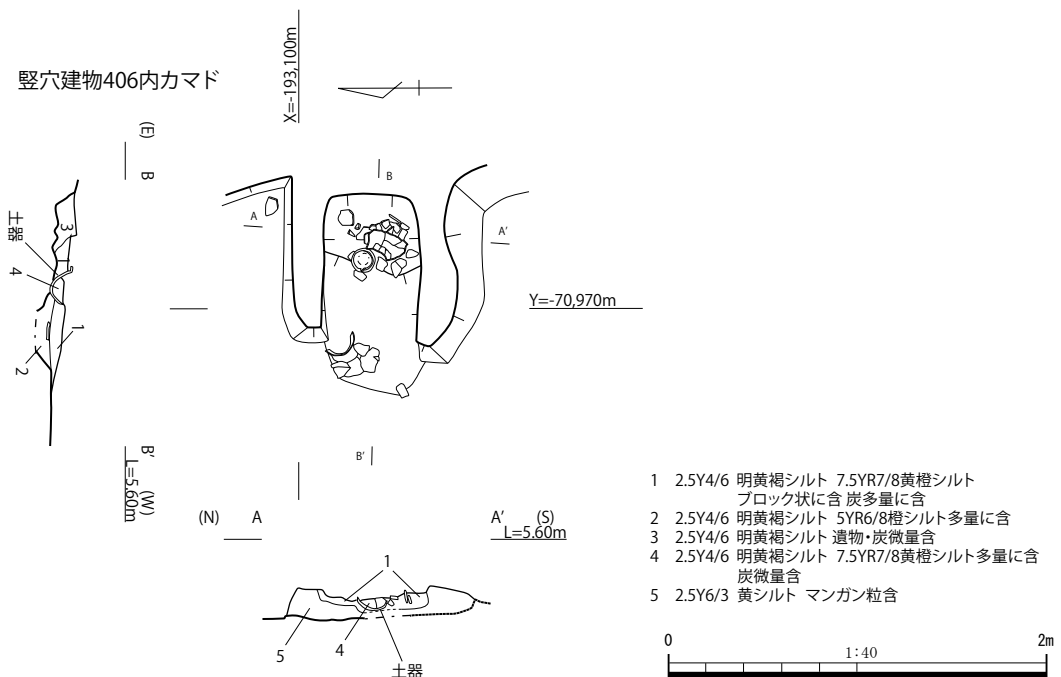


図22 竪穴建物406実測図(S=1/80・1/40)

は主に黄灰色シルト混細砂で構成されている。主柱穴は4基で、掘方の直径は0.50～0.70 mの楕円形、深さ0.25～0.42 mである。柱間は東西2.15 m、南北2.30 mである。主柱穴のうち806柱穴から把手付鍋(56)などが出土した。この鍋は806柱穴から完形で出土したことから、建物の廃絶に伴って埋められたものとみられる。北壁の一部と西壁で壁溝が確認されており、残存する幅は0.10～0.15 mであった。カマドは竪穴建物の東壁中央付近に設置されている。断面から判断すると、カマドの袖は貼り付けとみられる。焚口及び燃烧部は建物内に収まり、幅は0.45 m、奥行きは0.75 mである。煙道は削平されており確認できなかった。カマドの燃烧部に土器が複数確認された。建物の南辺からは土器を伴う824土坑を検出したが、この土坑は竪穴建物の貯蔵穴の可能性はある。

遺物は古墳時代の須恵器(44～47)、土師器(48～59)、製塩土器(60)、砥石(61)が出土した。このうち45・48・54・55・58・59はカマドから、44・47・50・52は824土坑から出土した。

竪穴建物 409 (図 33)

2-2区の北端で確認された竪穴建物である。東側が調査区域外となり、竪穴建物 849によって削平されることから全容は明らかになっていないが、カマドの位置などから、平面は東西5.50 m以上、南北3.80 mの長方形を呈すると考えられる。深さは0.55 m、埋土は黄褐～オリーブ褐色系のシルト混細砂が5層堆積する。建物の北東隅で2連のカマドを検出した。カマドの焼成部は、ともに幅0.30～0.55 m、奥行き0.75 mである。2連のカマドをもつ竪穴建物については、過去の調査(県1～5)において2棟確認されている。建物の平面形を長方形とした場合、柱間2.45 mの2本柱であった可能性があり、ほぼ同じ位置で複数の柱穴が検出されたことから、建て替えの可能性が考えられる。

遺物は、埋土から須恵器(62)、カマドから須恵器(63)、土師器(64)が出土した。

竪穴建物 428 (図 23・33、写真図版 14・15)

2-2区の東端で検出した竪穴建物である。調査区内では建物の西半分及び主柱穴、カマド、貯蔵穴を確認した。東端は竪穴建物 802と一部重複し、更に調査区外となるため不明である。主

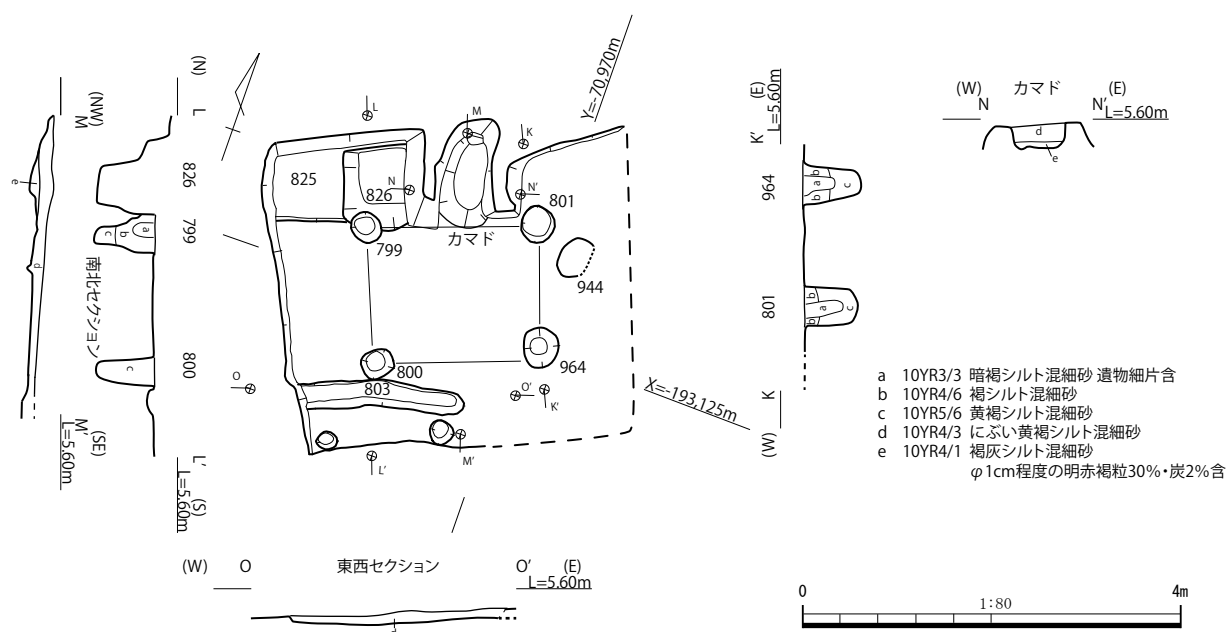


図 23 竪穴建物 428 実測図 (S=1/80)

柱穴の位置から建物の規模と形を推定すると、建物規模は東西 2.80 m 以上、南北 3.30 m の方形と考えられる。残存する深さは 0.10 ~ 0.20 m で、埋土は炭を含む褐灰色シルト混細砂である。主柱穴は 4 基であり、掘方の直径は 0.30 ~ 0.40 m、深さ 0.60 m である。柱間は東西 1.80 m、南北 1.50 m である。建物の北壁中央にはカマドが設置されている。カマドからは、側面に被熱を受け支脚とみられる砂岩 (72) が出土した。断面から判断するとカマドは削り出しのカマドであり、カマドの西に隣接して 826 貯蔵穴を検出した。826 貯蔵穴は南北 1.05 m、東西 0.85 m の方形を呈し、残存する深さは 0.56 m である。遺物は竪穴建物の埋土から須恵器 (66 ~ 68)、土師器 (69)、製塩土器が出土した。貯蔵穴 826 の上層から古墳時代の須恵器 (65)、土師器 (70・71) が出土した。

竪穴建物 429 (図 24・34、写真図版 15・16)

2-2 区の南東部で検出した竪穴建物で、重複する 670 溝に先行する。本建物の南東部分は調査区外のため全容を確認できなかった。残存する西半分から、平面形は方形、規模は東西 6.50 m 以上、南北 6.40 m と推定される。残存する深さは 0.20 ~ 0.30 m である。埋土は上から黄灰シルト混細砂とにぶい黄褐シルト混細砂の 2 層に分層できる。建物の西側には幅 0.10 ~ 0.20 m の壁溝が残存していた。主柱穴は 4 基であり、掘方は 0.55 ~ 0.60 m の楕円形で、残存する深さは 0.30 ~ 0.50 m である。柱間は東西 3.40 m、南北 3.60 m である。貯蔵穴とみられる 930 土坑は北壁に取り付く。規模は東西 1.40 m、南北 1.00 m のほぼ半円形を呈しは 0.40 m である。埋土は上層からオリーブ褐色シルト混細砂、暗灰黄色シルト混細砂の 2 層に分層できる。930 土坑の西側に隣接したカマドは 670 溝に削平され、東袖のみ残存していた。

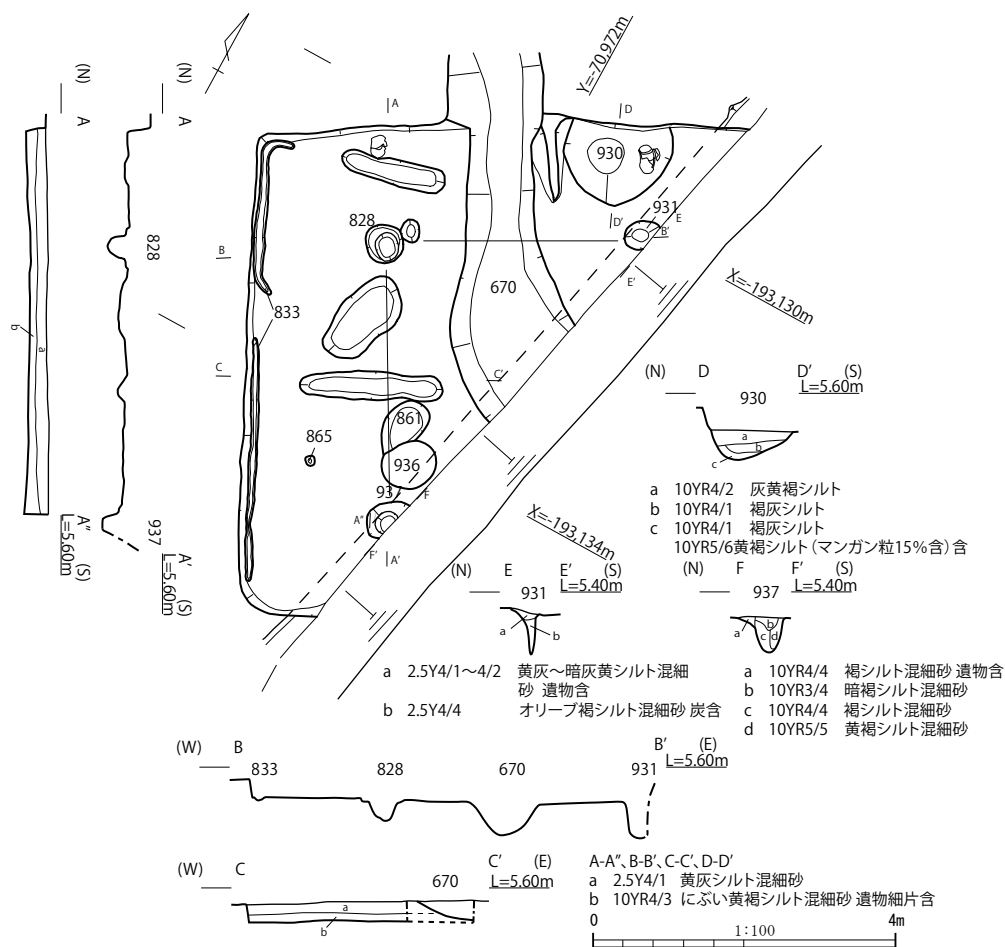


図24 竪穴建物429実測図 (S=1/100)

遺物は古墳時代の須恵器（73～75）、土師器（76～80）、製塩土器（81・82）などが出土した。このうち79はほぼ完形の土師器甕で、北辺の貯蔵穴と考えられる930土坑の埋土上層から出土した。

竪穴建物 430（図25・34、写真図版16～18）

竪穴建物429の南で検出した。平面形は方形を呈し、建物規模は東西4.50m、南北4.40m、残存する深さは0.18～0.22mである。埋土は水平堆積で、上から褐色シルト混細砂と灰黄褐色シルト混細砂の2層である。主柱穴は4基で、各主柱穴の平面形は径0.40～0.55mの円形をなす。柱穴の断面形はU字形を呈し、残存する深さは0.45～0.50mである。柱間は1.90～2.00mである。柱当りは褐灰色シルト混細砂であり、掘方は黄褐色シルト混細砂の上に黄灰色シルト混細砂がレンズ状に堆積する。カマドは竪穴建物の北壁に取り付き、貼り付け袖である。焚口及び燃焼部の幅は0.66m、奥行きは1.04mである。煙道はカマドからL字形に延びている。また、カマドの燃焼部では、上から逆位の杯部（88）、正位の脚部（89）、逆位の杯部（90）の順に高杯が重ねられていた（写真図版17-3）。破損した高杯を重ねて支脚に転用した可能性が高い。建物の南壁に取り付く842土坑は貯蔵穴で、平面形は楕円形を呈し、規模は東西1.10m、南北0.65mである。断面形は逆台形を呈し、深さは0.36mで、埋土は黄褐色シルト混細砂の単層である。

遺物は須恵器（83）、土師器（84～93）、土錘（94）が出土した。そのうち、838柱穴から須恵器（83）、土錘（94）が出土し、建物内の842土坑からは土師器（85）が出土した。カマドからは支脚の高杯以外にも土師器（84）や製塩土器片が出土した。

竪穴建物 582（図26・34、写真図版18）

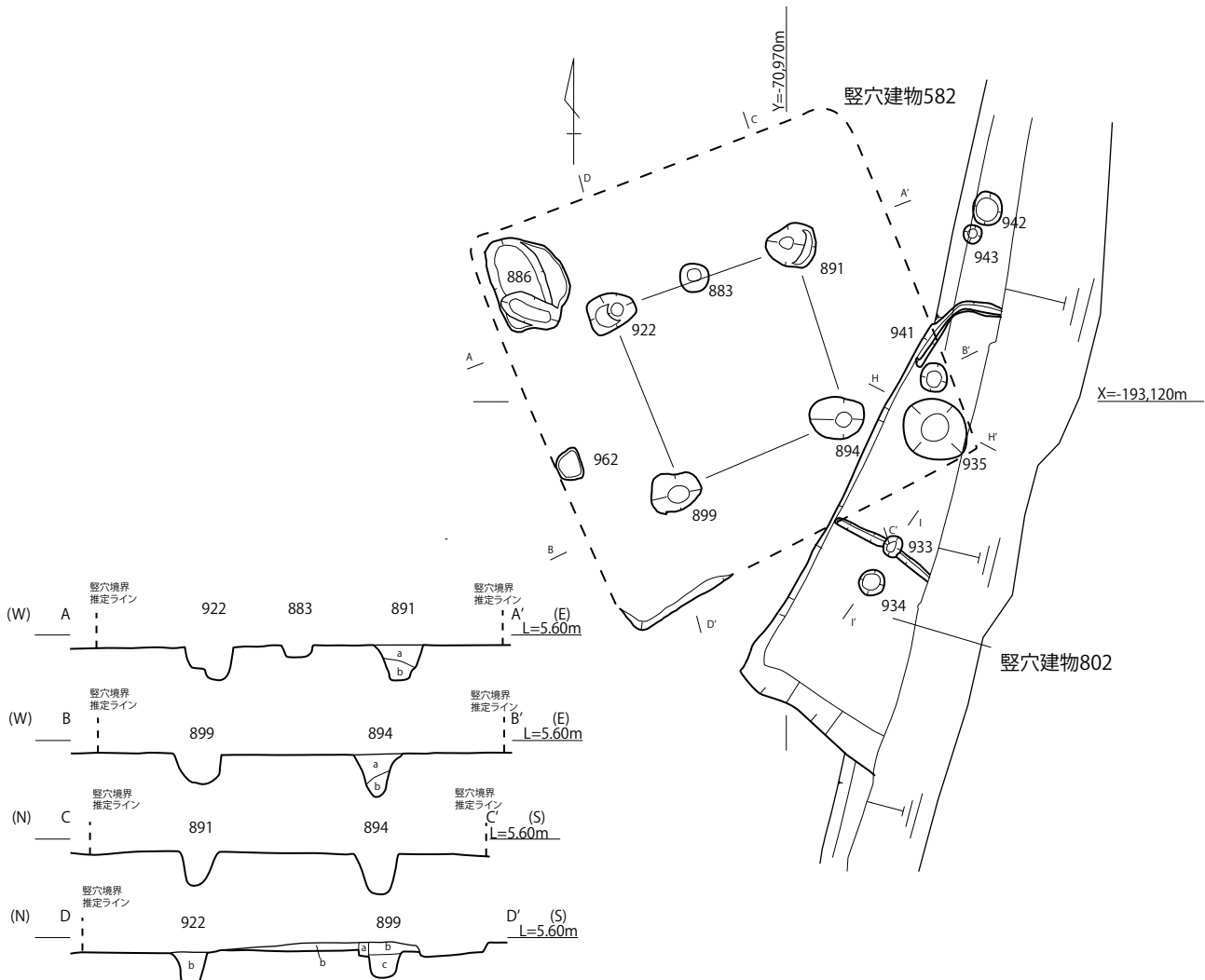
2-2区の中央部東端で確認された建物である。竪穴建物の輪郭は確認が困難であり、建物南西部の壁面とみられる箇所を確認したのみであった。竪穴建物の柱穴と南西隅の位置から復元した建物規模は東西4.60m、南北4.60mである。主柱穴は4基で、柱穴の規模と形は長径0.55～0.65m、短径0.45～0.50mの楕円形である。残存する深さは0.40～0.50mで、埋土は主に灰白色シルトと黄灰色シルト混細砂の2層である。柱間は2.00～2.20mである。建物の西辺で検出した遺構962は、袖や煙道が検出されなかったが、窪み部の壁と平面が焼け、中央に支脚石が確認されたためカマドとみられる。焚口及び燃焼部とみられる窪み部の規模と形は東西0.30m、南北0.35mの楕円形で、残存する深さは0.18mである。建物北西端の土坑886は、貯蔵穴の可能性がある。土坑の規模と形は東西0.82m、南北1.04mの楕円形である。断面形は中央部が段をなして窪み、残存する深さは0.18mである。埋土は黄褐色シルト混細砂の単層である。

遺物は、竪穴建物から須恵器（95～97）が出土した。出土遺物から、この遺構は古墳時代後期に帰属するとみられる。

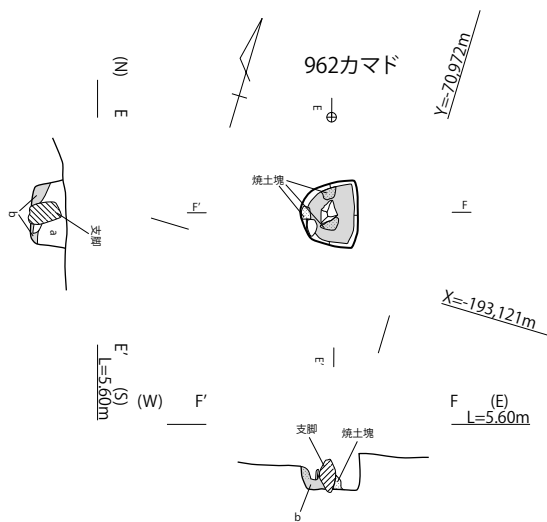
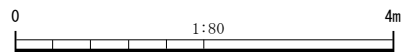
竪穴建物 802（図26・27・34、写真図版19）

2-2区東端で検出した竪穴建物である。調査区内では、南西隅のみ確認することができたが、その他は調査区外のため不明である。重複する428竪穴建物に後出する。検出した部分の形状から平面形は方形とみられ、南北5.1mである。

遺物は、建物内から古墳時代の土師器（99・100）、935土坑から須恵器（98）と製塩土器（101）が出土した。出土遺物から、遺構は古墳時代時代中～後期前半に帰属するとみられる。



- a 2.5Y7/1 灰白シルト
- b 2.5Y4/1 黄灰シルト混細砂
- c 2.5Y4/1 黄灰シルト混細砂 2.5Y4/6オリーブ褐シルト含



- a 7.5YR4/3 褐シルト
- b 10YR4/4 褐シルト混細砂 7.5YR4/6褐焼土塊・炭・遺物含

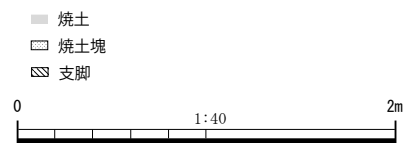


図26 竪穴建物582・802実測図 (S=1/80・1/40)

竪穴建物 849 (図 34)

竪穴建物 409 と重複して確認された竪穴建物である。調査区内では調査区東壁及び北西の壁溝のみ確認することができ、その他は調査区外のため不明である。調査区東壁及び北西隅にのみ残存する壁溝から、平面形は方形、規模は東西 2.50 m 以上、南北 3.40 m 以上と推定される。

遺物は土師器、製塩土器 (102・103) が出土したことから、この遺構は古墳時代後期に帰属するとみられる。

《掘立柱建物》

掘立柱建物 (図 28、写真図版 19)

2-2 区の北東部で検出した総柱建物である。建物の規模は桁行 (東西) 3 間以上、梁行 (南北) 2 間の東西 4.50 m 以上、南北 3.30 m である。柱間は桁行 1.75 m、梁行 1.55 m である。柱穴の掘方は東西に長い隅丸方形を呈し、規模は 0.40 ~ 0.80 m、残存する深さは 0.50 ~ 0.80 m である。埋土は灰黄褐~黒褐色シルト混細砂、柱当りは暗褐~黒褐色シルト混細砂である。950 柱穴では異なる高さで 2 基の柱当りを検出したことから、この建物は柱穴の据え直しを行ったとみられる。

遺物は、柱穴から古墳時代の土師器、製塩土器片が出土した。

《竪穴状遺構》

竪穴状遺構 364 (図 35)

竪穴建物 278 の南側で検出した。竪穴建物の可能性があるが、柱穴、壁溝等が確認されなかったため、竪穴状遺構とする。北半部を確認することができるが、南辺は遺構が重複し不明である。残存部の平面形は歪んだ方形であり、規模は東西 3.80 m、南北 2.80 m 以上、残存する深さ 0.36 m である。遺物は古墳時代の須恵器 (104)、土師器 (105) が出土した。出土遺物から、この建物は古墳時代前期に帰属するとみられる。

竪穴状遺構 427 (図 35)

2-2 区の北半部で検出した遺構で、重複する溝 441 に先行し、掘立柱建物に後出する。柱穴・壁溝等が確認されなかったため、竪穴状遺構とする。平面形は長方形を呈し、規模は東西 1.80 ~ 2.00 m、南北 2.40 m、残存する深さは 0.08 ~ 0.12 m である。遺物は古墳時代の須恵器 (106・107)、土師器 (108・109)、製塩土器が出土した。

《土坑・ピット》

208 土坑 (図 35)

2-3 区の西端部で検出した土坑である。調査区内では土坑の東側を検出し、西側については調査区外のため不明である。残存部の平面形は半円形であり、規模は南北 2.20 m、東西 0.80 m 以上、残存する深さ 0.25 m である。出土遺物は古墳時代の須恵器 (110)、土師器、製塩土器、古代の土師器、製塩土器である。

677 ピット (図 36)

2-2 区、670 溝の南に隣接するピットである。遺物は弥生後期の土器 (157) が出土した。

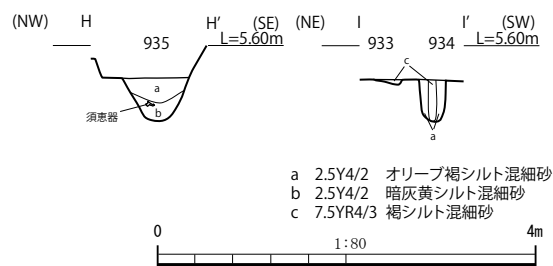


図27 竪穴建物802土層断面図 (S=1/80)

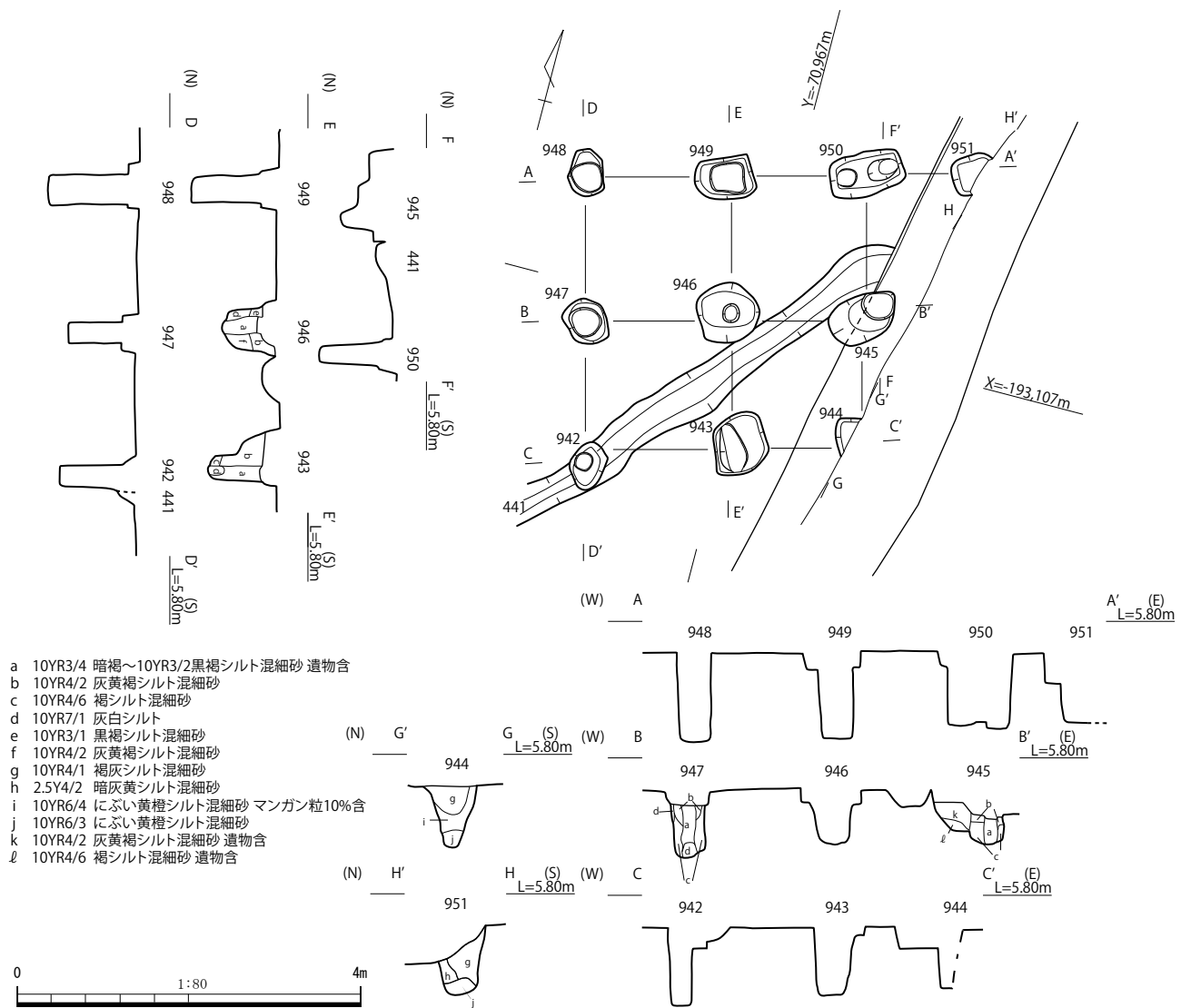


図28 掘立柱建物実測図(S=1/80)

304 土坑 (図 35)

2-3 区の中央部で検出した土坑である。平面形は東西に長い方形を呈し、規模は東西 2.00 m、南北 0.65 m、残存する深さ 0.15 m である。遺物は古墳時代の土師器、須恵器 (111)、製塩土器が出土した。

593 土坑 (図 35)

2-2 区、竪穴建物 582 の西に位置する土坑である。平面形は円形を呈し、径 0.88 m、残存する深さ 0.65 m である。断面形は V 字形で、埋土は上から、黄灰色シルト混細砂と暗灰黄色シルト混細砂の 2 層である。遺物は須恵器杯身 (113)、土師器片が出土した。

963 土坑 (図 29・35、写真図版 20)

竪穴建物 582 に属する 962 カマドの下層で検出した土坑である。平面形は方形、土坑の規模は東西 1.05 m、南北 1.05 m である。断面は逆台形で、残存する深さは 0.80 m である。土層は上層から黄褐色シルト混細砂、暗褐色シルト混細砂、褐色シルト混細砂の 3 層である。残存する深さ 0.5 m の地点でほぼ完形の土師器甕 (114～117) が埋められていた。このほか、土坑からは土師器鉢の破片 (118) も出土した。出土遺物から、この遺構は古墳時代後期に帰属するとみられる。

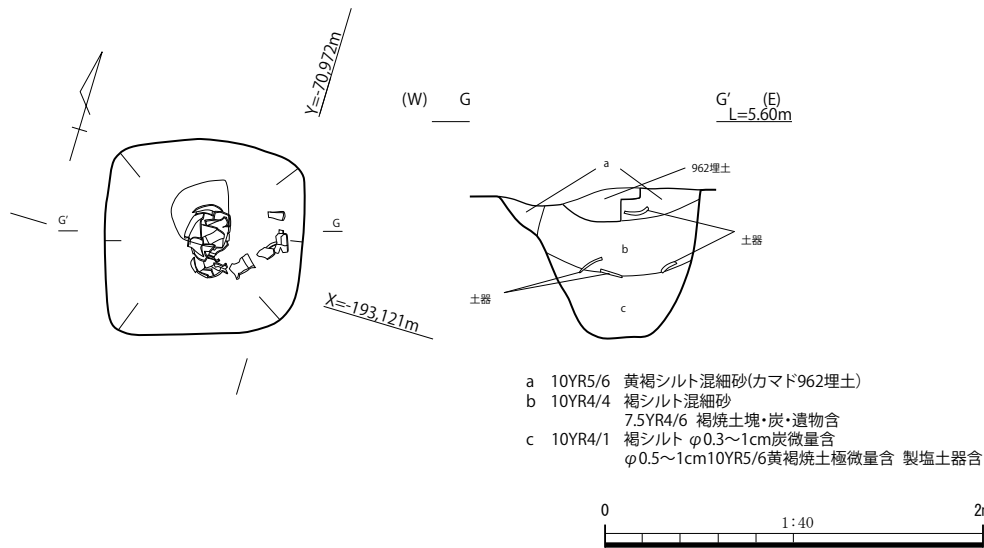


図29 963土坑土器出土状況図・土層断面図(S=1/40)

《溝・流路》

210 溝 (図 35)

2-3 区の北部で検出した、東西方向へ蛇行しながら延びる溝である。溝の両端は調査区域外に延びる。重複する竪穴建物 211、竪穴状遺構 364 に後出し、274 溝に先行する。遺構の幅は 2.00 ~ 3.00 m である。断面形は皿型を呈し、残存する深さは 0.55 ~ 0.80 m である。埋土は黄褐色系シルトで、3 層に分層できる。底面で完形に近い須恵器杯蓋 (119) や、土師器甕 (120) などが出土した。出土遺物から、この遺構は古墳時代後期に帰属するとみられる。

274 溝 (図 35)

2-3 区の北部、210 の南で検出した溝である。検出した長さは東壁から 9.00 m、幅は 0.55 ~ 1.20 m、残存する深さは 0.36 m である。断面は船底形を呈し、埋土は上層から炭を含む黒褐色シルト、オリーブ褐色シルト、黄褐色シルトの 3 層である。この溝は、重複する土坑 208、溝 210 に後出する。遺物は古墳時代の須恵器 (121 ~ 125)、土師器 (126)、製塩土器 (127) が出土した。

410 溝 (図 30・36、写真図版 20)

2-2 区の北端から南西方向へ延びる溝であり、重複する竪穴建物 406 に先行する。検出した長さは 18.47 m、遺構の幅は 1.00 ~ 2.00m で、残存する深さは 0.50 m である。遺構の断面は V 字形であり、埋土は上から黄褐色シルト混細砂とオリーブ褐色シルト混細砂が水平堆積していた。遺物は複数の弥生土器 (128・129)、古墳時代の須恵器 (130)、土師器 (131)、製塩土器が出土した。出土遺物から、この溝は古墳時代後期に帰属するとみられる。

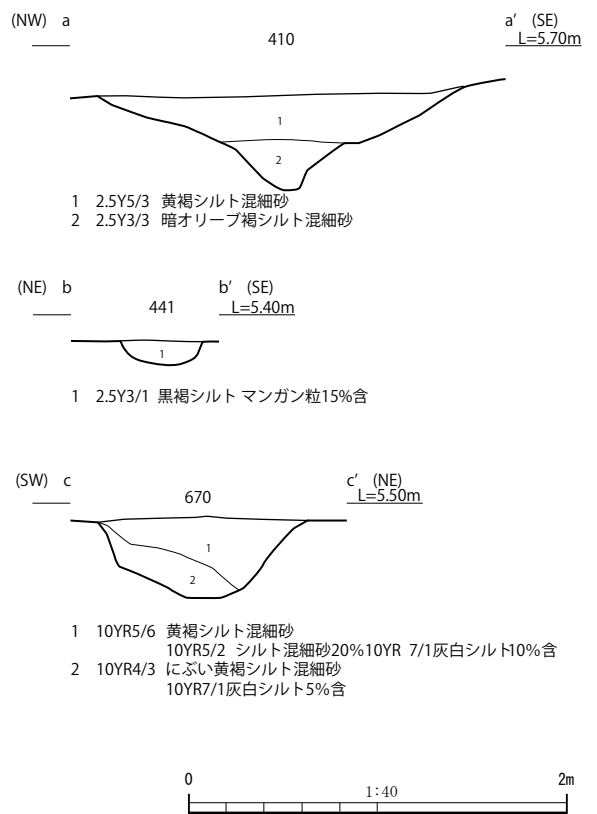


図30 410・441・670溝土層断面図(S=1/40)

441 溝 (図 30・36、写真図版 20)

2-2 区において北東から南西に延びる溝である。遺構の幅は 0.40 m、残存する深さは 0.15 m である。遺構の断面は船底形を呈し、埋土は細砂を含むにぶい黄褐色シルトの単層である。

遺物は須恵器、土師器 (132・133)、製塩土器、弥生土器が出土した。遺物は基本的に 6 世紀のもので構成されるが、タタキを施した弥生土器が混入している。

494・495 溝 (図 36)

2-2 区において北東から南西に延びる溝である。494 溝と 495 溝は発掘調査時別の遺構と考えられていたが、埋土や溝が同一方向に延びることなどから同一遺構と考えられる。検出幅は 1.20 m、残存する深さは 0.20 m である。

遺物は 495 溝から古墳時代の須恵器(134)、土師器(135)、494 溝から土師器(136)が出土した。

651 溝 (写真図版 20)

2-2 区において東から西へ延びる溝である。検出した延長は 10.00 m、残存する深さが 0.45 m である。埋土は黄褐色シルト混細砂の単層である。遺物は黒色土器の椀が出土した。

670 溝 (図 30・36)

2-2 区の北西から南道にのびる溝である。重複する竪穴建物 429 に後出する。幅は 1.20 m、残存する深さは 0.40 m である。埋土は灰白色シルトを含む黄褐色系のシルトであり、2 層に分層できる。遺物は土師器 (141・145)、弥生時代後期の土器 (137～140・146) のほか、古墳時代の土師器片、須恵器片が出土した。

426 自然流路 (図 31・37)

2-2 区の北端部で検出した自然流路である。検出した幅は 2.00～5.00 m、残存する深さは 0.20 m である。南肩は緩やかに下がり、埋土は上層からオリーブ灰色シルト混細砂、黄褐色シルトの 2 層である。土層断面の様子から古墳時代以降もこの場所はくぼんでいたことが窺え、第 1 次調査 1-2 区南部から 1-3 区にかけて検出した自然流路と同一の可能性があると考えられる。

遺物は古墳時代の須恵器 (147～150)、土師器 (151・152)、製塩土器 (153) が出土した。

《落ち込み》

206 落ち込み (図 36)

2-3 区南東端で検出した落ち込みである。遺物は古墳時代の土師器、須恵器、製塩土器、土製紡錘車 (156) が出土した。

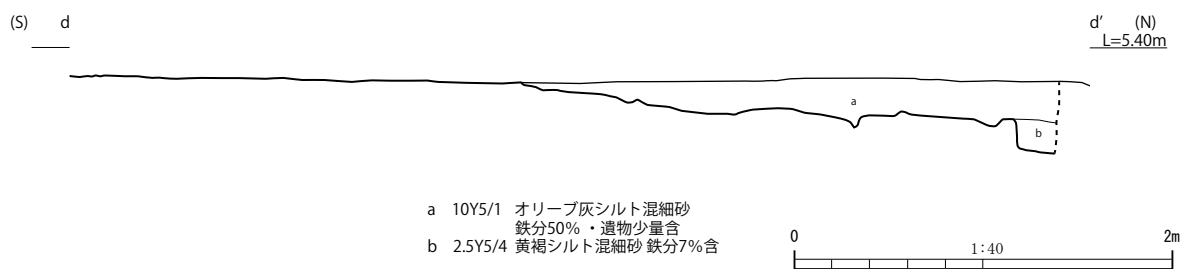
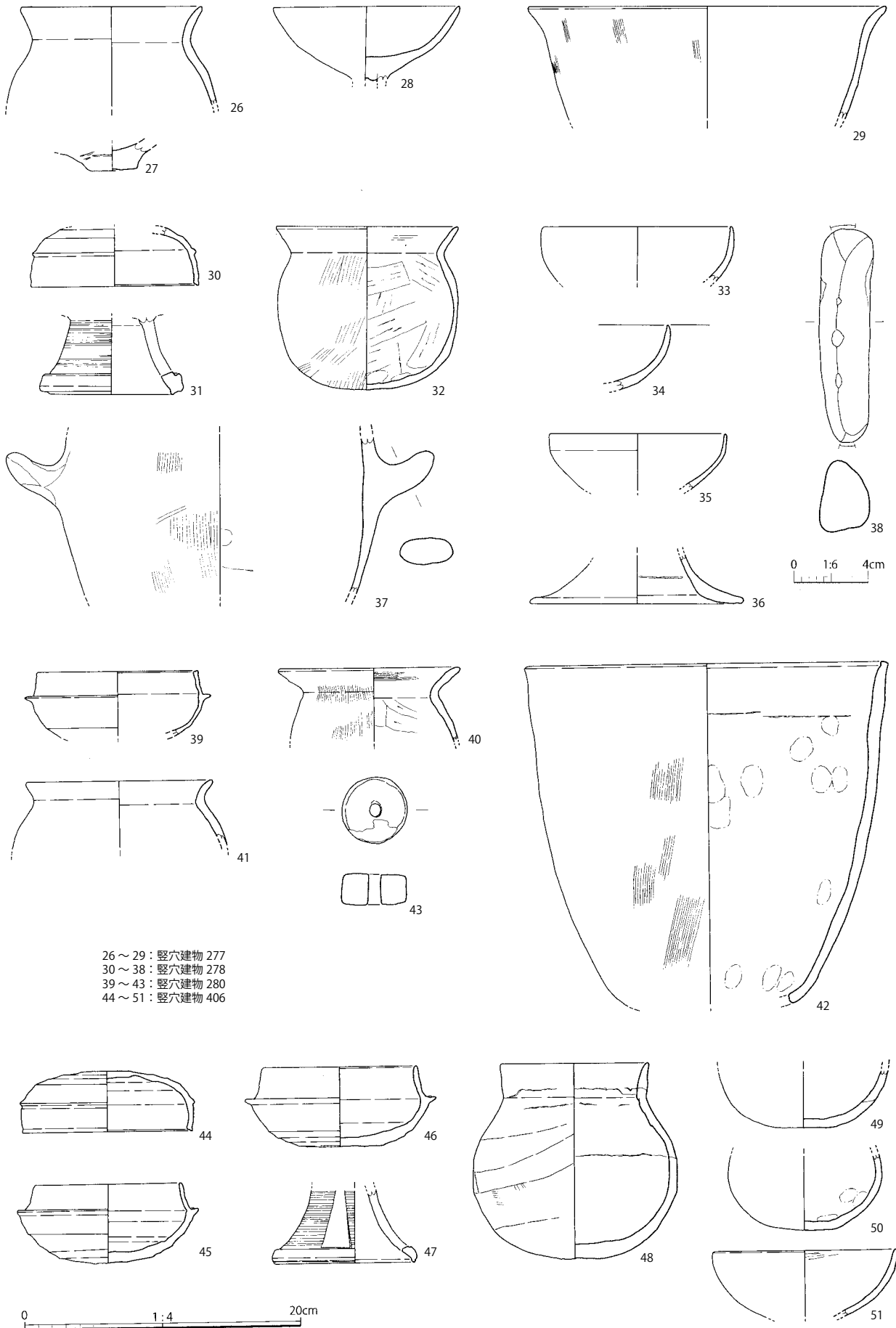


図 31 426 自然流路土層断面図 (S=1/40)



26 ~ 29 : 豎穴建物 277
 30 ~ 38 : 豎穴建物 278
 39 ~ 43 : 豎穴建物 280
 44 ~ 51 : 豎穴建物 406

图 32 豎穴建物 277 · 278 · 280 · 406 出土遺物実測図 (S=1/4、1/6)

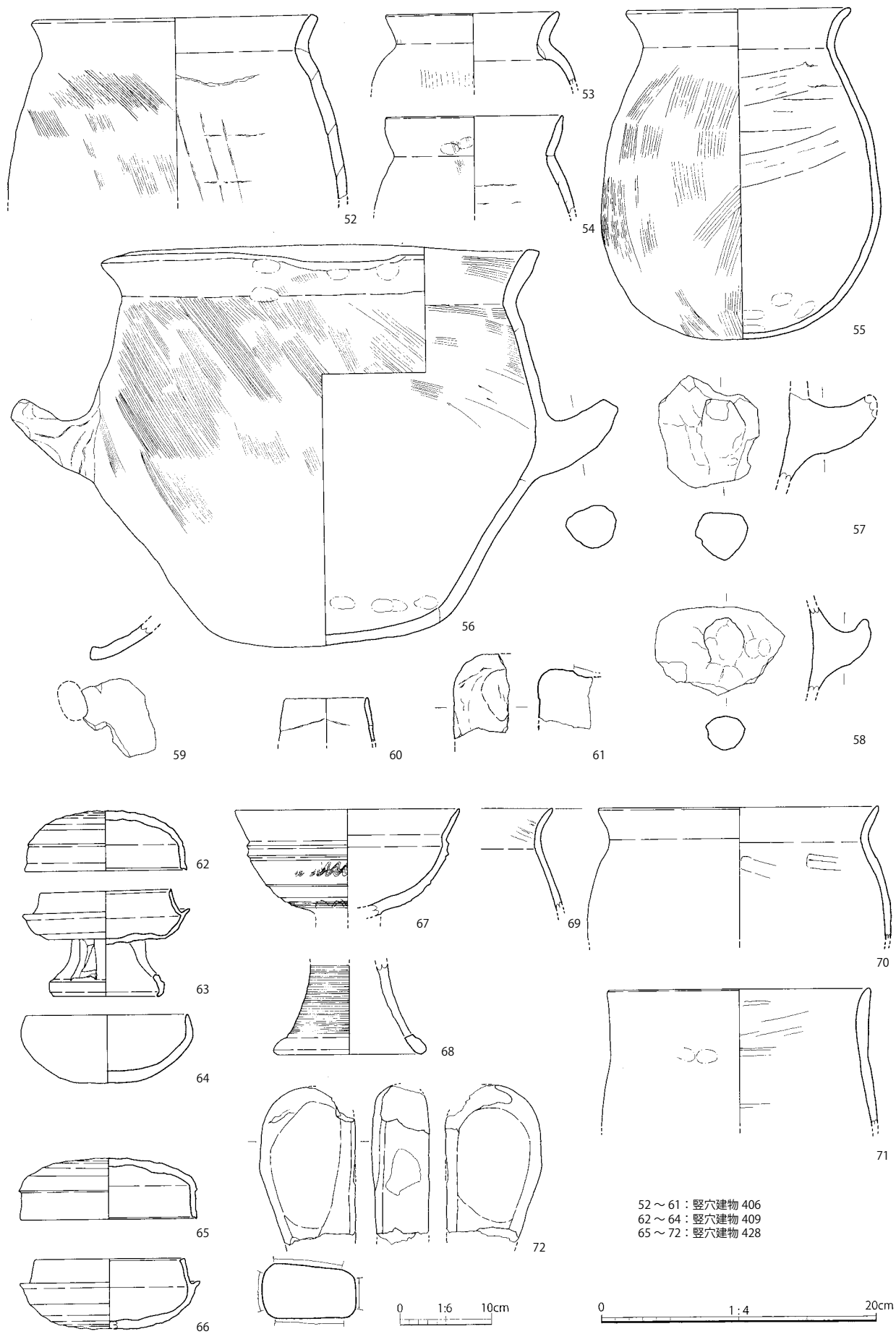


图 33 豎穴建物 406 · 409 · 428 出土遺物実測図 (S=1/4、1/6)

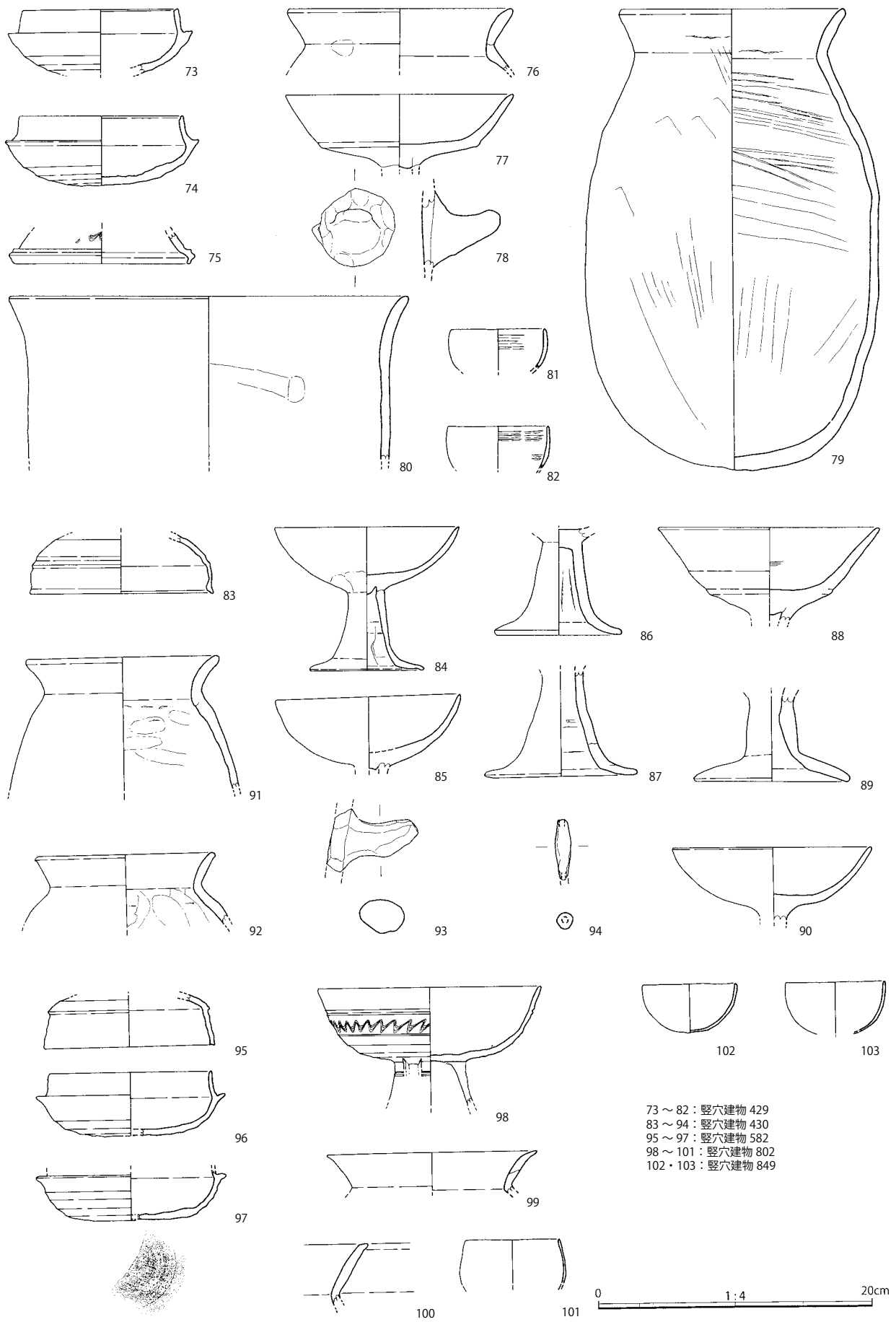


图 34 豎穴建物 429 · 430 · 582 · 802 · 849 出土遺物実測図 (S=1/4)

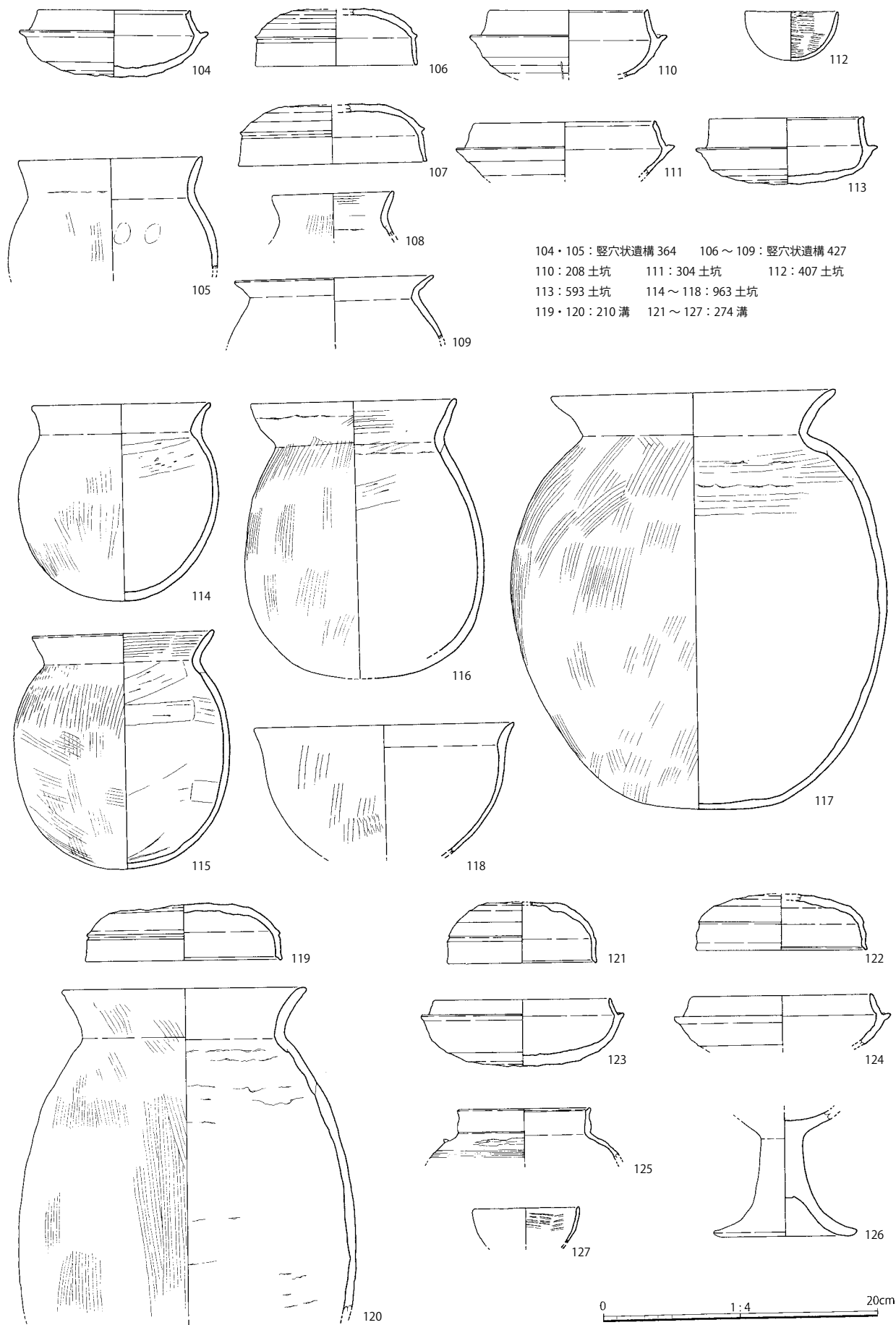
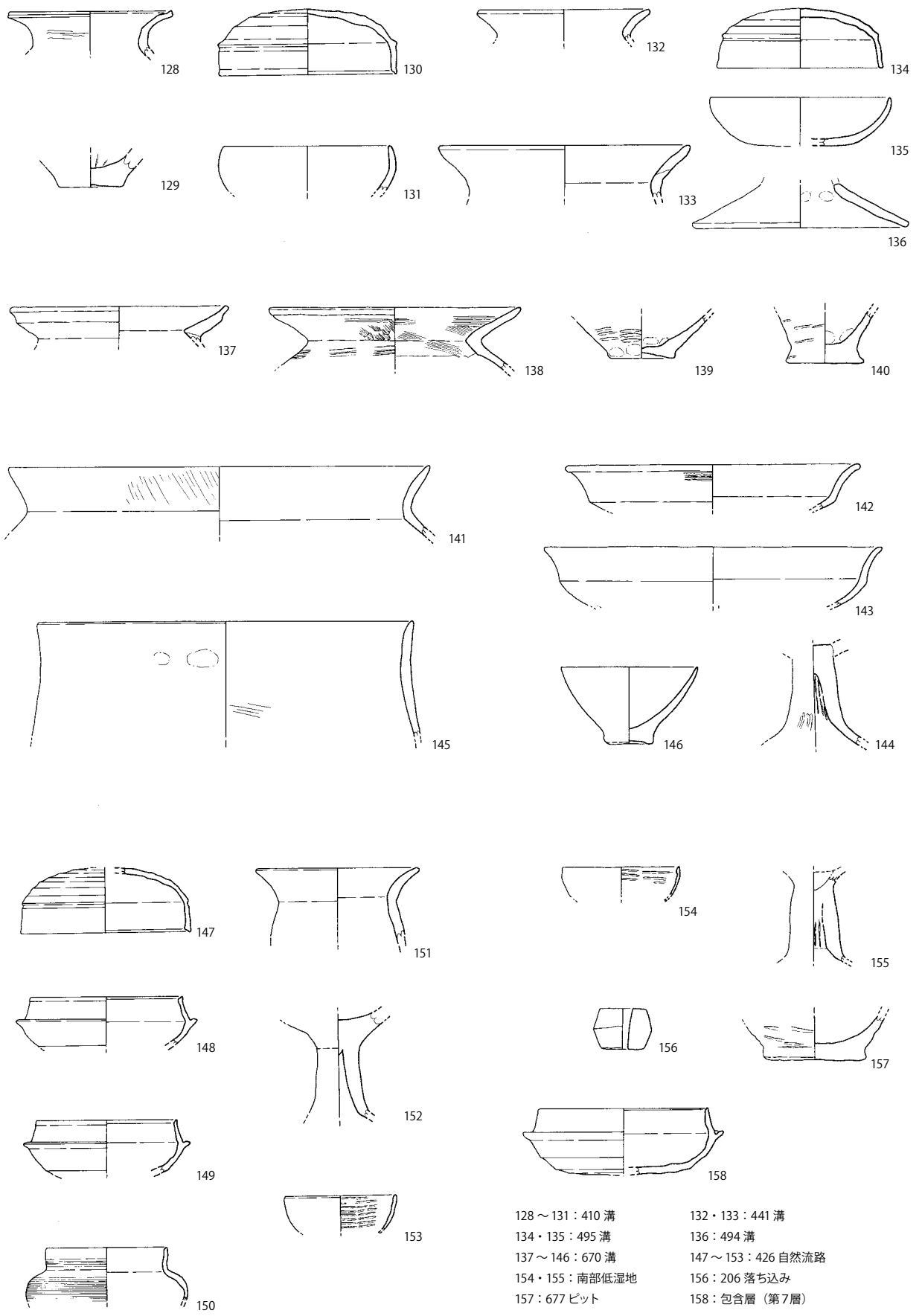


图 35 豎穴状遺構 384・427、208・304・407・593・963 土坑、210・274 溝出土遺物実測図 (S=1/4)



128～131：410 溝
 132・133：441 溝
 134・135：495 溝
 136：494 溝
 137～146：670 溝
 147～153：426 自然流路
 154・155：南部低湿地
 156：206 落ち込み
 157：677 ピット
 158：包含層（第7層）

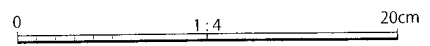


図36 440・441・494・495・670 溝、426 自然流路、2-3区南部、206 落ち込み、677 ピット、包含層出土遺物実測図 (S=1/4)

第3節 第3次調査の成果（3区）

1. 調査の概要

第3次調査の調査対象である3区は、1区の北に位置する。調査対象地は東西約16m、南北約50m、面積786.6㎡で、調査前まで水田耕作地として利用されていた。北半を3-1区、南半を3-2区として分割して調査を行った。現況地盤高は6.40mである。

3-1区・3-2区ともに、調査区を横切る溝を複数条検出した。3-1区では、東西に延び、古代の須恵器を多く伴った幅約3.50mの大溝を検出したほか、この大溝と軸をほぼ平行にした掘立柱建物を2棟検出した。3-2区では、北東から南西方向に延びる溝5条や、8世紀の須恵器・土師器を伴う東西方向の溝を検出したほか、南端部で室町時代の土師器・陶磁器を含む土坑を検出した。

2. 基本層序（図37、写真図版23）

第3次調査の基本層序は下記の5層である。

第1層は、現代の耕作土である。

第2層は、鉄分を含む暗灰黄色シルトで、近代の耕作土である。

第3層は、マンガン粒・鉄分を含む灰オリーブ色シルトで、近代の耕作土下の床土である。

第4層は、灰黄色シルトで、古代～中世の遺物包含層である。遺構面は第4層の下面に広がる。

第5層は、マンガン粒を含む黄褐色シルトで、基盤層である。

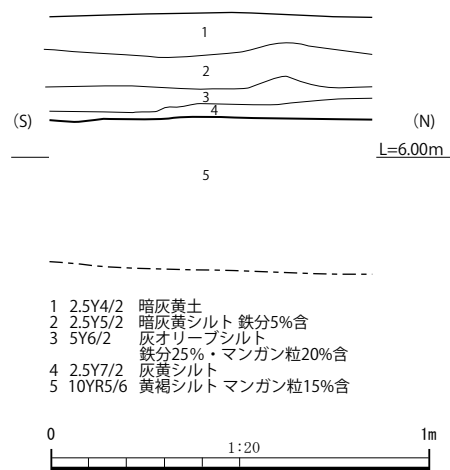


図37 第3次調査基本層序 (S=1/20)

3. 検出遺構と出土遺物

(1) 弥生・古墳時代の遺構と遺物

《溝》

20 溝（図47、写真図版23）

3-1区の北東端で検出した溝である。溝は北から南へ延び、検出した延長は6.00m、幅は0.50～0.70mである。断面形は船底形で、埋土は上層からオリーブ褐色シルト、暗オリーブ褐色細砂混シルトの2層である。

遺物は弥生土器の甕底部（159）、古墳時代の土師器片が出土した。

21 溝（図39・47、写真図版24）

3-2区の南西端から3-1区の東部に延びる溝であり、重複する竪穴状遺構35に先行する。検出した延長は21.00m、幅は1.35～1.50mである。断面形はV字形を呈し、残存する深さは0.15～0.30mである。埋土は上層から暗灰黄色シルト、にぶい黄色シルトの2層で、レンズ状に堆積する。遺物は弥生土器（160・161）が複数出土した。160は弥生時代後期の壺頸部、161は弥生時代後期の壺底部である。出土遺物から、この溝は弥生時代後期に帰属するとみられる。

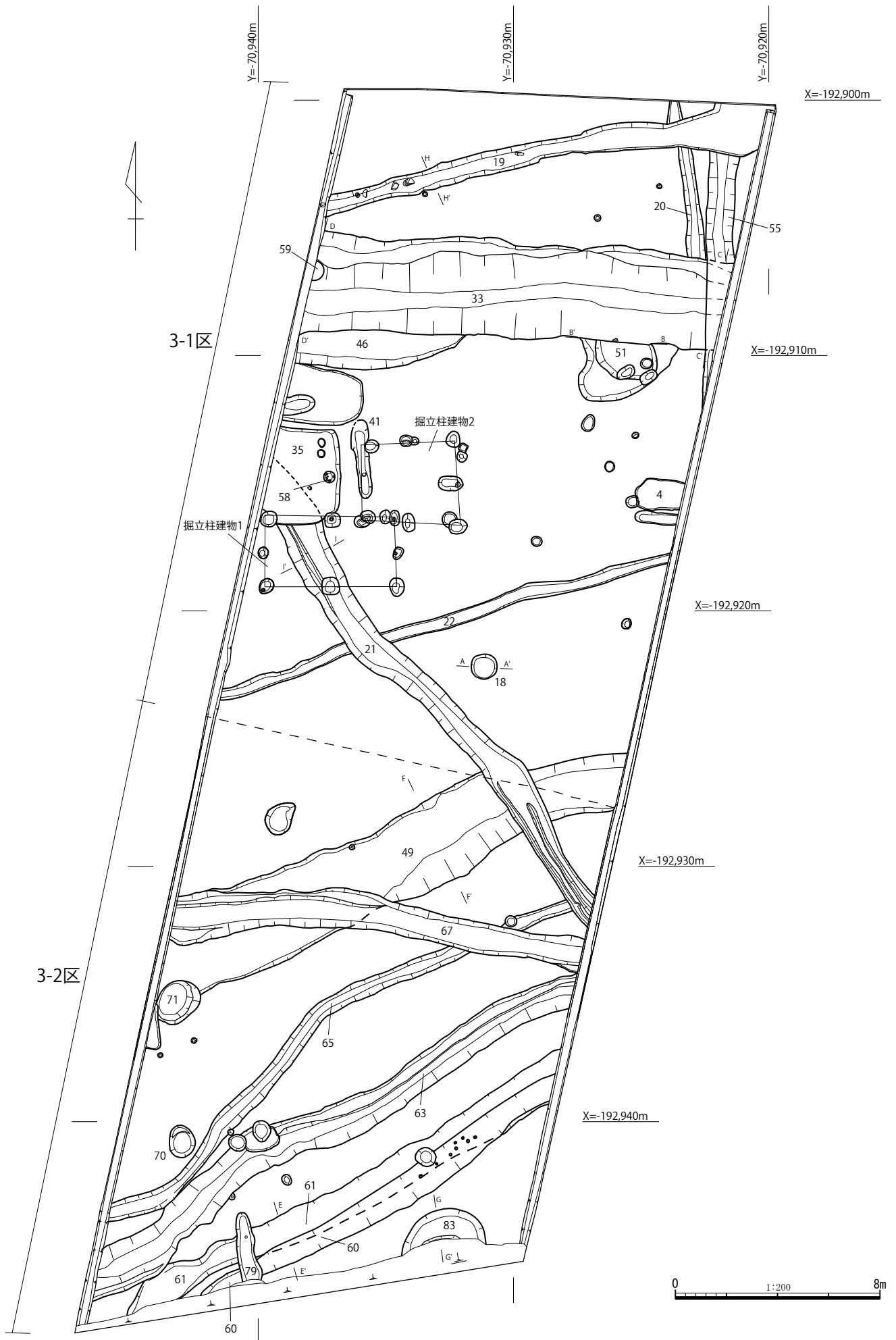


図38 第3次調査遺構全体図(3区) (S=1/200)

22 溝 (写真図版 24)

3-1 区の南半部で、北東から南西へ延びる溝である。検出した延長は 18.50 m で、溝の東端・西端は調査区外のため確認できなかった。幅は 0.50 m、残存する深さは 0.22 m である。遺物は出土していないが、弥生時代後期とみられる溝 21 に先行することから、弥生時代後期以前の遺構とみられる。

49 溝 (図 39・47、写真図版 25)

3-1 区の南端から 3-2 区の北半部にかけて、22 溝と平行に北東から南西へ延びる溝である。検出した延長は 19.50 m で、溝の東端・西端は調査区外にある。幅は 3.25 m、残存する深さは 0.82 m である。埋土はレンズ状に堆積する褐色系のシルト層 6 層から成り、それぞれマンガン粒や炭などの含有率が異なる。

遺物は、弥生土器 (162)、土師器片が出土した。この遺構は弥生時代後期～古墳時代に帰属するとみられる。

60・61 溝 (図 39・47、写真図版 25・30)

3-2 区の南部で北東から南西へ延びる溝である。60 溝の検出した延長は 16.00 m で、溝の両端は調査区外に延びる。幅は 0.70～1.20 m、残存する深さは 0.45 m である。断面は中央が段をなしてくぼみ、埋土はマンガン粒を含む暗灰黄色シルトの単層である。61 溝は、60 溝同様北東から南西へ流れる溝だが、重複する 60 溝に先行している。検出長は 21.00 m である。検出箇所的大部分で溝の南肩部が 60 溝と重複するが、両肩部が確認できる箇所の幅は約 1.20 m である。残存する深さは 0.22 m で、埋土はマンガン粒を含む灰黄褐色シルトの単層である。60 溝からは弥生時代中期～後期の土器 (163)、61 溝からは弥生時代中期の土器 (164) がそれぞれ出土した。これらの遺構は弥生時代中～後期に帰属するとみられる。

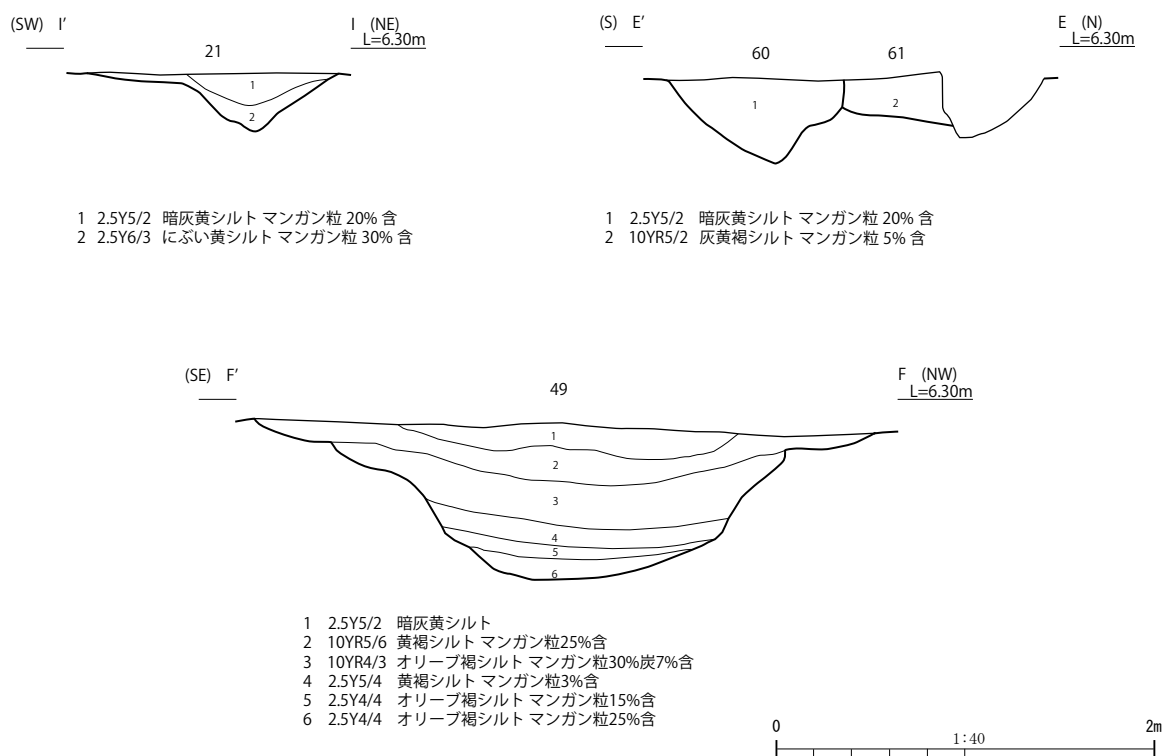


図 39 21 溝、60・61 溝、49 溝土層断面図 (S=1/40)

65 溝 (写真図版 23)

3-2 区中央を北東から南西へ延びる溝である。検出した延長は 21.50 m、幅は 0.45 ～ 0.90 m、溝の残存する深さは 0.30 m である。断面形は V 字形で、埋土は灰黄色シルトの単層である。この遺構から遺物は出土していないが、21 溝に先行することから、弥生時代後期以前に帰属する可能性がある。

(2) 古代の遺構と遺物

《掘立柱建物》

掘立柱建物 1 (図 40、写真図版 26)

3-1 区の南西部で検出した建物である。建物の規模は桁行(東西) 2 間、梁行(南北) 2 間であり、柱間は桁行 2.40 ～ 2.60 m、梁行 1.00 ～ 1.20 m である。柱穴の掘方は隅丸方形あるいは南北に長い楕円形を呈し、大きさは長軸 0.70 ～ 0.40 m、短軸 0.30 ～ 0.60 m、残存する深さは 0.15 ～ 0.34 m である。埋土は掘方ではマンガング粒を含む黄褐色シルトと灰黄色シルトの 2 層であり、柱当りではオリーブ褐色シルトである。この建物は竪穴状遺構 35 及び 21 溝に後出する。

遺物は、飛鳥～平安時代の土師器片が柱穴より出土した。

掘立柱建物 2 (図 40、写真図版 27)

掘立柱建物 1 の北東で検出した建物である。建物の規模は桁行(東西) 2 間、梁行(南北) 2 間であり、柱間は桁行 1.80 m、梁行 1.70 ～ 1.75 m である。柱穴の掘方はほとんどが径 0.40 ～ 0.60 m の円形だが、9 柱穴は長径 0.90 m、短径 0.60 m の東西に長い楕円形、13 柱穴は長径 0.70 m、短径 0.40 m の南北に長い楕円形である。柱穴の深さは約 0.20 ～ 0.40 m で、埋土は鉄分・マンガング粒を含む灰黄色系のシルトである。各穴が重複して複数存在することから、この建物は建て替えが行われた可能性がある。

遺物は柱穴から古墳時代の土師器、古代の土師器・須恵器・製塩土器が出土した。

《竪穴状遺構》

竪穴状遺構 35 (図 41・47、写真図版 27)

掘立柱建物 1 の北側、掘立柱建物 2 の西側で検出した遺構である。この遺構からは壁溝や柱穴などが確認されなかったことから、方形竪穴状遺構としている。平面形は方形とみられるが、西側は調査区外のため確認できなかった。遺構の規模は南北 3.80 m、東西の残存部 3.80 m であり、残存する深さは 0.08 ～ 0.12 m である。埋土は 5 層に分層でき、うち 4 層で焼土や炭粒を含んでいる。

遺物は、奈良時代のもつとみられる土師器(166)を中心として、須恵器、製塩土器などが出土した。

《井戸》

59 井戸 (図 42、写真図版 29)

3-1 区の西端、33 溝に重複して検出した井戸で、断面の確認により 33 溝に後出する。遺構は平面形が円形の素掘り井戸であるが、西半分が調査区外である。直径 1.60 m、残存する深さ 1.80 m である。断面形は掘方からほぼ垂直に落ちる歪んだ方形である。埋土は 3 層に分層でき、上層からマンガング粒・鉄分を多く含む灰オリーブ色シルト、鉄分を含む暗緑灰色シルト、暗オリーブ灰色粘土である。

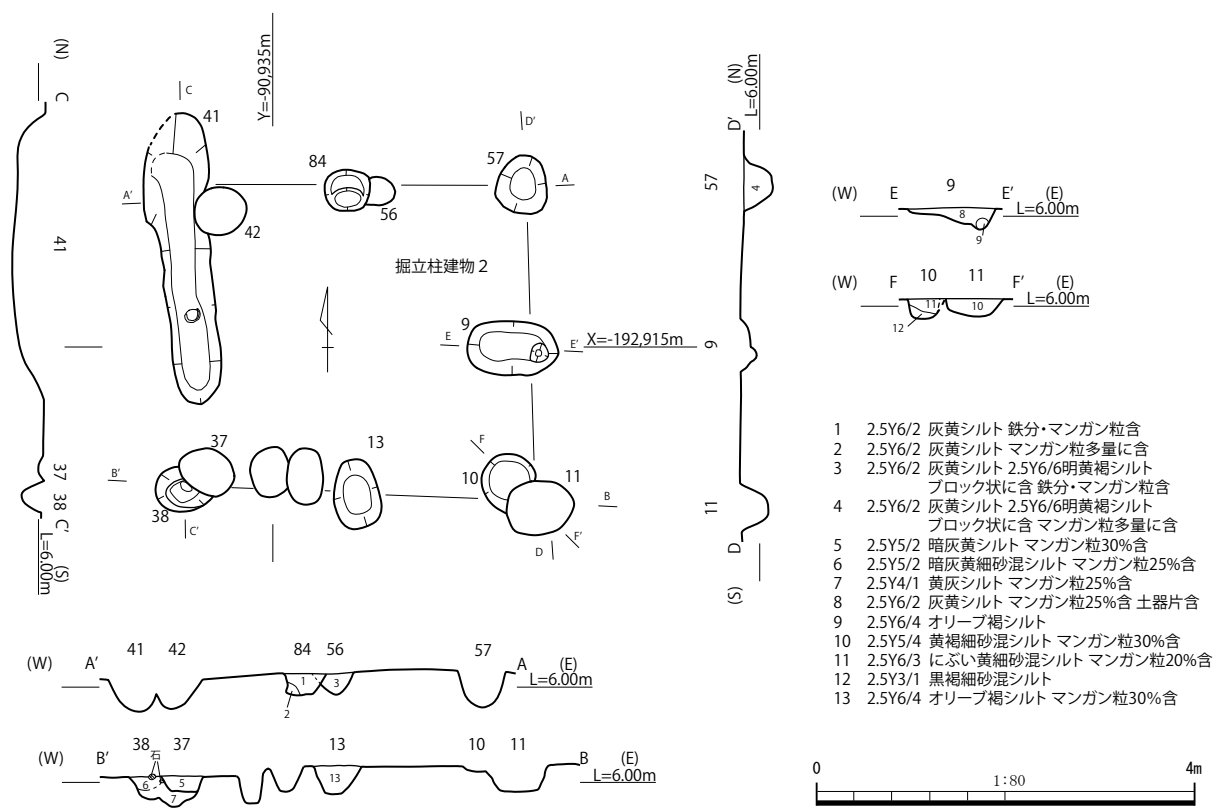
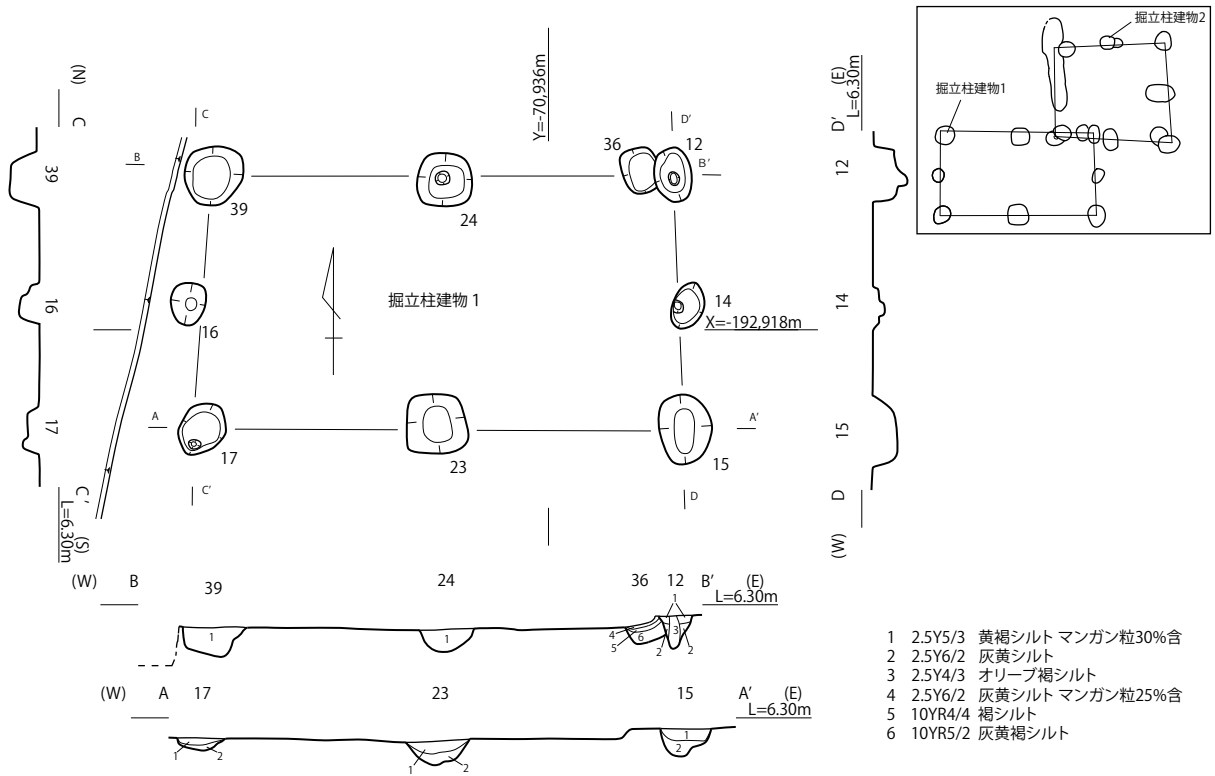


図40 掘立柱建物 1・2 実測図(S=1/80)

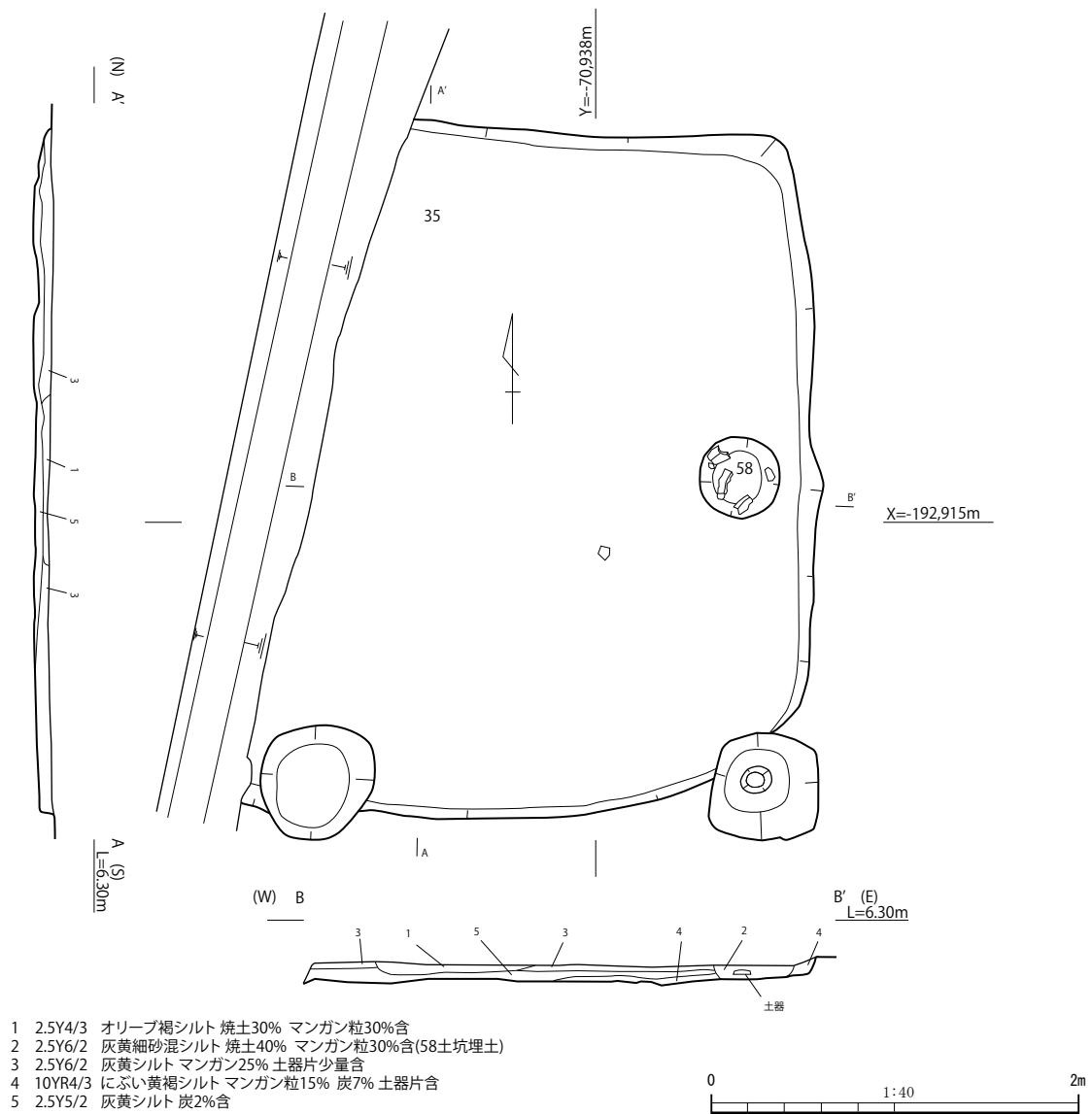


図 41 竪穴状遺構 35・58 土坑実測図 (S=1/40)

《土坑》

41 土坑 (図 47、写真図版 28)

41 土坑は、南北に長い楕円形の掘方を呈し、長軸 3.00 m、短軸 0.80 m、残存する深さは 0.4 m である。遺構の断面は U 字形を呈し、埋土は炭・マンガン粒を含むオリーブ褐色シルトである。

遺物は上層より須恵器壺 (165) が出土した。

51 土坑 (図 43・47、写真図版 28)

3-1 区の東側で検出した土坑である。33 溝に重複し、本遺構が後出する。平面形状は不定形で、残存する東西方向の規模は 2.70 m である。検出時は 33 溝との前後関係を把握することが

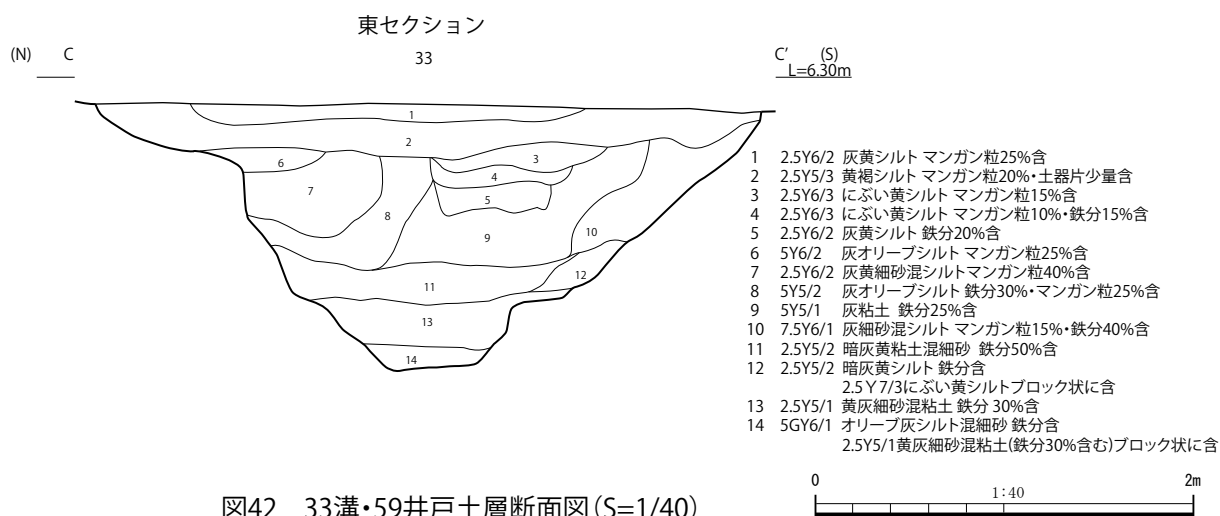
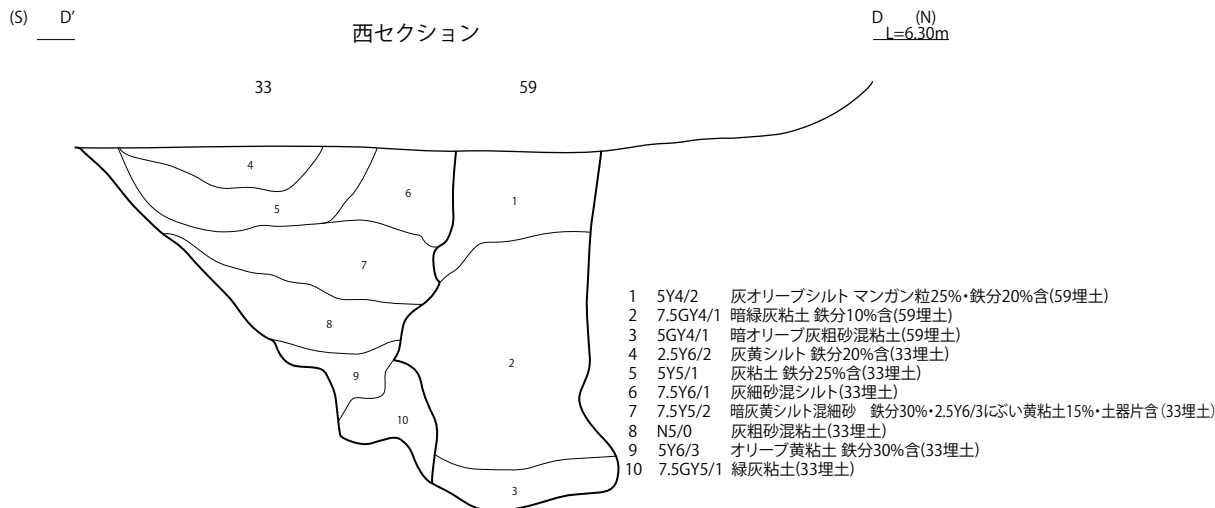


図42 33溝・59井戸土層断面図(S=1/40)

できなかったが、南北方向の規模は1.30 m以上である。断面形は一部が突出した船形を呈し、残存する深さは0.95 mである。埋土はレンズ状の堆積を呈する。3層・4層で土器片が出土した。

遺物は、古代の須恵器(168～175)、土師器(176～178)が出土した。出土した土器から、遺構は奈良時代のものとみられる。

58 土坑 (図 41・47)

58 土坑は、竪穴状遺構 35 に後出する。平面形は円形で、直径 0.40m である。断面形は皿形で、残存する深さは 0.04 m である。土層は単層で、灰黄色細砂混シルトに焼土やマンガン粒を含んでいた。遺物は土師器甕(167)が破片で出土し、総じて遺存状態が悪かった。

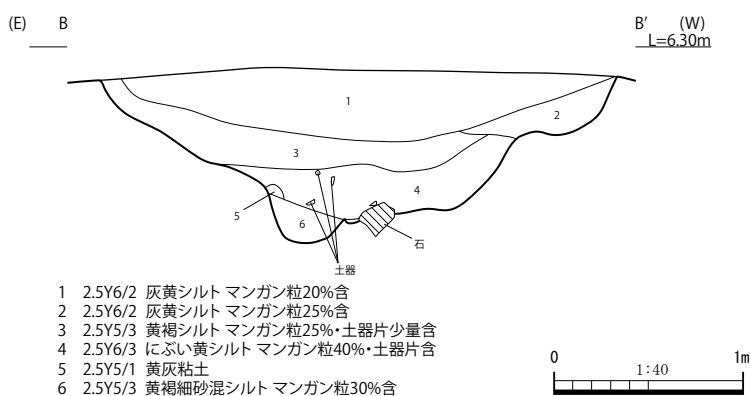


図 43 51 土坑土層断面図(S=1/40)

《溝》

33 溝 (図 42・48、写真図版 29)

3-1 区の北側で東から西へ流れる溝である。検出した延長は 15.10 m、幅は 3.50 m、残存する深さは 1.50 m である。断面形は逆台形である。埋土は 14 層に分層でき、下層の東セクション 12・14 層、西セクション 9・10 層ではグライ化が進んでいた。

遺物は、古墳時代の須恵器 (179・180)、飛鳥・奈良時代の須恵器 (181～192)、土師器 (193～199)、瓦 (200) などが出土した。191 は須恵器壺の把手である。把手が横位置についており、その下には把手をつけるための目印となる沈線が施されている。また、外面にタタキが施され、内面には当て具痕が残っており、京都市・周山 3 号窯出土壺 (中村・藤原編 1996) に類似していることから、この土器は壺と考えられる。192 の須恵器片はハケ目と波状文を有し、焼成が堅緻である。残存箇所が少なく、類似の破片が付近から出土しなかったことから、器種の特定には至っていない。199 は移動式カマドの一部である。鏝から焚口までが長いことが特徴である。また、鏝の 2.5cm 外側では透かし孔とみられる穴が穿たれていた。

55 溝 (写真図版 30)

3-1 区北東部で検出した北から南に延びる溝である。検出した延長は 10.00 m、幅は 1.00 m だが、溝の南端が調査区外にあり、北端部は溝 19 と重複しているため確認できなかった。この溝はほぼ直交する 33 溝に後出する。残存する深さは 0.32 m である。断面形は船底形を呈し、埋土は上層から灰オリーブ色シルト・灰黄色シルトの 2 層がレンズ状に堆積する。

遺物は須恵器、土師器の破片がそれぞれ出土した。出土遺物より、33 溝に時期が近い奈良時代のものとみられる。

63 溝 (写真図版 30)

3-2 区で北東から南西に延びる溝である。延長は約 22.00 m を検出し、幅は約 1.20～1.60 m、残存する深さは 0.40～0.45 m である。この溝は、南側の 60・61 溝とほぼ平行に流れる。埋土は 2 層に分層でき、上層からマンガン粒を含む黒褐色シルトとマンガン粒を含む黄褐色シルトである。遺物は古墳時代の土師器、飛鳥・奈良時代の須恵器、土師器、黒色土器が出土した。

67 溝 (図 44・49、写真図版 31)

3-2 区の中央で東から西へ流れる溝である。調査区の東端から西端までの約 16.00 m を検出した。67 溝は、49 溝・65 溝と重複しているが、それら両方に後出する。幅は約 1.00～1.80 m、残存する深さは 0.50～0.60 m である。断面形は中央が段をなしてくぼんでいた。埋土は炭・マンガン粒を含む黄褐色シルトの単層である。

遺物は、古墳～飛鳥時代の須恵器 (201～206)、奈良時代の土師器 (226～234・236・237) や須恵器 (207～225・235)、管状土錘 (238～240) が出土した。

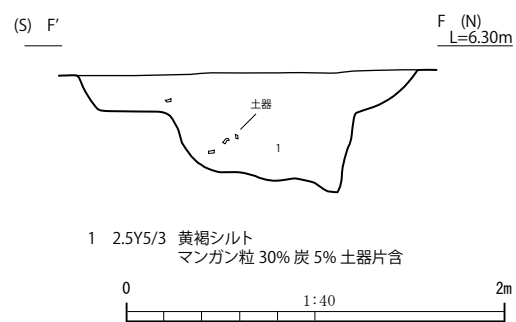


図 44 67 溝土層断面図

《溝状遺構》

46 溝状遺構 (図 50)

3-1 区の西端に位置し、溝 33 に後出する溝状遺構である。検出した規模は長軸 6.40 m 以上、短軸 1.50 m 以上、残存する深さ 0.16 m である。埋土はマンガン粒を含む灰黄色シルトの単層である。

遺物は奈良時代の須恵器 (241)、土師器が出土した。

(3) 中世以降の遺構と遺物

《井戸》

18 井戸 (図 45、写真図版 31)

3-1 区の南部で検出した、平面形が円形の素掘り井戸である。遺構の径は 0.80 ~ 1.00 m、残存する深さ 2.35 m である。断面形は上位と下位が垂直に落ち、中央部が張り出した形をしている。断面中央部の張り出しは崩落によるものと考えられる。埋土は 12 層で構成され、10 ~ 12 層ではグライ化が進んでいた。

遺物は、備前焼のすり鉢を含む近世陶磁器や弥生土器が出土した。

《土坑》

83 土坑 (図 46・50、写真図版 32)

3-2 区の南端部で検出した土坑である。平面形は円形と推定されるが、土坑の南側が調査範囲外にあたり、全容を確認することはできなかった。残存部の直径は約 3.50 m、残存する深さは約 1.00 m である。埋土は上層から暗灰黄色シルト、マンガン粒を含むオリーブ褐色シルト、鉄分を含むオリーブ褐色シルトの 3 層に分層される。

遺物は土師器皿 (242)、土師器鍋 (243)、瓦質羽釜 (244・245)、青磁碗 (246) など、室町時代の土器類が出土した。出土遺物から、この遺構は中世に帰属するとみられる。

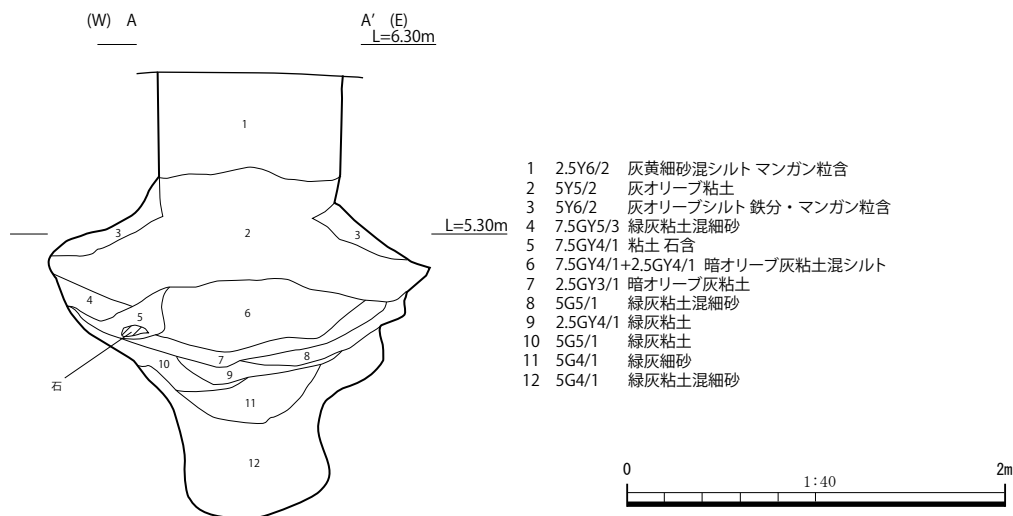


図 45 18 井戸土層断面図 (S=1/40)

《溝》

19 溝 (図 46・50、写真図版 32)

3-1 区の北端部で検出した、東北東から西南西に延びる溝である。検出した延長は 18.00 m だが、溝の両端は調査区外のため確認できなかった。幅は 0.80 ~ 1.00 m、残存する深さは 0.50 m である。断面形は船底形で、埋土は黄褐色シルト系の 2 層に分層される。調査区の西部では石とともに丸瓦が出土している。

遺物は丸瓦のほか、毛彫りを施した中国製の白磁碗 (247) が出土した。

《溝状遺構》

79 溝状遺構 (図 50、写真図版 32)

3-2 区南端で検出した、南北方向に延びる溝状遺構である。重複する 60・61 溝に後出する。

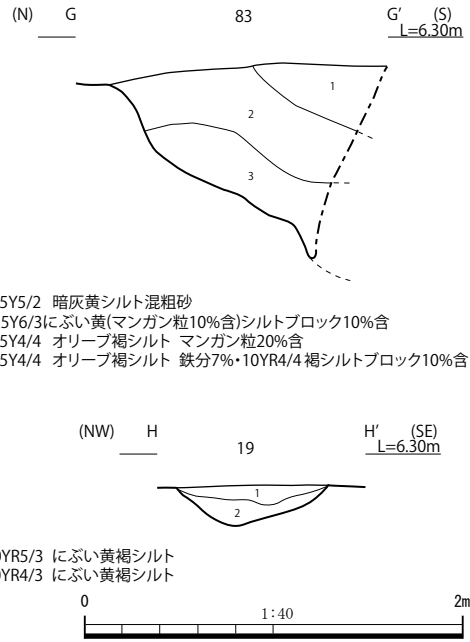


図 46 83 土坑、19 溝土層断面図 (S=1/40)

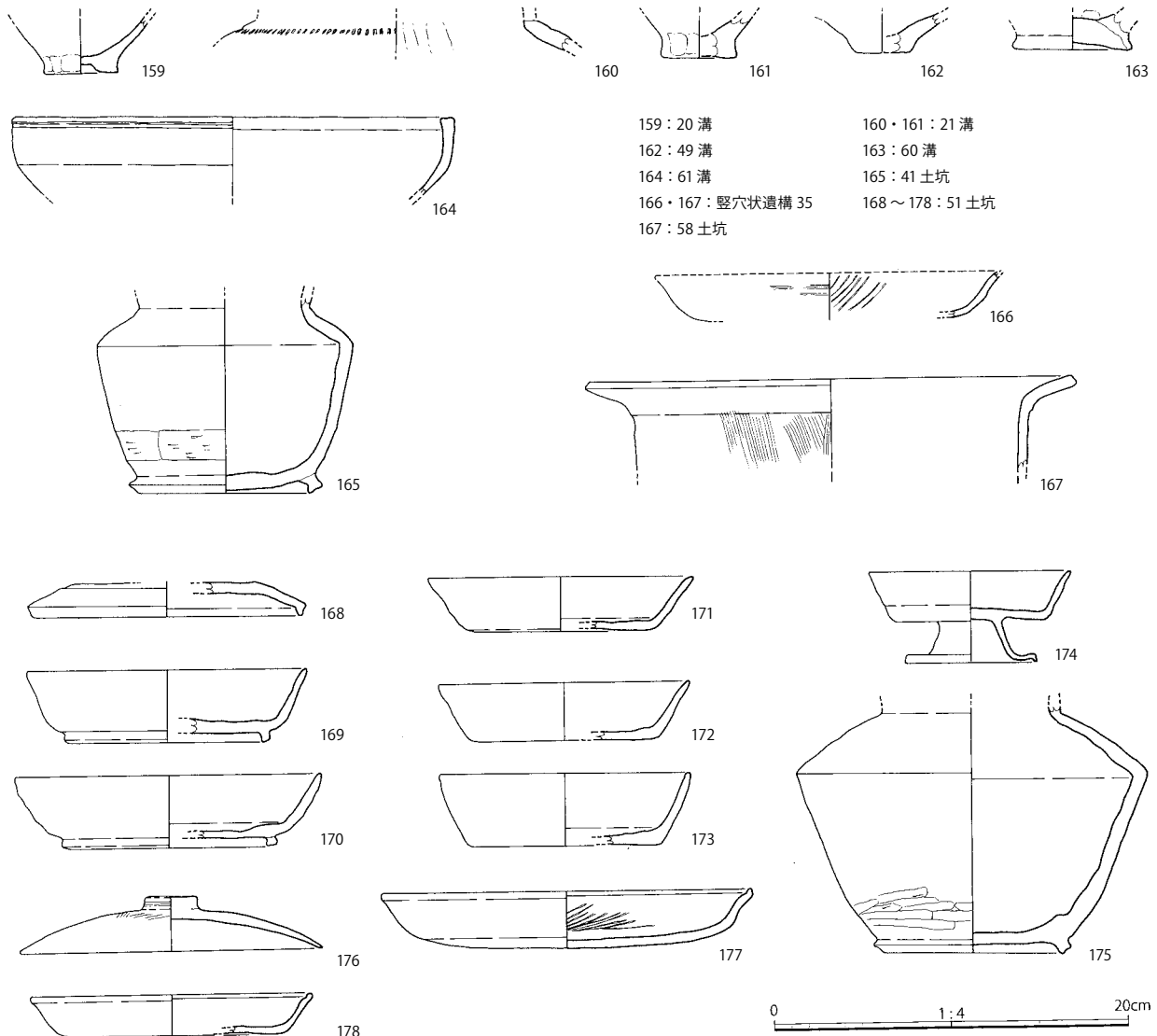


図 47 20・21・49・60・61 溝、41・51・58 土坑、竪穴状遺構 35 出土遺物実測図 (S = 1/4)

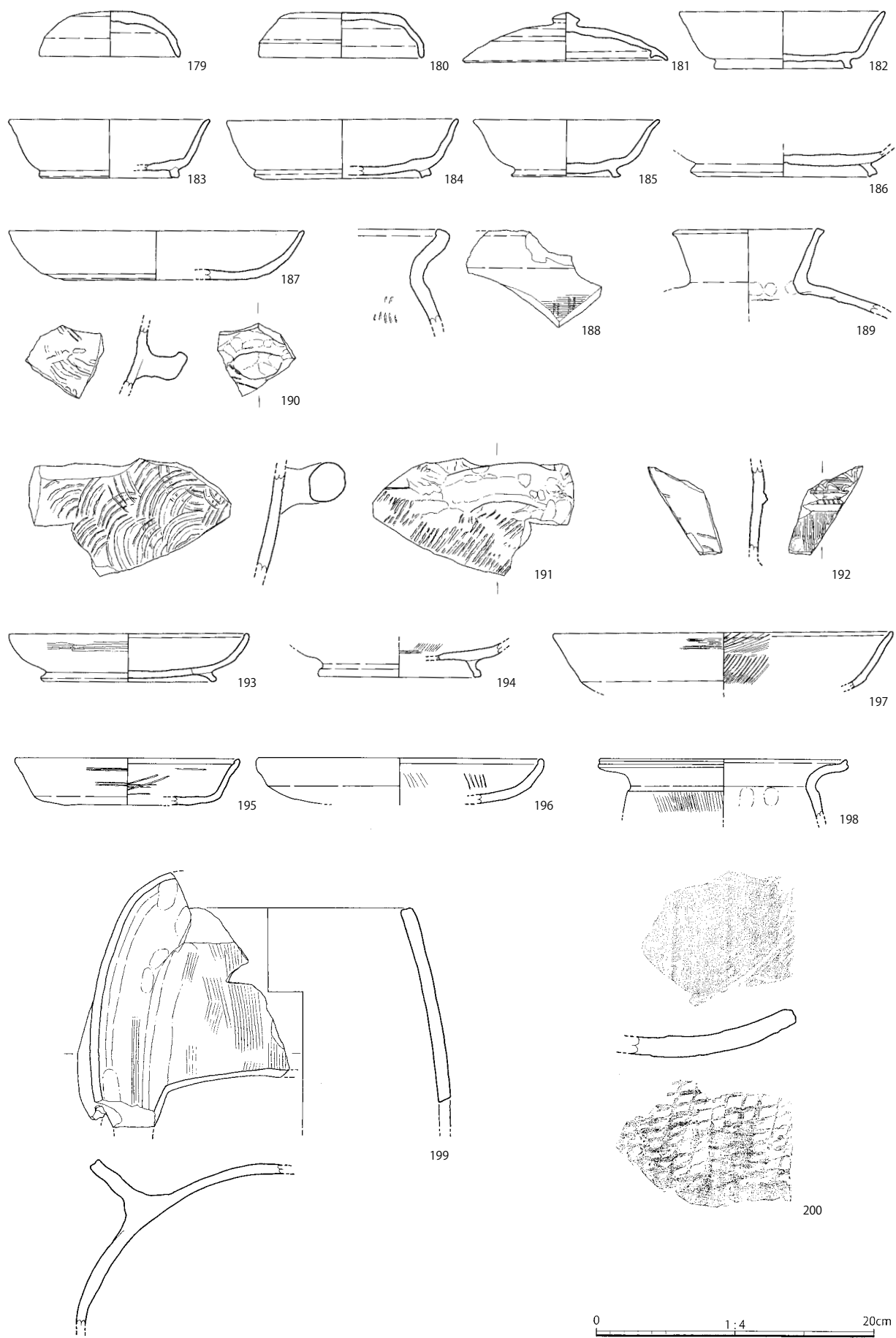


图 48 33 溝出土遺物実測図 (S=1/4)

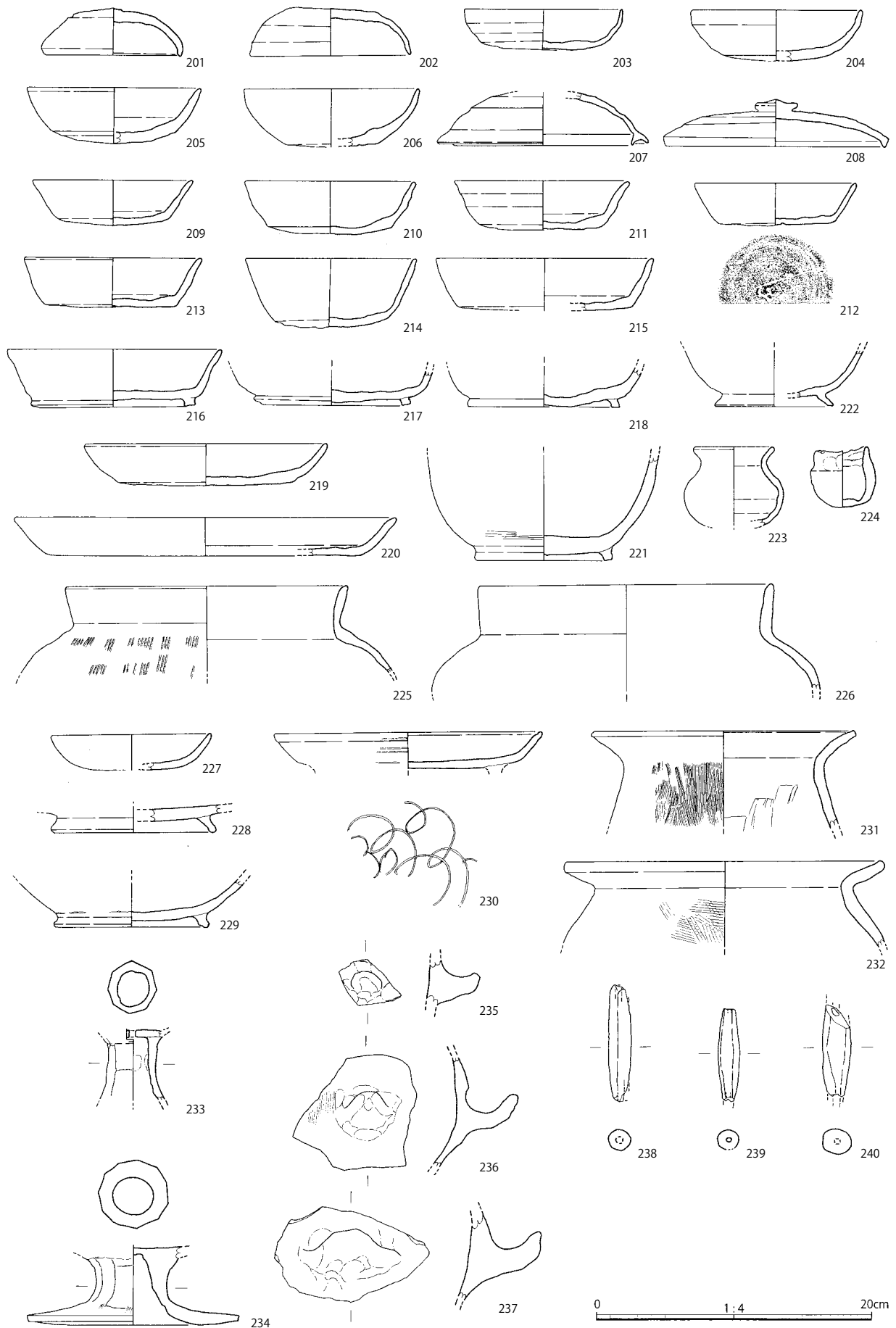


图 49 67 溝出土遺物実測図 (S=1/4)

遺構の幅は約 0.60 ～ 0.80 m、残存する深さは 0.14 ～ 0.18 m である。検出した長さは約 3.00 m であるが、79 溝の南端が攪乱されており本来の長さは不明である。断面形は船底形であり、埋土は灰色シルト系で 2 層に分層できる。

遺物は土師器小皿 (248・249)、青磁碗 (250) の他、瓦片が出土した。出土遺物から、遺構の帰属時期は中世以降とみられる。

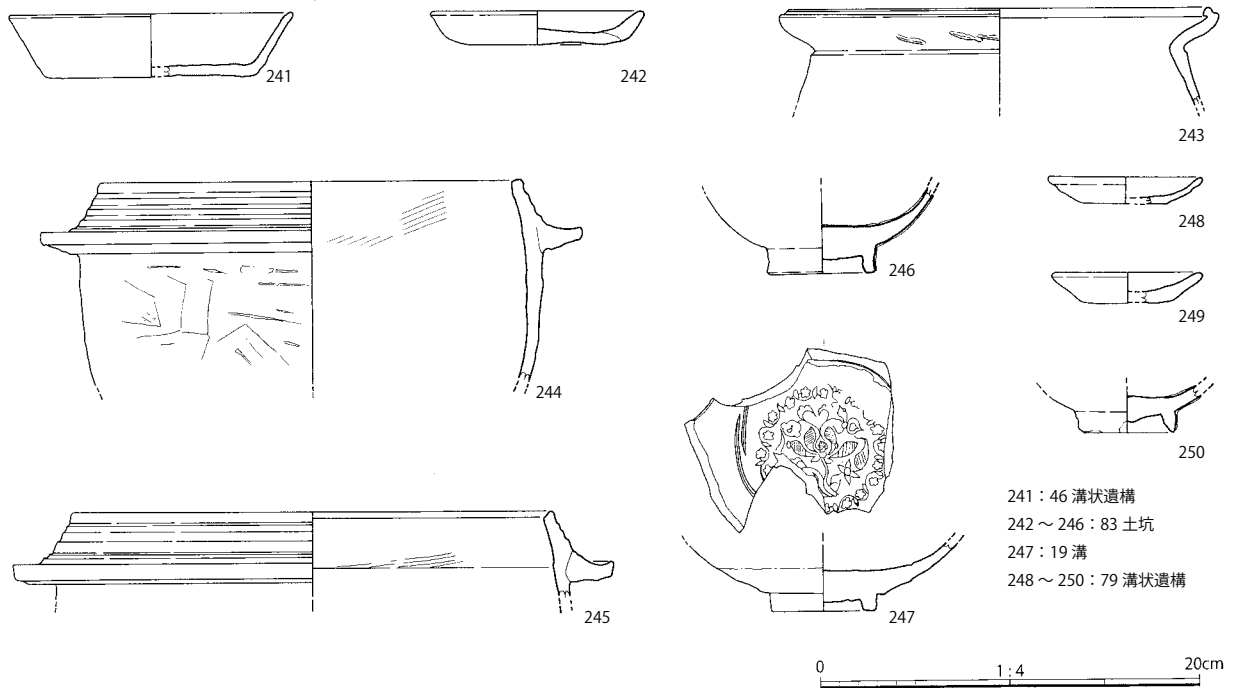


図 50 46 落ち込み、83 土坑、19 溝、79 溝状遺構出土遺物実測図 (S=1/4)

第4節 第4次調査の成果（4区）

1. 調査の概要

第4次調査の調査対象である4区は、3区北端から約45 m北に離れたところに位置する。調査対象地は東西約18 m、南北約60 m、面積1049.3㎡であり、調査前まで水田耕作地として利用されていた。北半を4-1区、南半を4-2区として分割して調査を行った。現況地盤高は4-1区では5.90 m～6.30 m、4-2区では6.00～6.40 mである。

4-1区・4-2区で、調査区のほぼ東から西へ延びる溝を複数検出した。出土遺物や遺構の重複関係から、検出した溝には弥生時代のものや奈良時代以降のものが確認されている。また、4-2区では8世紀の土器を多数含む土坑を検出した。

2. 基本層序（図51、写真図版34）

4区の基本層序は下記の6層である。1層より下の層序は調査区中央部（調査区北端から約20 m地点付近～35 溝付近）と両端（中央部以外）で大きく異なっていた。

第1層は、現代の耕作土である。

第2層は、暗灰黄シルトで、調査区の両端に見られる近代の耕作土である。

第3層は、マンガン粒を含む灰黄色シルトで、調査区の中央・両端共にみられる層である。

第4層は、マンガン粒を含む黄灰色シルトの層で、黒色土器片を含む古代～中世の遺物包含層である。

第5層は、マンガン粒を含む黄褐色シルトで、調査区両端に見られる。遺物を含まないため、この層は両端における基盤層と考えられる。

4-1区南半部～4-2区北半部にかけては、第5層に代わり第6層が第4層の直下に広がる。第6層は、マンガン粒を多く含むにぶい黄色シルトである。調査区中央に見られ、遺物を含まないことから、調査区中央における基盤層と考えられる。

また、下層確認のため一部で5・6層以下の掘り下げを行った結果、調査区東端では標高5.30～5.80 m、西端では標高4.90～5.70 mの箇所では噴砂が確認された。

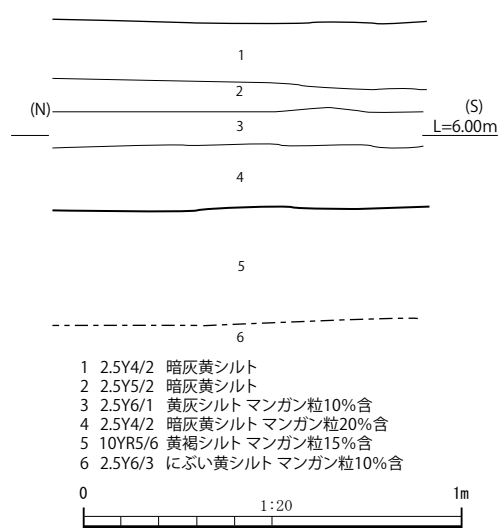


図51 第4次調査基本層序(S=1/20)

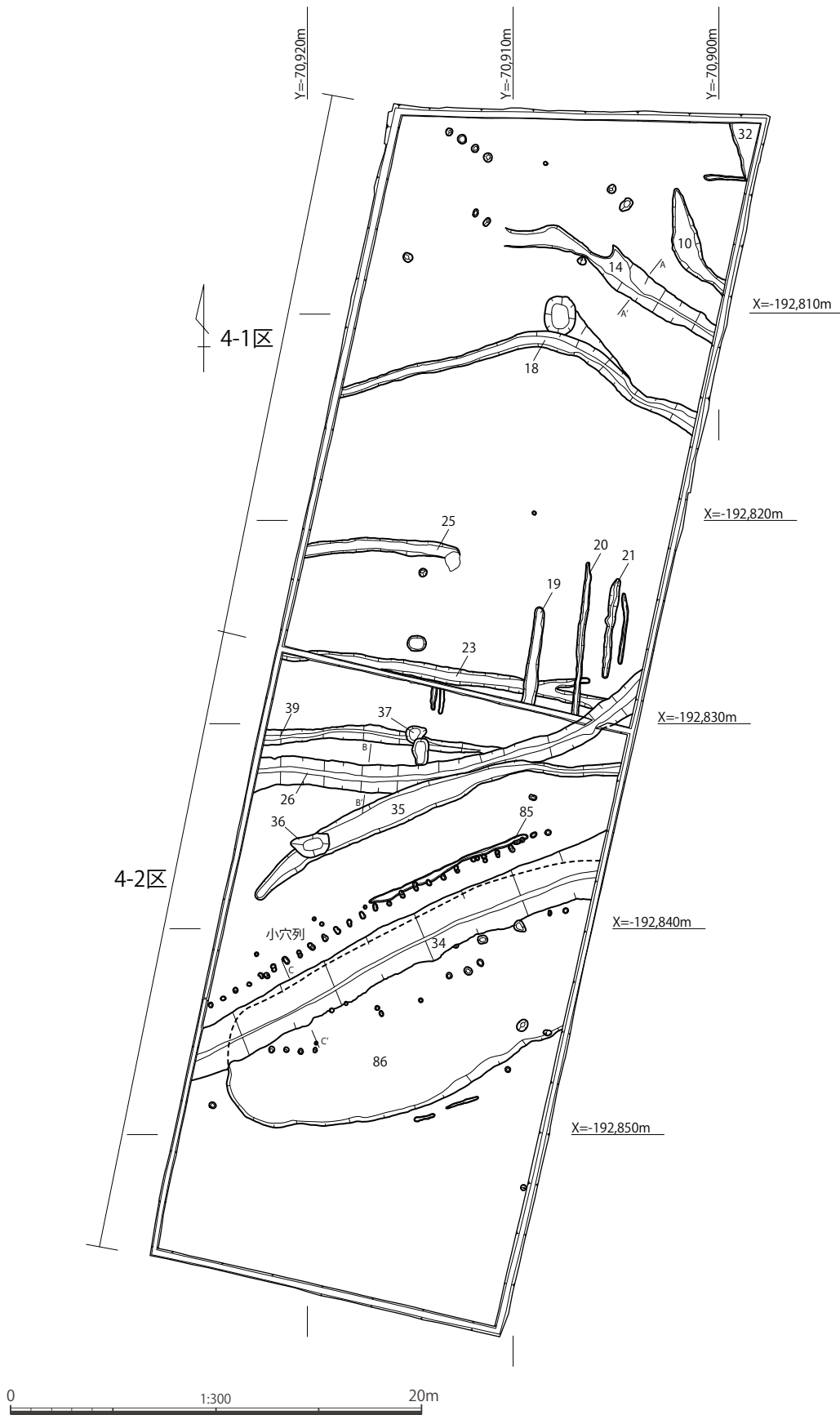


图52 第4次調査遺構全体図(4区) (S=1/300)

3. 検出遺構と出土遺物

(1) 弥生・古墳時代の遺構と遺物

《溝》

14 溝 (図 53・56、写真図版 34)

4-1 区の中央に位置する。溝は東から西へ流れ、幅 0.95 ～ 1.40 m、残存する深さ最大 0.18 m である。埋土は単層で、マンガンを含んだ灰色シルトである。残存する深さは西に向かって浅くなっており、調査区中央より西では溝が確認できなくなった。遺物は弥生土器のミニチュア手捏ね鉢 (251) が出土した。

26 溝 (図 53・56、写真図版 35)

4-1 区と 4-2 区の境界付近に位置する。溝は東北東から西南西へ流れ、幅 1.25 ～ 1.40 m、残存する深さ 0.35 ～ 0.5 m である。断面は船底形を呈し、埋土は 4 層に分かれる。遺物は弥生土器の二重口縁壺 (252) や蓋 (253) が、調査区の西端部に集中して出土した。出土遺物から、弥生時代後期に帰属するとみられる。

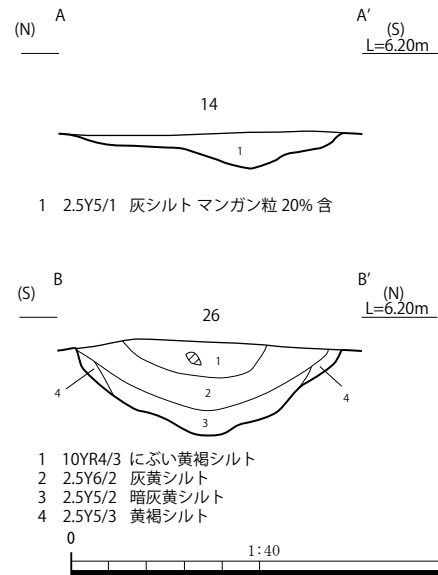


図 53 14 溝、26 溝土層断面図 (S=1/40)

(2) 古代の遺構と遺物

《土坑》

36 土坑 (図 54・56、写真図版 35・36)

4-2 区の北西部に位置し、後出する 35 溝によって一部が削られている。遺構の規模は長軸 1.85 m、短軸 1.05 m、残存する深さ 0.25 ～ 0.30 m である。断面は皿形を呈し、埋土は 4 層に分層できる。このうちマンガン粒や炭を含むシルトで構成された第 3 層から、8 世紀の須恵器 (254 ～ 262)、土師器 (263 ～ 267) が出土した。261 と 262 は鉄鉢を模した須恵器である。なお、この遺構以外で同型式の須恵器は確認されていない。263 は土師器蓋であり、ほぼ完形で出土した。264 は土師器の杯であり、内面の体部に放射状の暗文を有する。

86 土坑 (図 56、写真図版 36・37)

4-2 区の中央に位置する土坑であり、34 溝に後出する。調査区内では、土坑は 34 溝の南西端を除くほぼ全域を覆い、34 溝の南肩から 6 m 南まで広がっていた。土坑は長軸 19.40 m 以上、短軸 8.40 m 以上である。遺構の断面形は皿形で、残存する深さは 0.02 ～ 0.05 m である。埋土は灰オリーブ色シルトの単層である。遺物は飛鳥時代の須恵器 (268)、土師器が出土した。

《溝》

34 溝 (図 55・56、写真図版 36・37)

4-2 区の中央に位置する溝で、土坑 86 に先行する。溝は北東から南西に流れ、検出した延長 21.25 m、幅 2.4 m、残存する深さ 0.50 ～ 0.60 m である。一部が 86 土坑に削られているが、断面は V 字形とみられる。埋土は 4 層に分層できる。後述する小穴列がこの溝に付随すると考えられる。

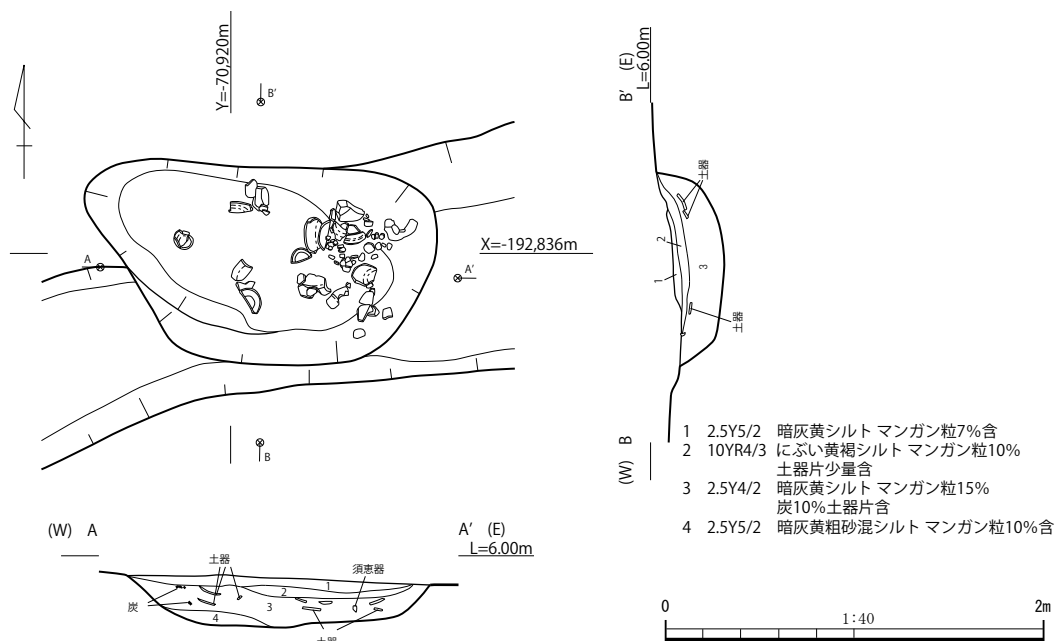


図 54 36 土坑実測図 (S=1/40)

85 溝

34 溝の北側に位置し、重複する小穴列に先行する。遺構は 34 溝と平行に延び、検出した延長は 8.26 m、幅 0.15 ~ 0.35 m、残存する深さ 0.02 ~ 0.03 m である。埋土はマンガン粒を含む灰白色シルト質の単層である。

《ピット》

小穴列 (写真図版 36)

34 溝の北側に位置する。長軸 0.10 ~ 0.30 m、短軸 0.10 m、残存する深さ 0.05 ~ 0.10 m の小穴が 0.80 m の間隔で並ぶ。

出土遺物は、小穴の一つから飛鳥・奈良時代の須恵器片が 1 点出土するのみであった。この小穴列は 34 溝と平行に並ぶことから、34 溝に付随する遺構の可能性はある。

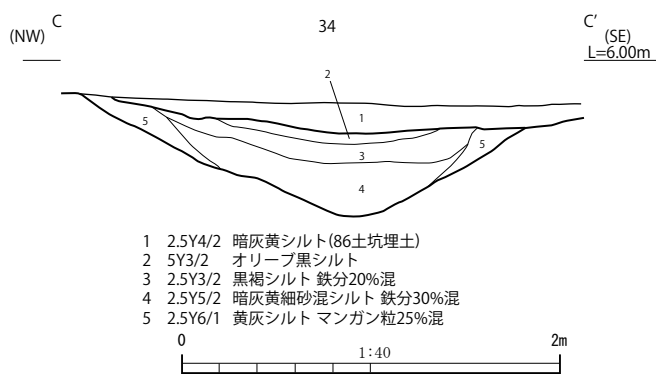


図 55 34 溝土層断面図 (S=1/40)

(3) 中世以降の遺構と遺物

《土坑》

37 土坑

4-2 区の北部で検出した土坑である。重複する 39 溝に後出する。遺構の平面形は楕円形であり、規模は南北 0.40 m、東西 0.50 m である。遺構の断面形は皿形で、残存する深さは中心の最も深い箇所 0.10 m である。埋土は 2 層に分層でき、上層から灰黄色粗砂、浅黄色シルト混細砂である。遺物は黒色土器、近世陶磁器 (269) などが出土した。

《溝》

19～21 素掘り小溝 (写真図版 37)

4-1 区と 4-2 区の境界付近で検出した耕作痕状の遺構である。遺構は総じて南北方向に延び、幅 0.3～0.6 m、残存する深さ 0.06～0.10 m である。19・20・21 いずれの溝も、埋土はマンガング粒を含む灰黄色シルト質の単層である。遺物は 21 溝より須恵器片が 1 点出土するのみであったが、埋土は基本層序の第 3 層と類似することから、中世以降に帰属するとみられる。

なお、調査区は延長 300 m 以上にわたるため、各区の層位の対応関係はすべてにおいて合致するわけではないが、「1 区・3 区・4 区それぞれの第 1 層」、「1 区の第 3 層と 3 区の第 2 層と 4 区の第 2 層」、「1 区の 4・5・6・7 層と 2 区の 7・8・9・10 層」「1 区・3 区・4 区それぞれの基盤層」、「3 区と 4 区の第 4 層」はそれぞれ対応すると考えられる。

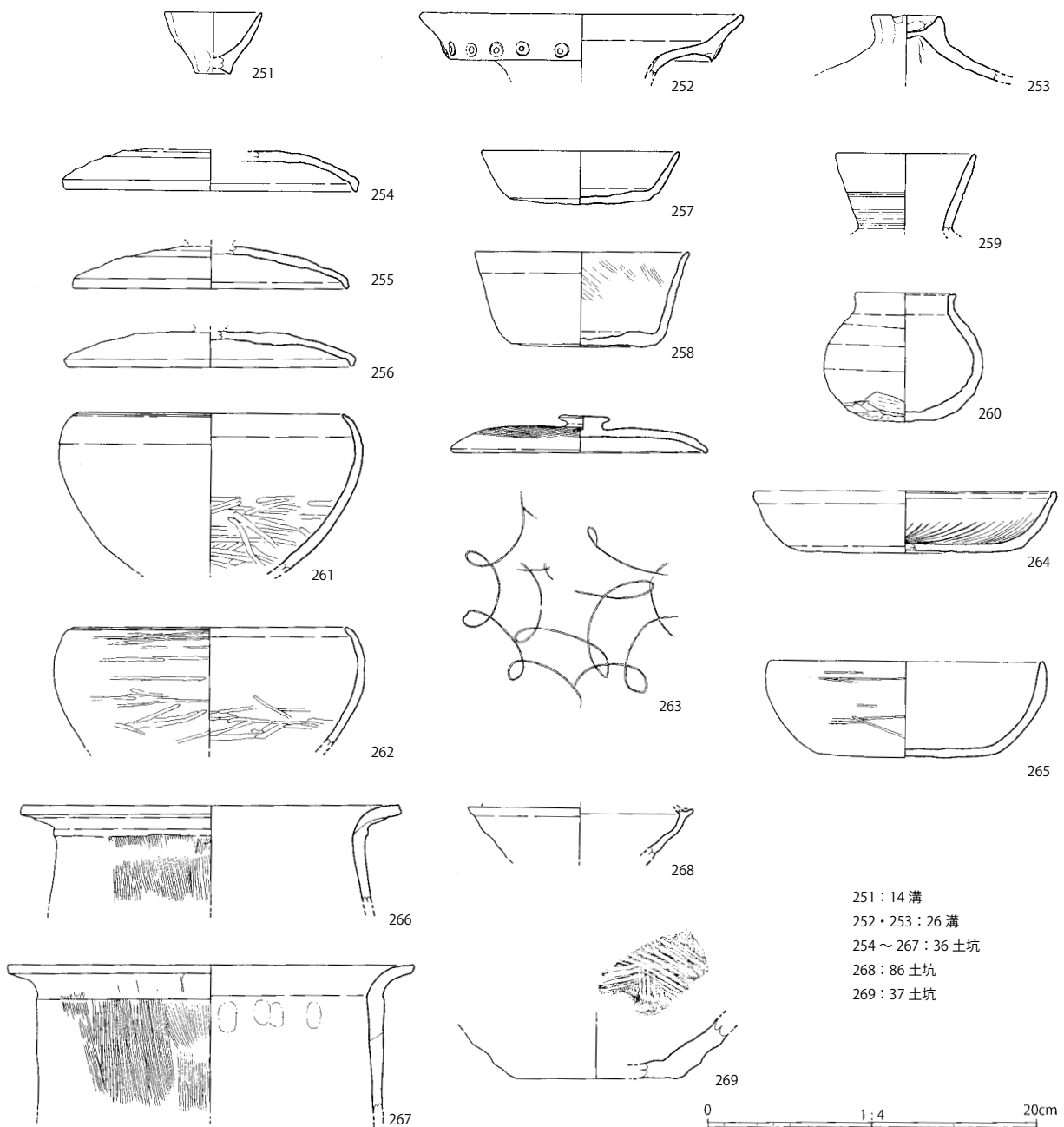


図 56 第 4 次調査出土遺物実測図

第5章 まとめ

出土遺構について

今回の調査地は田屋遺跡の東部にあたり、とりわけ3区・4区は既往調査例が少ない田屋遺跡北東部の様相を明らかにした。

今回の調査地の南部（2-2区・2-3区）では古墳時代の竪穴建物12棟や、北東から南西へ延びる古墳時代の溝を複数条検出した。竪穴建物の軸は総じてこれらの溝と平行である。なお、2-2区の北端・2-3区の南端はそれぞれ自然流路・低湿地であることを確認した。

今回の調査地の中央部から北部（1区・2-1区・3区・4区）では、飛鳥・奈良時代を中心に、弥生時代後期以前、古墳時代、中世以降など様々な時期の溝があるが、これらの溝は自然地形にそって北東から南西へ延びるものが多い。一方、1区・4区の素掘り小溝群や、3区の遺物を多く含んだ33溝・67溝といった溝は、現在の地割と平行に延びることが確認されている。また、3区では、33溝が六箇井用水の南側で条里に基づく東西方向に流れており、当時の幹線水路にかかわる可能性がある。

2-2区・2-3区より北では、古墳時代の竪穴建物は確認できなかった。2-2区の北端と1区の南端に広がる自然流路は、埋土を同じくすることから一つの自然流路と考えられる。この自然流路を境に南と北で遺構の分布が大幅に変わっており、自然流路が集落の境であると考えられる。同様の例が過去の調査（県1～5・市18）でも確認されている。

第3節でも触れたが、田屋遺跡内では旧河道が複数延びており、これらの旧河道は現地形や今までの発掘調査によって復元がなされている（市15・市18・市28）。今回の調査により、1区の南部から2区の北部にかけて自然流路が検出され、新たに旧河道Dの存在が想定される（図57）。また、今回の第4次調査に先立つ確認調査（県教育委員会2020）で自然流路の肩部が見つかっているため、旧河道Bの範囲についても図57のように想定される。

集落の移り変わりについて

竪穴建物が集中して確認され、かつ建物の時期が遺物や構造から分かるものに限るが、集落の移り変わりを図57に示す。なお、建物の時期区分は当文化財センター1990、旧河道の位置は（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団2017に基づく。

弥生時代～古墳時代移行期（3世紀前半ごろ）の集落は、旧河道Aに合流するA-2の東側（市5・7・8の東側及び県1～5の北側）で確認される。この時期の竪穴建物は円形である。

古墳時代（3世紀後半ごろ）に入ると、遺跡西側の河道A-2の南西（市25・27・30・31）や、遺跡の北西端部（市3・6）で集落が確認されるようになる。この時期の竪穴建物は方形であり、壁溝と炉を有する。また、壁溝の内側にベッド状遺構と呼ばれる高まりを有するものも多い。

4世紀ごろには、3世紀後半ごろから集落が見られるようになったA-2の西側でより多く竪穴建物が確認されるようになる一方、A-2の東側ではほとんど建物が見られなくなる。4世紀後半ごろになると、建物にカマドが造られ始めるが、5世紀ごろの建物には炉が無くカマドが造られている状況が確認されている。

古墳時代中期になると、3世紀前半ごろに集落があった箇所でも再び集落が確認されるようになる。この時期の竪穴建物は方形で壁溝を有する。

古墳時代後期には、集落が北東へ移動し、今回の2区に集落が見られるようになる。

飛鳥時代以降になると、時期の明確な建物群が確認されなくなるが、今回の第3次調査（県15）で奈良時代の遺物を多数有する溝を検出したことから、付近に集落が存在する可能性がある。

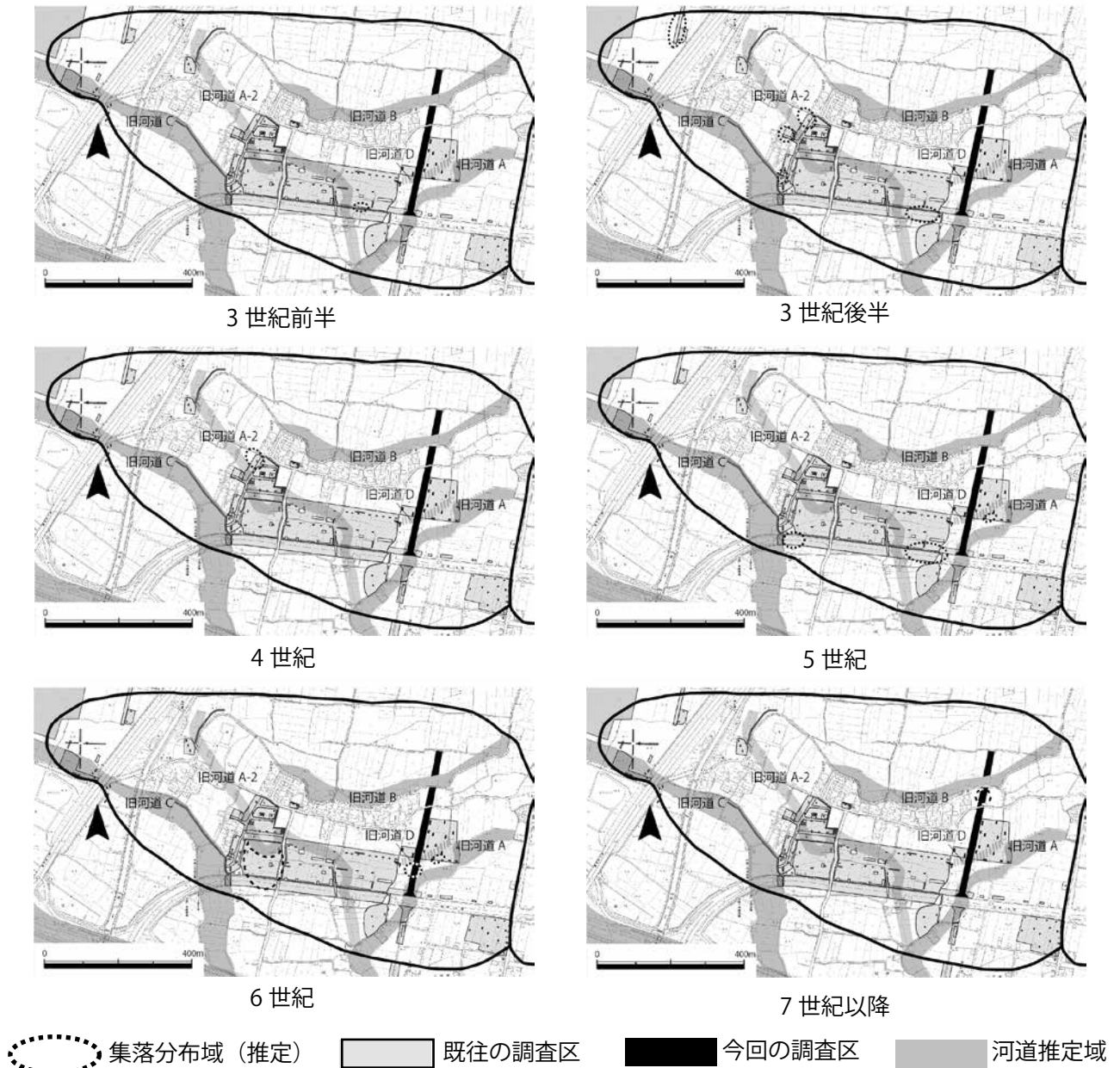


図 57 集落の変遷案（市財団 2017 を改変）

参考文献

- (財) 和歌山県文化財センター 1990 『田屋遺跡発掘調査報告書 - 一般国道 24 号 (和歌山バイパス) 建設工事に伴う発掘調査 -』
- 中村浩・藤原学編 1996 『須恵器集成図録』第 2 巻近畿編Ⅱ 雄山閣
- 和歌山市教育委員会 2011 『和歌山市内遺跡発掘調査概報 - 平成 21 年度 -』
- 和歌山市教育委員会 2012 『和歌山市内遺跡発掘調査概報 - 平成 22 年度 -』
- (財) 和歌山市都市整備公社 2012 『田屋遺跡 第 6 次発掘調査報告書』
- (公財) 和歌山市文化スポーツ振興財団 2014 『田屋遺跡 第 7・8 次発掘調査報告書』
- 和歌山市教育委員会 2015 『和歌山市内遺跡発掘調査概報 - 平成 25 年度 -』
- 和歌山市教育委員会 2016 『和歌山市内遺跡発掘調査概報 - 平成 26 年度 -』
- (公財) 和歌山市文化スポーツ振興財団 2017 『田屋遺跡 第 18 次発掘調査報告書』
- 和歌山県教育委員会 2020 『和歌山県埋蔵文化財調査年報 - 平成 30 年度 -』

遺物観察表(土器類) 径の()は復元した径 高さの()は残存高 色調の内・外・断は「面」を省略している

報告書番号	図・写真図版	種類器種	調査区地区	出土遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
1	図13 図版38	須恵器杯身	1-1区 J10ℓ15	4溝	-	(1.5)	9.5	30%	内面底部～外面高台部に回転ナデ 外面底部未調整 高台の作りが粗雑か	内:N7/0 灰白 外:N5/0 灰	密 1mm以下の黒色粒を微量含む	良好	一部反転復元 2-1区201溝 と同一遺構
2	図13	須恵器壺	1-1区 J10ℓ15	4溝	-	(6.3)	(10.0)	体部～ 底部 30%	内面体部に回転ナデ 内面底部にナデ 外面体部上方に回転ナデのちナデ 外面体部下方に回転ヘラケズリ 断面に粘土紐の痕跡	内:N4/0 灰 外:N5/0 灰	粗 2.5mm以下の灰色・白色粒を多量、チャートを微量に含む	良好	反転復元 2-1区201溝 と同一遺構
3	図13 図版38	須恵器平瓶	1-1区 J10ℓ15	4溝	-	(5.6)	-	5%	内外面全体に回転ナデ	内:N5/0 灰 外:N6/0 灰	やや密 1.5mm以下の白色粒を少量含む	堅緻	一部反転復元 2-1区201溝 と同一遺構
4	図13 図版38	須恵器甕	1-1区 J10k16	4溝	(34.3)	(6.6)	-	口縁部～ 肩部 10%	内面体部に当て具痕 内面口縁端部に沈線1本 外面体部に平行タタキのちカキ目	内:N4/0 灰 外:N5/0 灰	やや密 2.5mm以下の白色粒を少量含む	良好	反転復元 2-1区201溝 と同一遺構
5	図13 図版38	土師器椀	1-1区 J10ℓ15	4溝	(11.8)	(2.7)	-	15%	多段ヨコナデ技法 内外面摩滅のため調整不明	内:5YR6/6 橙 外:5YR6/6 橙～ 10YR7/2 にぶい黄橙	やや粗 2.5mm以下のチャート・白色粒・赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元 2-1区201溝 と同一遺構
6	図13 図版38	黒色土器椀	1-1区 J10m15	4溝	(14.1)	(3.5)	-	8%	外面にヨコナデ 内面ヘラミガキだが摩滅	内:N2/0 黒 外:5YR7/4 にぶい橙	密 1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元 2-1区201溝 と同一遺構
7	図13 図版38	黒色土器椀	1-1区 J10m15	4溝	-	(1.4)	(6.7)	5%	内面底部にミガキ 外面にヨコナデ	内:N1.5/0 黒 外:5YR6/4 にぶい橙	密 0.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元 2-1区201溝 と同一遺構
8	図13 図版38	瓦平瓦	1-1区 J10ℓ15	4溝	長軸(12.5)	短軸(7.8)	厚さ(1.8)	5%	凹面に布目 凸面に格子タタキ	内:N5/0 灰 外:N4/0 灰	密 1.5mm以下の白色粒を微量含む	良好	2-1区201溝 と同一遺構
9	図13 図版38	瓦平瓦	1-1区 J10k16	4溝	長軸(10.8)	短軸(10.5)	厚さ2.1～2.2	10%	凹面に布目 凸面に縄目タタキ	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	やや密 1.5mm以下のチャートを微量含む	軟質	2-1区201溝 と同一遺構
10	図13	土製品土錘	1-1区 J10ℓ15	4溝	長さ5.0	径1.0	孔径0.4	98%	管状	内:5YR5/4 にぶい赤褐 外:5YR5/4 にぶい赤褐	やや粗 1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	2-1区201溝 と同一遺構
11	図13 図版38	瓦器椀	1-1区 J10ℓ15	1落ち込み	(14.8)	(2.7)	-	5%	外面体部にユビオサエ 内外面摩滅のため調整不明	内:N5/0 灰 外:N4/0 灰	密 0.5mm以下の白色粒を微量含む	良好	
12	図13	瓦器椀	1-1区 J10ℓ15	1落ち込み	-	(0.8)	(6.0)	5%	内外面摩滅のため不明	内:10Y4/1 灰 外:5Y6/1 灰	密 1mm以下の灰色・淡褐色粒を少量含む	やや軟質	反転復元
13	図13	黒色土器鉢か	1-1区 J10m19	1落ち込み	-	2.9	(11.3)	5%	内面底部摩滅のため調整不明	内:N 2/0 黒 外:2.5YR5/6 明赤褐	密 0.5mm 以下の赤色酸化粒・白色粒を少量含む	良好	反転復元
14	図13 図版38	黒色土器椀	1-1区 J10ℓ19 m19	1落ち込み	-	(1.8)	(8.2)	5%	内面摩滅のため調整不明	内:N2/0 黒 外:7.5YR8/3 浅黄橙	密 1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元
15	図13 図版38	土師器甕	1-1区 J10m18	1落ち込み	(31.5)	(4.3)	-	口縁部 10%	内面口縁部にハケ目 内面口縁部～外面口縁部にヨコナデ 外面体部にタテハケ	内:7.5YR6/3 にぶい褐 外:7.5YR5/2 灰褐	粗 2mm以下の片岩を多量に含む	良好	反転復元
17	図13 図版38	須恵器杯身	1-3区 J10s21	自然流路	(11.4)	(4.5)	-	10%	回転ナデ 外面底部回転ヘラケズリ 外面受け部に重ね焼きの痕跡	内:N7/0 灰白 外口縁～体部:N7/0 灰白、 外底部:N4/0 灰	やや粗 1mm以下の酸化還元粒を多量、1.5mm以下の灰色砂粒を微量含む	堅緻	反転復元
19	図13 図版38	白磁碗	1-3区 J1	機械掘削	(15.2)	(3.0)	-	8%	口縁部は玉縁状に成形	内:5Y7/2 灰白(釉) 外:5Y7/2 灰白(釉)	密	良好	反転復元 12C 中国製か
20	図13 図版38	須恵器杯蓋	1-2区 J1o5	包含層第3～8層	(11.6)	(1.6)	-	5%	回転ナデ	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	やや粗 1mm以下の酸化還元粒・白色粒を少量含む	やや軟	反転復元
21	図13 図版38	土師器皿	1-3区 J1q22	包含層第8層	(9.9)	(2.1)	-	20%	内面底部ユビオサエ 内面口縁部ヨコナデ	内:10YR7/3 にぶい黄橙 外:7.5YR6/3 にぶい褐	密 1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元
22	図13 図版38	土製品土錘	1-2区 J1m5	包含層第7～8層	長さ4.4	径0.95	孔径0.8	95%	管状	内:7.5YR8/3 浅黄橙 外:7.5YR8/3 浅黄橙	密 2mm以下の赤色酸化粒を微量含む	良好	
23	図13 図版38	須恵器杯蓋	2-1区 J10	201溝	(12.2)	3.6	-	50%	内面～外面体部に回転ナデ 外面天井部に回転ヘラ切後未調整	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰白	密 1.5mm以下の白色粒を少量含む	良好	反転復元 1-1区4溝と 同じ遺構か
24	図13 図版38	須恵器壺	2-1区 J10	201溝	-	(2.6)	(6.0)	底部の 50%	内外面に回転ナデ 外面に自然釉	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 1.5mm以下の酸化還元粒を少量含む	やや軟質	反転復元 1-1区4溝と 同一遺構
25	図13 図版38	須恵器鉢か	2-1区 J10	201溝	(34.8)	(13.6)	-	5%	口縁部に回転ナデ 内面体部にナデ 外面体部は摩滅のため調整不明	内:N5/0 灰 外:N7/0 灰白	やや粗 1.5mm以下の白色粒を多量に含む	やや軟質	反転復元 1-1区4溝と 同一遺構
26	図32 図版39	土師器甕	2-2区 J2v9	竪穴建物277	(13.0)	(7.2)	-	5%	内外面剥離・摩滅のため調整不明	内:10YR7/2 にぶい黄橙 外:5YR5/4 にぶい赤褐	密 1mm以下の赤色酸化粒、チャートを少量含む	良好	反転復元
27	図32 図版39	弥生土器甕	2-3区 J2v10・11	竪穴建物277	-	(1.9)	3.5	底部の 80%	底部外面に黒斑 外面体部に平行タタキ 平底	内:5YR6/6 橙、2.5Y5/1 黄灰 外:5YR5/6 明赤褐	密 2mm以下の灰色粒を少量含む	良好	
28	図32 図版39	土師器高杯	2-3区 J2u11 v10・11	竪穴建物277	13.4	(5.6)	-	杯部の 90%	内外面摩滅のため調整不明	内:2.5YR5/8 明赤褐 外:5YR5/6 明赤褐	やや粗 2.5mm以下の赤色酸化粒、チャート、白色粒を多量に含む	良好	
29	図32 図版39	土師器甕か	2-2区 J2v9	竪穴建物277	(25.8)	(8.2)	-	口径部の 60%	外面にハケ目 口縁端部に黒斑 内外面剥離・摩滅のため不明	内:5YR5/6 明赤褐 外:5YR5/4 にぶい赤褐、 10YR8/2 灰白	粗 2.5mm以下の赤色酸化粒、白色粒、チャートを多量に含む	良好	反転復元
30	図32	須恵器杯蓋	2-3区 J2t12	竪穴建物278 328土坑	(12.1)	(4.3)	-	5%	内面全体・外面体部に回転ナデ 外面天井部に回転ヘラケズリ ロクロ反時計回り	内:N5/0 灰 外:N4/0 灰 断:N5/0 灰	密 0.5mm以下の白色粒を微量含む	良好	反転復元

報告書番号	図・写真図版	種類器種	調査区地区	出土遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
31	図32 図版39	須恵器 高杯	2-3区 J2tu12	竪穴建 物278		(5.7)	(8.8)	5%	外面脚部にのカキ目 外面脚端部と内面全体に回転ナデ スカシあり	内:N5/0 灰 外:N6/0 灰	密 1mm以下の白色粒を微量	良好	反転復元 二次焼成
32	図32	土師器 甕	2-3区 J2t11・ 12	竪穴建 物278 301カ マド	(13.0)	11.9	-	70%	内面口縁部・外面全体にハケ目 内面へラ削り	内:5YR4/1 褐灰 外:5YR7/2 明褐灰、 10R6/4 にぶい赤橙	やや粗 4mm以下のチャート、赤色酸化粒を少量含む	良好	一部反転復元 二次焼成
33	図32 図版39	土師器 杯	2-3区 J2t11	竪穴建 物278 301カ マド	(13.6)	(4.0)	-	10%	内外面摩滅のため調整不明	内:5YR7/6 橙 外:5YR7/6 橙	粗 1mm以下の赤色酸化粒を多量に含む	良好	反転復元
34	図32 図版39	土師器 杯	2-3区 J2t11・ 12u12	竪穴建 物278 301カ マド	-	(4.7)	-	20%	内外面摩滅のため調整不明	内:5YR7/6 橙 外:5YR7/6 橙	粗 1.5mm以下の赤色酸化粒を多量に含む	良好	断面のみ
35	図32 図版39	土師器 杯	2-3区 J2t12	竪穴建 物278 328土 坑	(12.6)	(4.1)	-	15%	外面に黒斑 内外面摩滅のため調整不明	内:5YR7/8 橙 外:5YR7/4 にぶい橙	密 1mm以下の白色粒を微量に含む	良好	反転復元
36	図32 図版39	土師器 高杯	2-3区 J2t11	竪穴建 物278	-	(3.6)	15.1	脚部の 90%	内面脚部にヘラケズリ 脚部内外にヨコナデ 脚裾部に黒斑あり	内:5YR7/6 橙 外:5YR6/6 橙	やや粗 1.5mm以下の赤色酸化粒を多量に含む	良好	
37	図32 図版39	土師器 把手付鳩 か	2-3区 J2t11・ 12u12	竪穴建 物278	-	(11.5)	-	8%	内面ユビオサエ、ヘラケズリ 外面体部にハケ目	内:7.5YR8/2 灰白 外:10YR6/4 にぶい黄 橙	密 1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元
39	図32 図版39	須恵器 杯身	2-3区 J2t11・ 12u12	竪穴建 物280	(11.4)	(4.9)	-	30%	外面・内面に回転ナデ 外面体部にヘラ削り ロクロ時計回り	内:7.5YR8/3 浅黄橙 外:7.5YR8/4 浅黄橙、 N7/0 灰白	密 1.5mm以下の灰色粒を微量含む	良好	反転復元
40	図32 図版39	土師器 甕	2-3区 J2t11・ 12u12	竪穴建 物280	(12.8)	(5.6)	-	10%	内面体部にヘラケズリ 口縁部内外にヨコナデ 外面体部と内面にハケ目	内:7.5YR5/2 灰褐 外:5YR6/6 橙、 7.5YR4/2 灰褐	密 1.5mm以下の赤色酸化粒、チャートを少量含む	良好	反転復元
41	図32 図版39	土師器 甕	2-3区 J2u11・ 12	竪穴建 物280	(13.4)	(4.9)	-	5%	内外面摩滅のため調整不明	内:5YR6/8 橙 外:7.5YR7/6 橙	粗 1.5mm以下の赤色酸化粒、チャートを多量に含む	良好	反転復元
42	図32 図版39	土師器 甕	2-3区 J2u11	竪穴建 物280 384カ マド	(25.4)	(24.8)	-	40%	内面ユビオサエ 外面ハケ目 体部に黒斑 底部孔の痕跡が残存	内:5YR5/8 暗赤褐 外:5YR5/8 暗赤褐	粗 5mm以下の褐色粒を多量含む	良好	反転復元
43	図32 図版39	土製品 紡錘車	2-3区 J2u11・ 12	竪穴建 物280	直径4.9 ×4.7	2.3	孔径0.9	90%	一方から穿孔 内外面摩滅のため調整不明	外:5YR7/4 にぶい橙、 2.5Y8/2 灰白	やや粗 2.5mm以下のチャートを多量に含む	良好	
44	図32 図版39	須恵器 杯蓋	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 824貯 蔵穴	(12.2)	4.5	-	50%	内外面口縁部回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ ロクロ反時計回り	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	やや粗 1.5mm以下の白色・灰色粒を少量含む	やや 良好	反転復元
45	図32 図版39	須恵器 杯身	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 カマド	10.4	5.9	-	98%	外面体部～底部に回転ヘラケズリ 外面口縁部～体部と内面回転ナデ ロクロ時計回り	内:N6/0 灰 外:N7/0 灰白	密 2.5mm大のチャートを微量、1.5mm以下の白色粒、酸化還元粒を少量含む	良好	
46	図32 図版39	須恵器 杯身	2-2区 J2s1	竪穴建 物406 814柱 穴	11.0	5.8	-	60%	体部内外回転ナデ 底部外面回転ヘラケズリ 底部内面ナデ ロクロ反時計回り	内:10YR5/1 褐灰 外:N4/0	密 1mm以下の白色粒、赤色酸化粒を微量含む	良好	一部反転復元
47	図32 図版39	須恵器 高杯	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 824貯 蔵穴	-	(5.3)	(10.1)	脚部の 25%	外面カキ目 外面全体に自然釉 方形スカシあり	内:N4/0 灰 外:N5/0 灰	密	良好	反転復元
48	図32 図版39	土師器 壺	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 カマド	(10.6)	14.3	-	50%	内面および外面底部ナデ 口縁部内外ヨコナデ 外面体部へラ状工具によるナデ	内:7.5YR8/3 浅黄橙 外:5YR6/6 橙～ 7.5YR6/6 橙	密 2.5mm以下の赤色酸化粒を多量、チャートを少量含む	良好	一部反転復元
49	図32 図版40	土師器 壺	2-2区 J2s1	竪穴建 物406	-	4.1	-	全体の 30%	体部は内外面摩滅のため調整不明 底部に置台にした痕跡と黒斑有り	内:10YR7/4 にぶい黄 橙 外:5YR6/6 橙	密 0.5～1.5mm大の赤色酸化粒を少量含む	良好	一部反転復元
50	図32 図版40	土師器 壺	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 824貯 蔵穴	-	(5.5)	-	40%	内面ナデ・ユビオサエ	内:5YR5/6 明赤褐 外:10YR4/2 灰黄褐～ 5YR5/6 明赤褐	粗 1.5mm以下の赤色酸化粒、白色粒を多量に含む	良好	一部反転復元
51	図32 図版40	土師器 高杯	2-2区 J2s1	竪穴建 物406	(13.2)	4.9	-	杯部の 15%	口縁部内面ハケ 内外面摩滅のため調整不明	内:7.5YR5/2 灰褐 外:10YR4/1 褐灰	密 1mm以下の白色・灰色粒を少量含む	良好	反転復元
52	図33 図版40	土師器 甕	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 824貯 蔵穴	(20.0)	(13.1)	-	15%	体部内面にタテ方向のナデ 外面にハケ目 口縁部は内外面摩滅のため不明	内:7.5YR6/6 橙 外:7.5YR6/6 橙	粗 3mm以下の赤色酸化粒、石英、灰色粒を多量に含む	良好	反転復元
53	図33 図版40	土師器 甕	2-2区 J1t25	竪穴建 物406	(12.4)	5.5	-	20%	口縁部内外面ともヨコナデ 体部外面ハケ目	内:10YR8/2 灰白 外:10YR5/1 褐灰、 2.5YR7/3 淡赤橙	やや粗 0.5～2mm大の白色・灰色粒を少量含む	良好	反転復元
54	図33 図版40	土師器 甕	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 カマド	(12.7)	(6.9)	-	8%	口縁部内外面ヨコナデ ユビオサエ 外面口縁部にハケ目	内:2.5YR5/6 明赤褐 外:7.5YR6/4 にぶい橙	密 1.5mm以下のチャート微量含む	良好	反転復元
55	図33 図版40	土師器 甕	2-2区 J2r1	竪穴建 物406 カマド	(16.0)	-	24.1	60%	内面体部ヘラケズリ 内面底部ナデ・ユビオサエ 口縁部内外ヨコナデ 外面体部～底部ハケ目	内:7.5YR5/4 にぶい褐 ～7.5YR4/1 褐灰 外:5YR5/6 明赤褐、 7.5YR6/4 にぶい橙	粗 4mm以下の赤色酸化粒を多量に含む	良好	反転復元
56	図33 図版40	土師器 把手付鳩 か	2-2区 J2r2	竪穴建 物406 806柱 穴	30.5	29.5	16.8	100%	内面体部板状工具によるナデ 内面底部にナデおよびユビオサエ 外面口縁部ヨコナデ 外面体部および内面口縁部ハケ目	内:2.5YR6/6 橙 外:5YR6/6 橙	粗 6mm以下の赤色酸化粒、石英、白色粒を多量含む	良好	6C 後半

報告書番号	図・写真図版	種類器種	調査区地区	出土遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
57	図33 図版40	土師器 把手	2-2区 J1s25	竪穴建 物406 809柱 穴	-	(6.5)	-	5%以下	内面にナデ 内面下部に ハケ目	内:5YR5/6 明赤褐 外:5YR5/6 明赤褐	粗 3mm以下の赤色 酸化粒、白色粒を多 量に含む	良好	
58	図33 図版40	土師器 把手	2-2区 J1y25	竪穴建 物406 カマド	-	(6.2)	-	5%以下	内面に縦方向のナデ 外 面ユビオサエ・ナデ	内:5YR5/6 明赤褐 外:7.5YR4/3 褐	粗 2.5mm以下の赤色 酸化粒、白色・灰色 粒を多量含む	良好	
59	図33 図版40	土師器 甑	2-2区 J1s25 J2r1	竪穴建 物406 カマド	-	(3.0)	-	5%以下	内面底部ナデ・ユビオサ エ	内:5YR5/6 明赤褐 外:5YR5/6 明赤褐	やや粗 1mm以下の 白色・灰色粒、赤色 酸化粒を多量に含む	良好	
60	図33	土師器 製塩土器	2-2区 J2r1	竪穴建 物406	5.9	3.3	-	10%以下	内外面摩滅のため調整 不明	内:7.5YR7/6 橙 外:7.5YR7/4 にぶい橙	密 1mm以下の赤色 酸化粒を微量含む	良好	反転復元
62	図33 図版40	須恵器 杯蓋	2-2区 J1p24	竪穴建 物409	(11.7)	4.4	-	20%	内外面口縁部に回転ナデ 外面天井部に回転ヘラケ ズリ ロクロ反時計回り	内:N4/1 灰 外:N5/1 灰	密 1mm大の灰色粒 を微量含む	良好	反転復元
63	図33 図版40	須恵器 高杯	2-2区 J1q24	竪穴建 物409 カマド	9.5	7.8	7.6	80%	回転ナデ 外面杯底部回 転ヘラケズリ スカシ3 方向あり ロクロ時計回 り	内:N3/0 暗灰 外:N3/0 暗灰	密 1.5mm以下の チャートを多量に含 む	堅緻	
64	図33 図版40	土師器 杯	2-2区 J1q24	竪穴建 物409 カマド	11.7	5.0	-	75%	口縁部内外にヨコナデ、 底部に黒斑・外面底部全 体が薄く黒化	内:7.5YR8/2 灰白 外:7.5YR8/4 浅黄橙	密 1.5mm以下の赤色 酸化粒、チャートを 微量含む	良好	
65	図33 図版40	須恵器 杯蓋	2-2区 J2s6	竪穴建 物428 825貯 蔵穴か	(12.7)	4.5	-	70%	外面天井部回転ヘラケ ズリ 外面体部～口縁部と 内面回転ナデ ロクロ反 時計回り	内:N5/0 灰 外:N4/0 灰	粗 3mm大のチャ ートを少量、1.5mm以 下の白色粒を多量に含 む	良好	一部反転復元
66	図33 図版40	須恵器 杯身	2-2区 J2r6	竪穴建 物428 944 ピット	(10.8)	5.1	-	40%	内面底部にナデ 内面・ 外面口縁部～底部上方に 回転ナデ 外面底部下方 に回転ヘラケズリ ロク ロ反時計回り	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰、N4/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を少量含む	良好	反転復元
67	図33 図版40	須恵器 高杯	2-2区 J2s7・t7	竪穴建 物428	(16.2)	(7.9)	-	杯部の 25%	内面に自然釉 外面体部 に波状文 杯底部に回転 ヘラケズリ カキ目のち 工具による波状のナデ	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	密	堅緻	反転復元
68	図33 図版40	須恵器 高杯	2-2区 J2s7・t7	竪穴建 物428	(6.5)	(10.4)	(10.4)	脚部の 25%	内面・外面端部に回転ナ デ 外面にカキ目 スカ シあり	内:N4/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm大の白色粒 を微量含む	良好	反転復元
69	図33 図版40	土師器 甕	2-2区 J2s7・t7	竪穴建 物428	-	(7.6)	-	5%以下	内面口縁部に工具による ナデ 内面体部にナデ 外面は剥離・摩滅	内:5YR6/4 にぶい橙、 7.5YR3/1 黒褐 外:5YR2/1 黒褐	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	良好	断面のみ
70	図33 図版40	土師器 甕	2-2区 J2s6	竪穴建 物428 825貯 蔵穴か	(20.2)	(9.7)	-	口縁部 ～肩部 の30%	内外面口縁部ヨコナデ 内面にヘラケズリ・ナデ	内:5YR4/3 にぶい赤褐 外:5YR6/3 にぶい橙	粗 1.5mm以下の赤色 酸化粒を多量に含む	良好	反転復元
71	図33 図版41	土師器 甑か	2-2区 J2s6	竪穴建 物428 825貯 蔵穴か	(18.8)	(10.1)	-	5%	内面ハケ目あるが 外面 頸部にユビオサエ	内:10YR8/3 浅黄橙 外:5YR7/4 にぶい橙	やや粗 1.5mm以下の チャート、赤色酸化 粒を少量含む	良好	反転復元
73	図34 図版41	須恵器 杯身	2-2区 J2r8	竪穴建 物429	(11.2)	(4.7)	-	40%	内外面回転ナデ 外面底 部に回転ヘラケズリ ロ クロ反時計回り	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	やや粗 2.5mm以下の 白色粒、酸化還元粒 を多量に含む	良好	反転復元
74	図34 図版41	須恵器 杯身	2-2区 J2r9	竪穴建 物429	11.8	5.1	-	90%	口縁部～体部内外に回転 ナデ 内面底部にナデ 外面底部に回転ヘラケ ズリ ロクロ反時計回 り	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	粗 3mm以下の チャート、白色粒を 多量に含む	良好	
75	図34 図版41	須恵器 脚部	2-2区 J2s8・9	竪穴建 物429	-	(2.3)	(12.6)	5%以下	内面～外面脚裾部に回転 ナデ 外面脚部に波状文 あり	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を微量含む	良好	反転復元
76	図34	土師器 甕	2-2区 J2s8	竪穴建 物429	(16.1)	(4.6)	-	5%	外面頸部ユビオサエ 他 は内外面摩滅のため調整 不明	内:7.5YR4/1 褐灰 外:7.5YR7/3 にぶい橙	やや粗 1mm以下の チャート、白色粒を 少量含む	良好	反転復元
77	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2r9	竪穴建 物429 861柱 穴	(16.5)	(5.4)	-	杯部の 40%	内外面摩滅のため調整 不明	内:2.5YR4/8 赤褐 外:2.5YR5/6 明赤褐	粗 4mm以下の片岩 多量、1.5mm大の石英 を少量含む	良好	一部反転復元
78	図34 図版41	土師器 把手	2-2区 J2s8	竪穴建 物429 833壁 溝	-	(5.7)	-	5%	内外面摩滅のため調整 不明	内:7.5YR7/3 にぶい橙 外:2.5YR7/4 淡赤橙	密 1.5mm以下の チャートを少量含む	良好	
79	図34 図版41	土師器 甕	2-2区 J2r8	竪穴建 物429 930土 坑	(16.2)	33.8	体部最 大径 21.5	95%	内面肩部に太いハケ目 内面体部下平板状工具 によるナデ 外面肩部工 具によるアタリ痕あり 外面体部下ハケ目 黒 斑あり	内:5YR8/3 浅橙 外:7.5YR8/2 灰白 2.5YR6/6 橙	粗 4mm以下の チャート、赤色酸化 粒を多量に含む	良好	一部反転復元 長胴甕
80	図34 図版41	土師器 甑	2-2区 J2s8・9	竪穴建 物429	(28.9)	(12.0)	-	5%	内面ナデ・ユビオサエ	内:7.5YR8/3 浅黄橙 外:2.5YR6/6 橙	粗 2.5mm以下の チャートを多量に含 む	良好	反転復元
81	図34	土師器 製塩土器	2-2区 J2r9	竪穴建 物429	(6.7)	(3.0)	-	10%	内面に貝殻条痕 内外面 その他摩滅のため調整 不明	内:2.5YR6/6 橙 外:5YR7/4 にぶい橙	密 0.5mm以下の白色 粒を微量含む	良好	反転復元 丸底Ⅱ式
82	図34 図版41	土師器 製塩土器	2-2区 J2s9	竪穴建 物429 865柱 穴	(7.3)	(7.2)	(3.1)	5%	内面貝殻条痕 外面摩滅 のため調整不明	内:2.5YR6/3 にぶい橙 外:2.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 1.5mm以下の 褐色粒を多量に含む	良好	反転復元 丸底Ⅱ式
83	図34 図版41	須恵器 杯蓋	2-2区 J2s8	竪穴建 物430 838柱 穴	(1.3)	(4.3)	-	杯部の 10%	内面～外面体部に回転ナ デ 外面天井部に回転ヘ ラケズリ ロクロ反時計 回り	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	粗 1mm以下の白色 粒を多量に含む	良好	

報告書番号	図・写真図版	種類器種	調査区地区	出土遺構	法量			残存率	調整	色調	胎土	焼成	備考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
84	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2s9・10	竪穴建 物430 カマド	(13.2)	10.6	8.0	60%	内面脚部ヘラケズリ 外 面杯底部ナデ・ユビオサ エ 他は内外面摩滅のた め不明	内:7.5YR7/4 にぶい橙 10YR8/2 灰白 外:7.5YR8/4 浅黄橙	粗 3mm以下の チャート、片岩を多 量に含む	良好	一部反転復元
85	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2s10	竪穴建 物430 842貯 蔵穴	13.4	(5.4)	-	杯部の 98%	口縁部内外ヨコナデ 口 縁端部内外口縁の1/3の 範囲に黒斑	内:10YR8/2 灰白 外:10YR8/2 灰白	粗 5mm以下の チャート、片岩、石 英を多量に含む	良好	
86	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2st9・ 10	竪穴建 物430	-	(7.7)	8.9	脚部の 80%	内面にシボリ痕 その他 内外面摩滅のため調整不明	内:2.5YR5/4 にぶい赤 褐 外:5YR6/4 にぶい橙	やや粗 2mm以下の チャート、赤色酸化 粒を多量に含む	良好	一部反転復元
87	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2st9・ 10	竪穴建 物430	-	(7.8)	(11.1)	脚部の 70%	内面ヘラケズリ 外面摩 滅のため調整不明	内:5YR5/4 にぶい赤褐 外:5YR6/4 にぶい橙	粗 3mm大の片岩、2.5 mm以下のチャートを 多量に含む	良好	一部反転復元
88	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2s9	竪穴建 物430 カマド	15.9	(6.9)	-	杯部の 99%	杯部内面全体にハケ目 杯部内面底部にタール分 付着	内:5YR6/6 橙 外:2.5YR7/4 淡赤橙、 7.5YR8/3 浅黄橙	粗 1.5mm以下の チャートを多量に含 む	良好	カマドに支脚 として伏せて ある一番上の 高杯
89	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2s9	竪穴建 物430 カマド	-	(6.2)	11.0	脚部の 90%	内外面摩滅のため調整不 明	内:7.5YR7/3 にぶい橙 外:7.5YR7/3 にぶい橙	やや粗 1mm以下の チャートを少量含む	良好	カマドに支脚 として使われ る中央の高杯 カマドに支脚 として伏せて ある一番下の 高杯
90	図34 図版41	土師器 高杯	2-2区 J2s9	竪穴建 物430 カマド	14.4	(5.5)	-	杯部の 100%	内面全体にタール付着 杯部内面・外面口縁部 へ体部にヨコナデ 外面に ナデ	内:2.5YR4/6 赤褐 外:5YR4/4 にぶい赤褐	密 1mm以下の赤色 酸化粒を微量含む	良好	
91	図34 図版41	土師器 甕	2-2区 J2st9・ 10	竪穴建 物430	(13.8)	(9.8)	-	口縁部 へ体部の 20%	内面体部でナデ・ユビオ サエ 外面摩滅のため不 明	内:7.5YR7/3 にぶい橙 外:7.5YR7/3 にぶい橙	密 3mm以下の赤色 酸化粒、チャートを 微量含む	良好	反転復元
92	図34 図版41	土師器 甕	2-2区 J2st9・ 10	竪穴建 物430	(12.4)	(5.4)	-	口縁部 へ体部の 30%	内面体部にナデ 外面 へ内面口縁部にヨコナデ	内:5YR3/2 暗赤褐 外:5YR4/3 にぶい赤褐	密 1.5mm以下の赤色 酸化粒を微量含む	良好	反転復元
93	図34 図版41	土師器 把手	2-2区 J2st9・ 10	竪穴建 物430	-	4.6	-	把手の 95%	手づくね成形	内:5YR5/6 明赤褐 外:10YR8/2 灰白	密 1mm以下の チャートを微量含む	良好	
94	図34 図版42	土製品 土錘	2-2区 J2s8	竪穴建 物430 838柱 穴	径1.2	長さ (4.4)	孔径 (0.4)	95%	管状	内:7.5YR6/2 灰褐 外:2.5Y7/1 灰白	密 1.5mm以下の チャート少量含む	良好	
95	図34 図版42	須恵器 杯蓋	2-2区 J2r5・ 6t6	竪穴建 物582	(12.3)	(3.7)	-	5%	内外面体部に回転ナデ 外面天井部に回転ヘラケ ズリ ロクロ時計回り	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	堅緻	反転復元
96	図34 図版42	須恵器 杯身	2-2区 J2r5・ 6t6	竪穴建 物582	(11.7)	(4.6)	-	20%	内面～外面に回転ナデ 外面底部に回転ヘラケズ リ ロクロ時計回り	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 1mm以下の酸化 還元粒を微量含む	良好	反転復元
97	図34 図版42	須恵器 杯身	2-2区 J2r5・ 6t6	竪穴建 物582	-	(3.6)	-	45%	内面～外面受け部に回転 ナデ 内面底部にナデ 外面底部に回転ヘラケズ リ ヘラ記号あり ロク ロ時計回り	内:N7/0 灰白 外:N6/0 灰	密 1mm以下の酸化 還元粒を多量に含む	良好	反転復元
98	図34 図版42	須恵器 高杯	2-2区 J2r6	竪穴建 物802 935土 坑	(16.1)	(8.7)	-	20%	杯体部外面に波状文 杯 底部に回転ヘラケズリ 脚部にスガシあり ロク ロ反時計回り	内:N5/0 灰 外:N4/1 暗青灰	密 1.5mm以下の灰色 粒を少量含む	堅緻	反転復元
99	図34	土師器 甕	2-2区 J2r6	竪穴建 物802	(15.2)	(2.8)	-	5%以 下	内外面摩滅のため調整不 明	内:5YR6/6 橙 外:7.5YR6/4 にぶい橙	粗 2mm以下の片岩、 石英を多量に含む	良好	反転復元
100	図34 図版42	土師器 甕	2-2区 J2r6	竪穴建 物802	-	(4.5)	-	5%以 下	内外面摩滅のため調整不 明	内:7.5YR8/4 浅黄橙 外:7.5YR6/3 にぶい褐	粗 2mm以下の赤色 酸化粒、チャート、 白色粒を多量に含む	良好	断面のみ
101	図34 図版42	土師器 製塩土器	2-2区 J2r6	竪穴建 物802 935土 坑	(6.8)	(3.2)	-	20%	内外面摩滅のため調整不 明	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR6/6 橙	粗 1mm以下の褐色 粒を多量に含む	良好	反転復元
102	図34 図版42	土師器 製塩土器	2-2区 J1p24	竪穴建 物849	(6.7)	3.6	-	50%	内外面摩滅のため調整不 明	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR6/6 橙	密 1.5mm以下の褐色 粒を多量に含む	良好	反転復元 丸底Ⅱ式
103	図34 図版42	土師器 製塩土器	2-2区 J1p24	竪穴建 物849	(7.2)	(3.7)	-	35%	内外面摩滅のため調整不 明	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR6/4 にぶい橙	粗 1.5mm以下の褐色 粒を多量に含む	良好	丸底Ⅱ式
104	図35 図版42	須恵器 杯身	2-3区 J2u13	竪穴状 遺構 364	(11.0)	4.9	-	95%	内外面に回転ナデ 外面 底部に回転ヘラケズリ ロクロ時計回り	内:5PB5/1 青灰 外:N5/0 灰	密 1.5mm以下の白 色・灰色粒を少量含 む	堅緻	一部反転復元
105	図35 図版42	土師器 甕	2-3区 J2t13	竪穴状 遺構 364	(13.3)	(8.2)	-	口縁部 へ肩部 の30%	内面口縁部～外面口縁部 にヨコナデ 内面体部に ナデ・ユビオサエ 外面 体部にタテハケ	内:5YR6/4 にぶい橙 外:7.5YR7/3 にぶい橙	粗 1.5mm以下の赤色 酸化粒を多量に含む	良好	反転復元
106	図35 図版42	須恵器 杯蓋	2-2区 J2r3	竪穴状 遺構 427	(11.6)	(4.1)	-	25%	内面・外面口縁部～体部 に回転ナデ 外面天井部 に回転ヘラケズリ ロク ロ反時計回り 自然釉	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 1mm以下の白色 粒、酸化還元粒を少 量含む	良好	反転復元
107	図35 図版42	須恵器 杯蓋	2-2区 J2r3	竪穴状 遺構 427	(13.6)	4.3	-	25%	内面・外面口縁部～体部 に回転ナデのち内面天井 部にナデ 外面天井部に 回転ヘラケズリ ロクロ 反時計回り	内:10YR5/1 褐灰 外:N5/0 灰、10YR6/1 褐灰	やや粗 1.5mm以下の 白色・褐色粒を多量 に含む	やや軟	反転復元
108	図35 図版42	土師器 甕	2-2区 J2r3	竪穴状 遺構 427	(8.8)	(3.3)	-	口縁部 の14%	内面ヨコハケ 外面タテ ハケ	内:7.5YR5/1 褐灰 外:5YR6/1 褐灰	密 1.5mm以下の チャートを微量含む	良好	反転復元
109	図35 図版42	土師器 甕	2-2区 J2r3	竪穴状 遺構 427	(14.3)	(4.7)	-	5%	内外面摩滅のため調整不 明	内:5YR5/6 明赤褐 外:5YR5/6 明赤褐	密 3mm大の片岩、3 mm以下のチャート少 量含む	良好	反転復元
110	図35 図版42	須恵器 杯身	2-3区 J2w14	208土 坑	(11.4)	(4.9)	-	15%	内面～外面受部回転ナデ 外面底部回転ヘラケズリ 外面底部にヘラ記号あり ロクロ時計回り	内:N7/0 灰白 外:N6/0 灰	やや粗 1mm以下の 酸化還元粒を多量、 白色粒、チャートを 微量含む	良好	反転復元

報告 番号	図・写 真図版	種類 器種	調査区 地区	出土 遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
111	図35 図版42	須恵器 杯身	2-3区 J2u14	304土 坑	(13.1)	(4.1)	-	15%	内面～外面受部で回転ナ デ 外面底部に回転ヘラ ケズリ ロック口時計回り	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	密 1.5mm以下の灰色 粒を微量含む	堅緻	反転復元
112	図35 図版42	土師器 製塩土器	2-2区 J2s1	407土 坑	(6.6)	3.6	-	25%	内面全体に貝殻条痕 外 面全体にナデ	内:5YR7/4 にぶい橙 外:7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗 1mm以下の 暗褐色粒を少量含む	良好	反転復元 丸底Ⅱ式
113	図35 図版42	須恵器 杯身	2-2区 J2s5	593土 坑	(11.1)	4.9	-	45%	内外面回転ナデ 外面底 部に回転ヘラケズリ ロ ック口時計回り	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm以下の白色 粒、酸化還元粒を少 量含む	良好	反転復元
114	図35 図版42	土師器 甕	2-2区 J2s6	963土 坑	(12.8)	14.4	-	60%	内外面口縁部にヨコナデ 内面ヘラケズリ 外面体 部にハケ目	内:5YR4/1 褐灰、 7.5YR5/2 灰褐 外:2.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 1.5mm以下の チャート、赤色酸化 粒を多量に含む	良好	一部反転復元
115	図35 図版42	土師器 甕	2-2区 J2s6	963土 坑	13.0	17.4	-	90%	内面口縁部ヨコハケ 内 面体部ヘラケズリ 外面 口縁部ヨコナデ 外面底 部ハケ目 底部黒斑	内:10YR5/6 赤 外:2.5YR6/6 橙	やや粗 1.5mm以下の チャートを多量に含 む	良好	
116	図35 図版43	土師器 甕	2-2区 J2s6	963土 坑	14.8	(20.5)	体部最 大径 17.4	85%	内面口縁部にヨコハケ 内面肩部にヘラケズリ 内面口縁部～外面口縁 部にヨコナデ 外面体部 以下にタテハケ	内:7.5YR7/4 にぶい橙 外:7.5YR7/3 にぶい橙	密 1.5mm以下の灰色 チャートを少量含む	良好	一部反転復元
117	図35 図版43	土師器 甕	2-2区 J2s6	963土 坑	20.5	30.7	体部最 大径 27.5	90%	内面肩部にハケ目 外面 にス付着 外面体部に 黒斑 外面全体にハケ目	内:5YR7/4 にぶい橙 外:5YR6/2 灰褐	密 5mm以下の チャート、赤色酸化 粒を少量含む	良好	
118	図35 図版43	土師器 鉢	2-2区 J2s6	963土 坑	(18.7)	(9.5)	-	20%	外面にハケ目 外面に黒 斑 その他内外面摩滅の ため調整不明	内:7.5YR7/2 明褐灰 外:7.5YR7/3 にぶい橙	密 1.5mm以下の チャートを少量含む	良好	反転復元
119	図35 図版43	須恵器 杯蓋	2-3区 J2vw13	210溝	(14.2)	4.2	-	70%	内外面口縁部～体部に回 転ナデ 天井部回転ヘラ ケズリ ロック口反時計 回り 外面自然釉	内:N4/0 灰 外:N5/0 灰	粗 2.5mm以下の白色 粒、酸化還元粒を多 量に含む	堅緻	一部反転復元
120	図35 図版43	土師器 甕	2-3区 J2v13	210溝	17.5	(23.9)	-	40%	内外面口縁部ヨコナデ 外面口縁部～体部にハケ 目	内:5YR8/3 淡橙 外:5YR7/4 にぶい橙～ 7.5YR6/1 褐灰	粗 2.5mm以下の赤色 酸化粒を多量に含む	良好	一部反転復元 長胴甕
121	図35 図版43	須恵器 杯蓋	2-3区 J2uv13・ 14	274溝	(10.7)	(4.5)	-	25%	外面天井部回転ヘラケズ リ 外面口縁部と内面に 回転ナデ ロック口反時計 回り	内:N6/0 灰 外:N7/0 灰白	やや密 1mm以下の 白色粒、酸化還元粒 を少量含む	良好	反転復元
122	図35 図版43	須恵器 杯蓋	2-3区 J2uv13・ 14	274溝	(12.3)	(4.1)	-	10%	外面天井部回転ヘラケズ リ 外面口縁部と内面に 回転ナデ	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 1mm以下の白色 粒、酸化還元粒を微 量含む	良好	反転復元
123	図35 図版43	須恵器 杯身	2-3区 J2v14	274溝	(12.7)	4.9	-	45%	内外面に回転ナデ 外面 底部に回転ヘラケズリ ロック口反時計回り	内:N4/0 灰 外:N3/0 暗灰	粗 2.5mm以下の白色 粒を多量に含む	堅緻	反転復元
124	図35 図版43	須恵器 杯身	2-3区 J2uv13・ uw14	274溝	(12.9)	(3.8)	-	20%	内外面に回転ナデ 外面 底部に回転ヘラケズリ	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	粗 1mm以下の白色 粒、酸化還元粒を多 量、3×4mm大の灰 色の石含む	良好	反転復元
125	図35 図版43	須恵器 有蓋短頸 壺	2-3区 J2uv13・ uw14	274溝	(9.4)	(3.9)	-	5%	全体に回転ナデ 外面体 部にカキ目 外面肩部に 自然釉と熔着痕	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰、N5/0 灰	密 1mm以下の白色・ 黒色粒を微量含む	堅緻	反転復元
126	図35 図版43	土師器 高杯	2-3区 J2w14	274溝	-	(9.2)	(10.4)	脚部の 60%	内外面摩滅のため調整不 明	内:5YR6/8 橙 外:5YR7/6 橙、 5YR6/8 橙	密 1.5mm以下の赤色 酸化粒を微量含む	良好	一部反転復元
127	図35 図版43	土師器 製塩土器	2-3区 J2uv13・ vw14	274溝	(7.5)	(2.7)	-	10%	内面貝殻条痕 外面にナ デ	内:10R6/4 にぶい赤褐 外:5YR6/4 にぶい橙	密 1mm以下の赤色 酸化粒を微量に含む	良好	反転復元 丸底Ⅱ式
128	図36 図版43	弥生土器 壺	2-2区 J2t1・2	410溝	(11.4)	(3.2)	-	20%	内外面口縁部にヨコナデ 外面口縁部に沈線 頸 部にヘラミガキ	内:5YR6/6 橙 外:5YR6/6 橙	密 1mm以下の白色 粒を微量、石英含む	良好	反転復元
129	図36 図版43	弥生土器 壺甕類	2-2区 J2t2	410溝	-	(2.3)	(4.4)	5%	内面板状工具によるナデ 外面にナデ 平底 外面 底部に黒斑	内:5YR6/6 橙 外:10YR8/2 灰白	密 1mm以下の赤色 酸化粒を少量含む	良好	反転復元
130	図36 図版43	須恵器 杯蓋	2-2区 J2s1	410溝	(12.4)	4.7	-	60%	内外面口縁部に回転ナデ 外面天井部に回転ヘラケ ズリ ロック口時計回り	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	密 1mm以下の灰色・ 白色粒を微量含む	良好	反転復元
131	図36 図版43	土師器 杯	2-2区 J2rs1	410溝	(11.6)	3.2	-	5%	内外面摩滅のため調整不 明	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR7/6 橙	密 1.5mm以下の褐色 粒微量含む	良好	反転復元 二 次焼成
132	図36	土師器 甕	2-2区 J2s4	441溝	(11.9)	(2.3)	-	5%	口縁部にヨコナデ	内:2.5YR4/6 赤褐 外:10YR7/3 にぶい黄 橙	密 1mm大の石英含 む	良好	反転復元
133	図36 図版43	土師器 甕	2-2区 J2s4	441溝	(17.4)	(3.7)	-	5%	口縁部にヨコナデ	内:5YR5/6 明赤褐 外:10YR7/3 にぶい黄 橙	粗 2mm以下の チャート多量に含む	良好	反転復元
134	図36 図版43	須恵器 杯蓋	2-2区 J2s4	495溝	(11.6)	4.2	-	30%	内外面回転ナデ、外面天 井部に回転ヘラケズリ	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	堅緻	反転復元
135	図36 図版43	土師器 杯	2-2区 J2s4	495溝	(12.6)	(3.5)	-	25%	内外面摩滅のため調整不 明	内:5YR7/3 にぶい橙 外:7.5YR8/4 浅黄橙	粗 1.5mm以下の赤色 酸化粒を多量に含む	良好	反転復元 495溝と同一 か
136	図36 図版43	土師器 高杯	2-2区 J2t4・5 u5	494溝	-	(3.1)	(14.9)	裾部の 30%	透かし孔を有する、内面 ユビオサエ	内:5YR7/4 にぶい橙 外:10YR8/2 灰白	やや粗 1mm以下の 赤色酸化粒を多量に 含む	良好	反転復元 495溝と同一 か
137	図36 図版43	弥生土器 甕	2-2区 J2s7	670溝	(15.2)	(2.6)	-	5%	内外面ヨコナデ	内:10YR2/1 黒、 10YR6/2 灰黄褐 外:5YR4/6 赤褐	やや粗 2.5mm以下の チャートを多量に含 む	良好	反転復元 弥生後期中頃 以降
138	図36 図版44	弥生土器 甕	2-2区 J2t7・s8	670溝	(17.5)	4.6a	-	口縁部 の25%	口縁部内外面ハケ目 外 面肩部平行タタキ 内面 体部ヘラケズリ	内:5YR7/4 にぶい橙 外:5YR5/6 明赤褐	粗 2mm大のチャ ート多量、0.5mm大の赤 色酸化粒を微量含む 1.5×4mm大の結晶片 岩含む	良好	反転復元
139	図36 図版44	弥生土器 甕	2-2区 J2t6	670溝	-	(3.1)	(4.3)		内面ナデ・ユビオサエ 外面平行タタキ 外面底 部にユビオサエ	内:7.5YR7/3 にぶい橙 外:7.5YR7/3 にぶい橙	密 2.5mm以下の チャートを多量に含 む	良好	反転復元

報告書番号	図・写真図版	種類器種	調査区地区	出土遺構	法量			残存率	調整	色調	胎土	焼成	備考	
					口径cm	高さcm	底径cm							
140	図36 図版44	弥生土器 甕か	2-2区 J2s7	670溝	-	(3.5)	5.6	底部の60%	内面底部にナデ・ユビオサエ 外面に平行タタキ平底	内:2.5YR4/6 赤褐 外:2.5YR4/6 赤褐	粗 1mm以下のチャートを多量に含む	良好	一部反転復元 弥生後期中頃以降	
141	図36 図版44	土師器 甕	2-2区 J2q8	670溝	(29.7)	(5.1)	-	5%	口縁部外面にハケ目	内:5YR6/6 橙 外:5YR7/6 橙	密 1mm以下のチャート、赤色酸化粒を微量含む	良好	反転復元	
142	図36 図版44	弥生土器 高杯	2-2区 J2s7	670溝	(20.5)	(3.2)	-	5%	外面口縁部にヘラミガキその他内外面摩滅のため調整不明	内:5YR5/6 明赤褐 外:2.5YR4/8 赤褐	密 3mm以下のチャート微量、1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元 弥生後期中頃以降	
143	図36 図版44	弥生土器 高杯	2-2区 J2t6	670溝	(23.6)	(4.2)	-	-	口縁部の10%	口縁端部に黒斑 内外面摩滅のため調整不明	内:2.5YR5/8 明赤褐 外:2.5YR5/8 明赤褐	密 1mm以下の赤色酸化粒、白色粒を少量含む	良好	反転復元 弥生後期か
144	図36 図版44	弥生土器 高杯	2-2区 J2s7	670溝	-	(7.3)	-	-	脚部の40%	内面脚部にシボリ痕 外面ヘラミガキ	内:2.5YR4/6 赤褐、 2.5Y7/2 灰黄 外:2.5Y7/2 灰黄	密 2mm以下のチャート、白色粒を少量含む	良好	一部反転復元
145	図36 図版44	土師器 甕	2-2区 J2t7・s8	670溝	(26.5)	(8.3)	-	5%	外面ナデ、ユビオサエ 外面ハケ目	内:10YR8/2 灰白 外:5YR6/6 橙、 10YR6/3 にぶい黄橙	やや密 1.5mm以下のチャートを少量含む	良好	反転復元	
146	図36 図版44	弥生土器 鉢	2-2区 J2t5・6	670溝	(9.6)	5.5	3.5	60%	内外面摩滅のため調整不明	内外面摩滅のため調整不明	内:5YR6/6 橙 外:2.5YR4/6 赤褐	密 5mm以下の片岩、チャートを少量含む	良好	反転復元
147	図36 図版44	須恵器 杯蓋	2-2区 J1st23・ 24	426自然流路	(10.8)	(4.7)	-	25%	外面口縁部回転ナデ 外面天井部に回転ヘラケズリ ロクロ反時計回り 外面自然釉	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	やや粗 1mm以下の灰色粒を少量含む	良好	反転復元	
148	図36 図版44	須恵器 杯身	2-2区 J1st23・ 24	426自然流路	(10.7)	(3.6)	-	5%	内外面回転ナデ、外面底部ヘラ削り	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	密 0.5mm以下の灰色粒を微量含む	良好	反転復元	
149	図36 図版44	須恵器 杯身	2-2区 J1q24	426自然流路	(9.9)	(3.7)	-	10%	内外面回転ナデ、外面底部回転ヘラケズリ	内:2.5GY6/1 オリーブ灰 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の黒色粒を微量含む	良好	反転復元	
150	図36 図版44	須恵器 短頸壺	2-2区 J1st23・ 24	426自然流路	(8.4)	(3.7)	-	-	口縁部～肩部の25%	外面口縁部に回転ナデ 外面頸部～肩部にカキ目 内面・外面に自然釉	内:N5/0 灰 外:N6/0 灰	やや粗 1mm以下の酸化還元粒を少量含む	良好	反転復元
151	図36 図版44	土師器 甕	2-2区 J1st23・ 24	426自然流路	(11.2)	(5.4)	-	-	口縁部～底部の20%	内外面摩滅のため調整不明	内:7.5YR5/2 灰褐 外:7.5YR7/2 明褐灰	やや粗 1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	反転復元
152	図36 図版44	土師器 高杯	2-2区 J1q24	426自然流路	-	(7.6)	-	20%	内外面摩滅のため調整不明	内:7.5YR8/3 浅黄橙・5YR7/6 橙 外:2.5YR6/6 橙・ 7.5YR8/2 灰白	密 1.5mm以下の赤色酸化粒を微量含む	良好	一部反転復元	
153	図36 図版44	土師器 製塩土器	2-2区 J1q24	426自然流路	(7.7)	(2.6)	-	15%	内面に貝殻条痕 外面摩滅のため調整不明	内:2.5YR6/4 にぶい橙 外:2.5YR6/4 にぶい橙	密 0.5mm以下の褐色粒を少量含む	良好	反転復元 丸底II式	
154	図36 図版44	土師器 製塩土器	2-3区 J2	南部低湿地	(8.1)	(2.2)	-	5%	内面に貝殻条痕 外面摩滅のため調整不明	内:5YR6/6 橙 外:5YR7/4 にぶい橙	粗 1mm以下のチャート・赤色酸化粒を多量に含む	良好	反転復元	
155	図36 図版44	土師器 高杯	2-3区 J2	南部低湿地	-	(6.1)	-	10%	内面脚部シボリ痕 外面摩滅のため調整不明	内:5YR4/3 にぶい赤褐 外:5YR6/6 橙	粗 2.5mm以下の片岩を多量含む	良好	反転復元	
156	図36 図版44	土製品 紡錘車	2-3区 J2u21・ 22	206落ち込み	径(4.1)	厚さ2.9	孔径0.3 ～0.6	30%	算盤玉状 外面ミガキ	内:7.5YR1.7/1 黒 外:5YR3/1 黒褐	密 1mm以下の白色粒、チャートを微量含む	良好	反転復元	
157	図36 図版44	弥生土器 甕	2-2区 J2s8	677ピット	-	(3.2)	7.1	底部の70%	内面ナデ 外面平行タタキ 平底 外面に黒斑あり	内:10YR7/1 灰白 外:5YR5/4 にぶい赤褐	粗 2mm以下のチャート、片岩を多量に含む	良好	反転復元	
158	図36 図版44	須恵器 杯身	2-2区 J2s5	包含層第7層	(11.9)	4.7	-	20%	内外面全体に回転ナデ 内面底部ナデ 外面底部回転ヘラケズリ ロクロ反時計回り	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm以下の白色粒、酸化還元粒を少量含む	良好	反転復元	
159	図47 図版45	弥生土器 甕	3-1区 J10f1	20溝	-	(2.7)	4.2	20%	外面底部ナデ その他内外面とも剥離のため調整不明 ドーナツ底	内:5YR5/6 明赤褐 外:5YR5/4 にぶい赤褐	密 1mm以下の赤色酸化粒、片岩を微量に含む	良好	一部反転復元 弥生後期	
160	図47 図版45	弥生土器 壺	3-1区 J10g7	21溝	-	(1.7)	-	5%	内面縦方向のナデ 外面肩部に刻目 平底	内:7.5YR6/2 灰褐 外:10YR6/1 褐灰	密 2mm大の片岩・白色粒を微量含む	良好	反転復元 弥生後期中頃以降	
161	図47 図版45	弥生土器 壺	3-1区 J10i7	21溝	-	(2.4)	(4.3)	5%	外面底部ナデ・ユビオサエ 平底	内:7.5YR7/3 にぶい橙 外:7.5YR7/4 にぶい橙	密 0.5mm以下の赤色酸化粒を微量含む	良好	反転復元 弥生後期	
162	図47	弥生土器 壺	3-2区 J10i8	49溝	-	(2.3)	(2.9)	5%	外面底部黒斑 内外面摩滅のため調整不明 平底	内:7.5YR5/3 にぶい褐 外:2.5YR5/4 にぶい赤褐	密 7mm第の暗褐色粒1個、0.5mm以下の白色粒を微量含む	良好	反転復元 弥生後期	
163	図47 図版45	弥生土器 甕	3-2区 J10k12	60溝	-	(2.0)	(6.7)	5%	内面底部ユビオサエ 外面ナデ・ユビオサエ 平底	内:7.5YR6/3 にぶい褐 外:7.5YR2/1 黒	粗 2.5mm以下の片岩・チャートを多量に含む	良好	反転復元	
164	図47 図版45	弥生土器 高杯	3-2区 J10j11	61溝	(24.5)	(4.4)	-	5%	口縁端部凹線 他摩滅のため調整不明	内:7.5YR7/3 にぶい橙 外:5YR7/4 にぶい橙	粗 2.5mm以下の片岩を多量に含む	良好	反転復元	
165	図47 図版45	須恵器 壺	3-1区 J10i4	41土坑	-	(11.1)	9.6	40%	内面底部にナデ、外面回転ナデ、回転ヘラケズリ	内:N5/0 灰 外:N6/0 灰	粗 1mm以下の白色粒を多量に含む	良好	一部反転復元	
166	図47 図版45	土師器 皿	3-1区 J10j5	窪穴状遺構35	-	(2.5)	-	5%	内面に斜放射暗文 外面口縁部に横方向のヘラミガキ 内外面とも剥離著しい	内:5YR6/6 橙 外:5YR6/4 にぶい橙	密 1mm以下の赤色酸化粒を微量含む	良好	反転復元 畿内系土師器	
167	図47 図版45	土師器 甕	3-1区 J10j4	58土坑	(27.2)	(5.1)	-	5%	ヨコナデ、外面体部ハケ	内:5YR5/3 にぶい赤褐 外:5YR5/3 にぶい赤褐	粗 4mm以下のチャート、片岩、赤色酸化粒を多量に含む	良好	反転復元	
168	図47 図版45	須恵器 杯蓋	3-1区 J10g3	51土坑	(15.0)	(1.9)	-	20%	口縁部回転ナデ、回転ヘラケズリ、ロクロ反時計回り	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	密 2.5mm大のチャート、灰色粒を少量含む	良好	反転復元	
169	図47 図版45	須恵器 杯身	3-1区 J10g3	51土坑	(15.6)	5.1	(10.8)	45%	口縁部回転ナデ 外面底部回転ヘラ削り	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	粗 1mm以下の白色、酸化還元粒を多量に含む	良好	反転復元	
170	図47 図版45	須恵器 杯身	3-1区 J10g3	51土坑	(17.0)	4.1	(11.0)	30%	口縁部回転ナデ 内面底部ナデ 貼り付け高台	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	粗 2mm以下の白色・灰色粒を多量に含む	良好	反転復元	

報告 番号	図・写 真図版	種類 器種	調査区 地区	出土 遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
171	図47 図版45	須恵器 杯身	3-1区 J10g3	51土坑	(14.8)	3.1	(9.2)	25%	口縁部回転ナデ 外面底 部ナデ	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	やや粗 2.5mm以下の 白色粒を少量含む	良好	反転復元
172	図47 図版45	須恵器 杯身	3-1区 J10g3	51土坑	(13.9)	3.3	(9.6)	40%	外面底部ナデ 口縁部回 転ナデ 口縁部・外面 底部に黒斑	内:10YR6/1 褐灰 外:2.5Y6/1 黄灰	粗 1.5mm以下の黒色 ・褐色粒を多量に 含む	軟質	反転復元
173	図47 図版45	須恵器 杯身	3-1区 J10g3	51土坑	(13.9)	4.1	(10.3)	25%	口縁部回転ナデ 内外面 底部にナデ	内:7.5Y7/1 灰白 外:7.5Y7/1 灰白	密 0.5mm以下の白色 粒を微量含む	軟質	反転復元
174	図47 図版45	須恵器 高杯	3-1区 J10g3	51土坑	(11.3)	5.2	(7.3)	50%	口縁部回転ナデ 内外面 回転ナデ	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	粗 2mm以下の白色 粒を多量に含む	良好	一部反転復元
175	図47 図版45	須恵器 壺	3-1区 J10g3	51土坑	-	(14.0)	10.0	60%	内外面体部回転ナデ 内 面底部ナデ 外面底部へ ラケズリ 内外面に自然 釉	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	やや粗 3mm以下の 灰色粒を多量に含む	良好	一部反転復元
176	図47 図版45	土師器 蓋	3-1区 J10g3	51土坑	(17.0)	3.2	-	20%	外面天井部ヘラミガキ、 剥離著しい	内:5YR5/6 明赤褐 外:2.5YR5/6 明赤褐	密 1mm大の赤色酸 化粒を微量含む	良好	一部反転復元
177	図47 図版45	土師器 皿	3-1区 J10g3	51土坑	(20.7)	3.3	-	75%	内面放射状暗文 外面口 縁部～体部ヨコナデ 外 面底部ヘラケズリ	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR6/6 橙	密 3mm以下の赤色 酸化粒を多量に含む	良好	畿内系土師器
178	図47 図版45	土師器 皿	3-1区 J10g3	51土坑	(15.6)	2.3	(11.4)	10%	内外面ヨコナデ	内:5YR4/6 赤褐 外:5YR4/6 赤褐	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	良好	反転復元
179	図48 図版45	須恵器 杯蓋	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	10.0	3.3	-	55%	口縁部回転ナデ 天井部 は静止ヘラ切り後未調整	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	粗 1mm以下の白色 粒を多量、酸化還元 粒を少量含む	良好	一部反転復元
180	図48 図版45	須恵器 杯蓋	3-1区 J10i2・3	33溝	(11.6)	3.3	-	40%	口縁部回転ナデ 外面天 井部に回転ヘラ切り	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	やや粗 1.5mm以下の 黒色粒を多量に含む	良好	反転復元
181	図48 図版46	須恵器 杯蓋	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	(14.5)	3.5	-	25%	カエリを有する蓋 外面 つまみ・口縁部～内面 全体に回転ナデ 外面天 井部に回転ヘラケズリ	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	堅緻	一部反転復元
182	図48 図版46	須恵器 杯身	3-1区 J10h2・3	33溝	14.7	4.1	9.7	口縁部 の90%	回転ナデ 内面底部にナ デ 外面底部に工具のア タリ痕	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm以下の白色 粒を少量含む	良好	
183	図48 図版46	須恵器 杯身	3-1区 J10h2・3	33溝	(14.3)	4.2	(9.8)	15%	内外面に回転ナデ 内面 底部にナデ 貼りつけ高 台	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を少量含む	良好	反転復元
184	図48 図版46	須恵器 杯身	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	(16.6)	4.3	(11.3)	25%	回転ナデ後内面ナデ 外 面底部に回転ヘラケズリ	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	密 2mm以下の酸化 還元粒を少量含む	良好	反転復元
185	図48 図版46	須恵器 杯身	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	(13.2)	4.1	(7.6)	25%	内面底部～外面高台部 に回転ナデ 外面底部に 回転ヘラケズリ 内面底 部にナデ ロク反時計回 り 外面に自然釉	内:N7/0 灰白 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の酸化 還元粒を微量含む	良	反転復元
186	図48 図版46	須恵器 杯身	3-1区 J10f2・3	33溝	-	(1.8)	(12.4)	底部の 45%	内面～外面底部に回転ナ デ 底部回転糸切り 貼 りつけ高台 ロク反時計 回り	内:N6/0 灰 外:10Y7/1 灰	密 1mm以下の白色・ 黒色粒を少量含む	良好	反転復元
187	図48 図版46	須恵器 皿	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	(21.1)	3.6	(13.0)	20%	口縁部回転ナデ 外面底 部に回転ヘラケズリ 口 クロ反時計回り	内:N3/0 暗灰 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を微量含む	良好	反転復元
188	図48	須恵器 甕	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	-	(6.7)	-	5%	口縁部回転ナデ 内面体 部当て具痕 外面体部平 行タタキ後カキ目 口縁 部に自然釉	内:N4/0 灰、N3/0 暗 灰 外:N4/0 灰、N3/0 暗 灰	密 1.5mm以下の白 色・黒色粒を微量含 む	堅緻	
189	図48 図版46	須恵器 横瓶	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	(9.9)	(11.1)	-	口縁部 の30%	口縁部回転ナデ 内面肩 部にナデ・ユビオサエ 外面肩部平行タタキ後カ キ目 外面口縁部～頸部 自然釉	内:N4/0 灰 外:N3/0 暗灰	粗 3mm以下の白色 粒を多量に含む	堅緻	反転復元
190	図48 図版46	須恵器 把手	3-1区 J10i2・3	33溝	-	(4.6)	-	5%	内面当て具痕 外面平行 タタキ ユビオサエ・ナ デ	内:N7/0 灰 外:N5/0 灰	密 0.5mm以下の酸化 還元粒を微量含む	良好	
191	図48 図版46	須恵器 把手	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	-	(8.0)	-	5%	外面平行タタキ 把手付 近体部に沈線 内面当て 具痕	内:2.5Y8/1 灰白 外:2.5Y8/1 灰白	密 1mm以下の灰色 粒を少量含む	軟質	周山3号窯の 壺に類似
192	図48 図版46	須恵器 不明	3-1区 J10g2・ f3	33溝	長軸 (6.4)	短軸 (5.2)	厚さ 1.1	5%	外面ヘラ描波状文・ハケ 目 内面自然釉	内:N7/0 灰白 外:N3/0 暗灰	密 0.5mm以下の白色 粒を微量に含む	堅緻	
193	図48 図版46	土師器 皿	3-1区 J10hj2・ 3	33溝	(17.1)	3.5	12.0	50%	外面口縁部にヘラミガキ	内:5YR6/4 にぶい橙 外:5YR6/4 にぶい橙	密 2mm以下の赤色 酸化粒を微量に含む	良好	一部反転復元
194	図48 図版46	土師器 杯	3-1区 J10fg2・ 3	33溝	-	(2.5)	(11.5)	底部の 40%	内面底部放射状暗文 見 込み部ヘラミガキ その他 剥離・摩滅のため不明	内:5YR6/6 橙 外:2.5YR5/6 明赤褐	密 1mm大の灰色・褐 色粒を少量含む	良好	反転復元
195	図48 図版46	土師器 杯	3-1区 J10hj2・ 3	33溝	(15.8)	3.4	(13.4)	10%	内面体部ミガキのち暗文、 外面口縁部ミガキ、 底部内外面ナデ	内:5YR7/4 にぶい橙 外:5YR6/4 にぶい橙	密 1mm大の褐色粒 を微量含む	良好	反転復元
196	図48 図版46	土師器 皿	3-1区 J10i2・3	33溝	(20.2)	3.3	-	10%	内面に斜放射暗文 外面 ヨコナデ	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR4/6 赤褐	密 1mm以下の チャートを微量含む	良好	反転復元
197	図48 図版46	土師器 皿	3-1区 J10hj2・ 3	33溝	(24.2)	4.2	-	5%以 下	内面横方向の細かいミガ キのち暗文2段 外面細 かいヘラミガキ	内:5YR6/4 にぶい橙 外:2.5YR6/4 にぶい橙	密 0.5mm以下の褐色 粒を微量含む	良好	反転復元
198	図48 図版46	土師器 甕	3-1区 J10hj2・ 3	33溝	(17.5)	4.3	-	口縁部 の10%	内面体部にナデ・ユビオ サエ 口縁部にヨコナデ 体部ハケ目	内:5YR5/4 にぶい赤褐 外:7.5YR6/3 にぶい褐	粗 2mm以下の石英、 チャートを多量に含 む	良好	反転復元
199	図48 図版46	土師器 甕	3-1区 J10gh2・ 3	33溝	(20.6)	(18.3)	-	5%	内面にナデ 底にナデ・ ユビオサエ 外面底下方 にハケ目 外面体部にヨ コ方向のちタテ方向のハ ケ目 外面焚口上部にタテハケ	内:10R6/4 にぶい赤褐 外:7.5YR7/3 にぶい橙	粗 2mm以下の チャート、赤色酸化 粒を多量に含む	良好	反転復元

報告 書番 号	図・写 真図版	種類 器種	調査区 地区	出土 遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
200	図48 図版46	瓦 平瓦	3-1区 J10h2・3	33溝	長軸 (12.0)	短軸 (10)	厚さ (3.5)	10%	内面に格子文状のタタキ のちナデ 外面に布目	内:N7/0 灰白 N3/0 暗 灰 外:N3/0 暗灰	密 1mm大の灰色粒 を微量含む	良好	
201	図49 図版46	須恵器 杯蓋	3-2区 J10j9	67溝	9.9	3.4	-	80%	内外面口縁部に回転ナデ 外面天井部回転ヘラ切の ち未調整	内:N5/0 灰 外:N6/0 灰	粗 1mm以下の白色 酸化還元粒を多量、2 ~3mmの石英粒少し 含む	良好	
202	図49 図版47	須恵器 杯蓋	3-2区 J10h9	67溝	(11.6)	3.5	-	75%	口縁部回転ナデ 外面体 部ナデおよび工具のあた り痕 外面天井部回転ヘ ラ切り後未調整	内:N4/0 灰 外:N5/0 灰	密 2mm以下の白色 粒を微量含む	良好	一部反転復元
203	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10h9	67溝	11.3	3.1	6.1	95%	口縁部回転ナデ 外面底 部に回転ヘラ切後未調整	内:N7/0 灰 外:N7/0 灰、N5/0 灰	やや粗 1.5mm以下の 酸化還元粒、白色粒 を多量含む	良好	
204	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10j8	67溝	(12.2)	(3.7)	-	25%	回転ナデ、外面底部回転 ヘラ切	内:7.5Y6/1 灰 外:N7/0 灰白	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	良好	反転復元
205	図49	須恵器 杯身	3-2区 J10i9	67溝	(12.5)	4.1	(9.0)	50%	口縁部回転ナデ 内面底 部ナデ 外面底部回転ヘ ラ切後ナデ	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	粗 2~3mm以下の 酸化還元粒微量、1mm 以下の白色粒、酸化 還元粒を多量に含む	良好	反転復元
206	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10i9	67溝	(12.6)	(4.3)	(6.5)	40%	口縁部回転ナデ 外面底 部に静止ヘラ切のち未調 整	外:N5/0 灰 内:N5/0 灰	やや密 1mm以下の 白色・灰色粒を少量 含む	良好	反転復元
207	図49 図版47	須恵器 杯蓋	3-2区 J10j8	67溝	12.9	3.9	-	30%	回転ナデ 天井部回転ヘ ラ削り ロク口反時計回 り	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰~N7/0 灰 白	密 1mm以下の白色 粒、酸化還元粒を多 量に含む	良好	反転復元
208	図49 図版47	須恵器 杯蓋	3-2区 J10k8	67溝	15.9	3.6	-	95%	回転ナデ 外面天井部回 転ヘラケスリ ロク口反 時計回り 内面天井部外 重ね焼き痕	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	粗 4mm大の灰色粒 を微量、2mm以下の酸 化還元粒、白色粒を 多量に含む	良好	
209	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10k8	67溝	(11.5)	3.4	(8.0)	45%	口縁部回転ナデ 外面底 部静止ヘラ切	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm以下の酸化 還元粒を微量含む	良好	反転復元
210	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10i9	67溝	(12.2)	3.9	(9.0)	30%	口縁部に回転ナデ 外面 底部回転ヘラ切	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	やや粗 1.5mm以下の 白色粒を少量含む	良好	一部反転復元
211	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10k8	67溝	12.4	3.6	9.0	95%	回転ナデ 外面底部回転 ヘラ切り	内:N4/0 灰 外:N5/0 灰	粗 1mm以下の白色 粒を多量に含む	良好	
212	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10h9	67溝	(11.6)	3.1	(8.1)	50%	回転ナデ・ナデ・ユビオ サエ 外面底部ヘラ記号	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 1mm以下の酸化 還元粒を微量含む	良好	一部反転復元
213	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10i9	67溝	12.8	3.6	9.5	95%	回転ナデ 外面底部回転 ヘラ切り	内:N7/0 灰 外:N7/0 灰	密 1mm以下の酸化 還元粒を少量含む	軟質	
214	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10k8	67溝	12.2	5.3	8.2	60%	回転ナデ・ナデ 底部に 回転ヘラ切 全体に自然 釉	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	密 1.5mm以下の灰色 粒を微量に含む	良好	
215	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10i9	67溝	(15.6)	3.8	(12.6)	20%	内外全体に回転ナデ 外 面底部に回転ヘラ切り	内:N8/0 灰白 外:7.5Y7/1 灰白	粗 2mm以下の白色・ 灰色粒を多量に含む	軟質	反転復元
216	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10k8	67溝	15.4	4.3	10.4	95%	内面底部ナデ・回転ナデ ・ナデ 外面底部回転ヘ ラ切り 貼り付け高台	内:N5/0 灰 外:4/0 灰	粗 1mm以下の酸化 還元粒、白色粒を多 量に含む	良好	
217	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10k8	67溝	-	(2.6)	10.1	50%	全体に回転ナデのち内面 底部中心にナデ 外面底 部ヘラ切後未調整 貼り つけ高台	内:N7/0 灰白 外:N6/0 灰	密 1mm以下の灰色 粒を微量含む	軟質	一部反転復元
218	図49 図版47	須恵器 杯身	3-2区 J10k8	67溝	-	(2.9)	(10.8)	50%	底部回転ナデ 外面底部 未調整	内:N7/0 灰白 外:7.5Y7/1 灰白	密 3mm大の白色粒 1 個、1mm以下の灰色粒 を微量含む	良好	一部反転復元
219	図49 図版47	須恵器 皿	3-2区 J10i9	67溝	(17.3)	3.1	(12.7)	25%	口縁部回転ナデ、内面底 部にナデ、外面底部に回 転ヘラ切り後ナデ、外面 口縁端部に自然釉	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	堅緻	反転復元
220	図49 図版47	須恵器 皿	3-2区 J10i9	67溝	(27.5)	2.8	22.9	20%	摩滅のため調整不明	内:2.5 Y 8/1 灰白 外:N8/0 灰白	やや粗 1mm以下の 灰色粒を多量に含む	良好	反転復元
221	図49 図版47	須恵器 壺	3-2区 J10k8	67溝	-	(7.7)	9.9	底部の 70%	内面ナデ 外面回転ナ デ・体部下方にヨコ方向 のミガキか 貼り付け高 台	内:5YR6/6 橙 外:5YR7/4 にぶい橙	密 0.5mm以下の白色 粒、チャートを微量 に含む	良好	一部反転復元 二次焼成か
222	図49 図版47	須恵器 壺	3-2区 J10h9	67溝	-	(4.1)	(8.3)	底部の 20%	回転ナデ 外面底部回転 ヘラ切り	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	やや粗 0.5mm以下の 白色粒、酸化還元粒 を多数含む	良好	反転復元
223	図49 図版47	須恵器 壺	3-2区 J10k8	67溝	(5.6)	(5.8)	-	50%	回転ナデ 内面頸部シボ り痕 外面体部ユビオサ エ	内:N6/0 灰 外:N5/0 灰	密 1mm以下の白色 粒を多量に含む	良好	反転復元
224	図49 図版48	須恵器 手捏ね土 器(壺)	3-2区 J10i9	67溝	3.7	4.4	-	98%	内面頸部ヘラ状工具によ るナデ	内:N5/0 灰 外:N4/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を微量に含む	良好	
225	図49 図版48	須恵器 甕か	3-2区 J10h9	67溝	(20.3)	(6.4)	-	口縁部 ~肩部 の25%	口縁部回転ナデ 外面肩 部平行タタキ後回転ナデ	内:N7/0 灰白 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を少量含む	軟質	反転復元
226	図49 図版48	須恵器 甕か	3-2区 J10h9	67溝	(21.0)	7.8	-	5%	回転ナデ	内:10YR8/2 灰白 外:10YR8/3 浅黄橙	密 5mm大のチャート 、1mm大のチャート 微量含む	軟質	焼成不十分、 反転復元
227	図49 図版48	土師器 皿	3-2区 J10i9	67溝	(11.4)	(2.6)	-	25%	摩滅のため調整不明	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR6/6 橙	密 1.5mm以下の赤色 酸化粒を微量に含む	良好	反転復元
228	図49	土師器 杯か	3-2区 J10k8	67溝	-	(2.1)	(11.6)	10%	摩滅のため調整不明	内:N5/0 灰 外:N3/0 暗灰	やや粗 1.5mm以下の チャートを多量に含 む	不良	反転復元
229	図49 図版48	土師器 杯か	3-2区 J10k8	67溝	-	(3.3)	(10.7)	30%	外面体部ミガキか 高台 ヨコナデ 貼りつけ高台	内:7.5YR5/1 褐灰 外:2.5YR5/4 にぶい赤 褐	密 1mm以下の赤色 酸化粒を少量含む	良好	反転復元

報告 番号	図・写 真図版	種類 器種	調査区 地区	出土 遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
230	図49 図版48	土師器 台付皿	3-2区 J10k8	67溝	(19.3)	(2.7)	-	50%	内面口縁端部沈線あり 外面ヘラミガキ 外面底 部螺旋文の暗文、外面底 部高台の剥離痕 剥離箇 所に刻目あり、暗文は高 台の接着後入れた可能性 あり	内:5YR7/4 にぶい橙 外:2.5YR4/6 赤褐	密 1mm以下の赤色 酸化粒を少量含む	良好	反転復元
231	図49 図版48	土師器 甕	3-2区 J10k8	67溝	(18.8)	(7.1)	-	5%	内面体部タテ方向の板状 工具によるナデ 口縁部 ヨコナデ 外面体部ハケ 目	内:7.5YR6/3 にぶい褐 外:5YR6/4 にぶい橙	粗 1.5mm以下の チャートを多量に含 む	良好	反転復元
232	図49 図版48	土師器 甕	3-2区 J10h9	67溝	(22.8)	(6.3)	-	5%	口縁部ヨコナデ 外面体 部ハケ	内:7.5YR8/2 灰白 外:7.5YR6/4 にぶい橙	粗 1mm以下の灰色 粒を多量に含む	良好	反転復元
233	図49 図版48	土師器 高杯	3-2区 J10i9	67溝	-	(5.0)	-	5%	ヨコナデ 内面ユビオサ エ 杯底部穿孔 外面は 面取りを施す(8面)	内:2.5YR6/6 橙 外:2.5YR6/6 橙	密 1.5mm以下の チャートを少量含む	良好	一部反転復元
234	図49 図版48	土師器 盤	3-2区 J10j8	67溝	-	(5.7)	(15.1)	20%	内面工具によるナデ 裾 部ハケ 外面脚部で面取 り(11面)	内:2.5YR5/6 明赤褐 外:2.5YR6/6 橙	密 1mm以下の チャート、赤色酸化 粒を少量含む	良好	一部反転復元
235	図49 図版48	須惠器 把手	3-2区 J10h9	67溝	-	(3.3)	-	5%	内面ナデ 外面ユビオサ エ・ナデ	内:N7/0 灰白 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の黒 色・白色粒を少量含 む	軟質	
236	図49 図版48	土師器 把手	3-2区 J10j8	67溝	-	(8.1)	-	5%	内面ナデ 外面ナデ・ユ ビオサエ 体部タテハケ	内:5YR7/3 にぶい橙 外:5YR7/6 橙	密 1mm以下の赤色 酸化粒を微量に含む	良好	
237	図49 図版48	土師器 把手	3-2区 J10j8	67溝	-	(6.7)	-	5%	内面ハケ 外面ナデ・ユ ビオサエ	内:7.5YR6/2 灰褐 外:2.5YR5/6 明赤褐	粗 2mm以下の チャートを多量に含 む	良好	断面のみ
238	図49 図版48	土製品 土錘	3-2区 J10i9	67溝	長さ (8.4)	径1.6	孔径 (0.6)	90%	管状	内:10YR7/2 にぶい黄 橙 外:10YR7/2 にぶい黄 橙	やや粗 1mm以下の 灰色、白色・色粒 を少量含む	良好	刺網に用いた か
239	図49 図版48	土製品 土錘	3-2区 J10h9	67溝	長さ (6.7)	径1.5 ~1.6	孔径 (0.3)	95%	管状 中央やや膨らむ	内:10YR4/1 褐灰 外:10YR4/1 褐灰	密 0.5mm大の褐色粒 を微量に含む	良好	刺網に用いた か
240	図49 図版48	土製品 土錘	3-2区 J10i9	67溝	長さ (6.8)	径1.8 ~2.1	孔径 (0.4)	80%	管状	内:10YR8/3 浅黄橙 外:10YR8/3 浅黄橙	粗 2~5mm大の チャート微量、1mm以 下の白色・褐色粒を 多量に含む	良好	刺網に用いた か
241	図50 図版48	須惠器 杯身	3-1区 J10i3	46溝状 遺構	(14.8)	3.4	-	30%	口縁部回転ナデ 外面底 部に回転ヘラ切り後ナデ	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	粗 2.5mm以下の灰色 粒を多量に含む	良好	反転復元
242	図50 図版48	土師器 皿	3-2区 J10i12	83土坑	(10.8)	1.8	(8.3)	40%	内面底部ナデ 口縁部ヨ コナデ 外面底部ユビオ サエ 内外面に円形のス ス付着	内:10YR5/1 褐灰 外:2.5YR8/1 灰白、 5YR6/3 にぶい橙	密 1mm以下の褐色 粒を微量含む	良好	反転復元
243	図50 図版48	土師器 釜	3-2区 J10i12	83土坑	(21.9)	(5.3)	-	口縁部 の5%	ヨコナデ 口縁端部内側 に屈曲 外面口縁部工具 アタリ 外面体部スス付 着	内:10YR8/2 灰白 外:10YR6/2 灰黄褐	密 0.5mm以下の チャート少量含む	良好	反転復元
244	図50 図版48	瓦質土器 羽釜	3-2区 J10i12	83土坑	(22.1)	(10.7)	-	10%	内面口縁部ハケ 体部・ 外面口縁部にヨコナデ 外面体部にヘラケズリ	内:10YR3/1 黒褐 外:7.5YR1.7/1 黒	密 1.5mm以下の白 色、黒色粒を少量含 む	良好	反転復元
245	図50 図版48	瓦質土器 羽釜	3-2区 J10i12	83土坑	(25.2)	(4.6)	-	5%	ヨコナデ 内面ハケ・ナ デ 外面体部にスス付着	内:10YR6/2 灰黄褐 外:10YR5/1 褐灰	密 1.5mm以下の白色 粒、チャートを少量 含む	良好	反転復元
246	図50 図版48	青磁 碗	3-2区 J10i12	83土坑	-	4.5	(5.5)	70%	内面底部に圈線 畳付~ 外面底部露胎	釉:7.5Y5/2 灰オリー ブ	密	良好	一部反転復元
247	図50 図版48	白磁 碗	3-1区 J10j1	19溝	-	(3.6)	5.4	30%	内面底部花紋を毛彫り 畳付・内面底部露胎	釉:2.5GY7/1 明オリー ブ 露胎:10Y7/1 灰 白	密	良好	一部反転復 元、中国製
248	図50 図版49	土師器 小皿	3-2区 J10k12	79溝状 遺構	(7.9)	1.4	(4.7)	25%	内外面ヨコナデ 外面底 部ユビオサエ	内:10YR7/2 にぶい黄 橙 外:10YR7/2 にぶい黄 橙	密 0.5mm以下の褐色 粒を微量含む	良好	反転復元
249	図50 図版49	土師器 小皿	3-2区 J10k12	79溝状 遺構	(7.6)	1.7	(4.8)	30%	内外面ヨコナデ 外面ス ス付着	内:7.5YR7/2 明褐灰 外:7.5YR5/1 褐灰	密 1.5mm以下の赤色 酸化粒を少量含む	良好	反転復元
250	図50 図版49	青磁 碗	3-2区 J10k12	79溝状 遺構	-	(2.5)	4.6	底部の 60%	畳付・底部露胎 見込み 部蛇の目軸剥ぎ	釉:5GY4/1 暗オリー ブ 露胎:2.5Y7/1 灰白	密 1mm以下の褐色 粒を微量含む	良好	一部反転復元 中国製
251	図56 図版49	弥生土器 ミナチ ア鉢	4-1区 J9b2	14溝	(5.2)	3.9	(2.4)	25%	手づくね成形 外面黒斑	内:5YR5/4 にぶい赤褐 外:5YR5/4 にぶい赤褐	密 1mm以下の白色 粒を少量含む	良好	反転復元
252	図56 図版49	弥生土器 壺 (二重口 縁)	4-2区 J9d8	26溝	(19.4)	(3.7)	-	口縁部 の10%	口縁部内外ヨコナデ・ユ ビオサエ 外面口縁部貼 り付け円形浮文	内:5YR6/4 にぶい橙 外:7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗 1.5mm以下の チャートを少量含む	良好	反転復元
253	図56 図版49	弥生土器 蓋	4-2区 J9b8	26溝	-	(4.0)	-	5%	内面全体ナデ つまみ部 内側ユビオサエ・ナデ つまみ部に刻みか所 内面シボり痕 外面黒斑	内:5YR5/6 明赤褐 外:5YR6/4 にぶい橙	やや粗 3mm以下の チャート、片岩を多 量に含む	良好	一部反転復元
254	図56 図版49	須惠器 杯蓋	4-2区 J9f9・10	36土坑	(17.5)	(2.5)	-	20%	回転ナデ 内面天井部ナ デ 外面天井部回転ヘラ ケズリ ロクロ反時計回 り	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	密 1.5mm以下の白色 粒・酸化還元粒を少 量含む	良好	反転復元
255	図56 図版49	須惠器 杯蓋	4-2区 J9e9・10	36土坑	(16.6)	(2.8)	-	45%	回転ナデ 内面ナデ 外 面天井部に回転ヘラケ ズリ ロクロ時計回り	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を微量に含む	良好	反転復元
256	図56 図版49	須惠器 杯蓋	4-2区 J9f9・10	36土坑	(17.2)	(2.2)	-	45%	回転ナデ 外面天井部ユ ビオサエ ロクロ反時計 回り	内:N4/0 灰 外:N4/0 灰	粗 2mm以下の灰色 粒を多量に含む	良好	反転復元
257	図56 図版49	須惠器 杯身	4-2区 J9ef9・ 10	36土坑	(11.9)	3.3	(8.5)	50%	回転ナデ 内面底部にナ デ 外面底部回転ヘラ切 り後未調整	内:N6/0 灰 外:N6/0 灰	密 0.5mm以下の白色 粒を微量に含む	良好	反転復元

報告書 番号	図・写真 図版	種類 器種	調査区 地区	出土 遺構	法 量			残存率	調 整	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					口径 cm	高さ cm	底径 cm						
258	図 56 図版 49	須恵器 杯身	4-2区 J9f9・10	36 土坑	12.9	5.9	8.7	80%	内外面回転ナデ 内面斜 め方向のハケ目 内面底 部ナデ 外面底部回転ヘ ラ切 ロクロ反時計回り	内:N5/0 灰 外:N5/0 灰	粗 2mm以下の白色 粒、片岩を多量に含 む	良好	
259	図 56 図版 49	須恵器 瓶類	4-2区 J9f9・10	36 土坑	(8.4)	(4.8)	-	口縁部 の 15%	回転ナデ 外面口縁部 下方キ目 口縁部沈線	内:N6/0 灰 外:N7/0 灰	密 0.5mm大の白色粒 を微量含む	良好	反転復元
260	図 56 図版 49	須恵器 小型壺	4-2区 J9f9	36 土坑	5.9	7.9	-	75%	口縁部・体部回転ナデ 外面底部回転ヘラ削り ロクロ反時計回り	内:N7/0 灰白 外:N7/0 灰白	密 1.5mm以下の酸化 還元粒を少量含む	良好	一部反転復元
261	図 56 図版 49	須恵器 鉢	4-2区 J9f9・10	36 土坑	(16.1)	(9.7)	-	25%	口縁部・体部回転ナデ 内面体部～底部ヘラミガ キ	内:N6/0 灰 外:N7/0 灰白	密 1mm以下の白色、 灰色粒を微量に含む	良好	反転復元 鉄鉢状
262	図 56 図版 49	須恵器 鉢	4-2区 J9ef9・ 10	36 土坑	(16.5)	(7.4)	-	30%	口縁部～体部回転ナデ 内面体部・外面ヘラミガ キ	内:N7/0 灰白 外:N5/0 灰	密 1mm以下の白色 粒を微量含む	堅緻	反転復元 鉄鉢状
263	図 56 図版 49	土師器 蓋	4-2区 J9f9・10	36 土坑	15.3	2.2	-	95%	内面ミガキ後螺旋状に暗 文 外面つまみを中心に 方形にミガキ	内:5YR6/4 にぶい橙 外:2.5YR5/6 明赤褐	密 1mm以下の赤色 酸化粒を微量に含む	良好	
264	図 56 図版 49	土師器 杯	4-2区 J9e9・10	36 土坑	(18.1)	3.8	(14.4)	35%	口縁部ヨコナデ 内面口 縁部に沈線 内面反時計 回り斜交暗文 外面底部 工具によるナデ	内:2.5YR8/3 渋黄 外:2.5YR5/4 にぶい赤 褐	密 1mm以下の赤色 酸化粒を微量に含む	良好	反転復元 畿内系土師器
265	図 56 図版 49	土師器 椀	4-2区 J9e9・10	36 土坑	(16.4)	5.9	(11.1)	25%	外面ヘラミガキ 外面底 部ナデ後ユビオサエ 外 面に黒斑あり	内:5YR6/4 にぶい橙 外:10YR7/4 にぶい黄 橙	粗 2mm以下の チャート、赤色酸化 粒を多量含む	良好	反転復元
266	図 56 図版 49	土師器 甃	4-2区 J9ef9・ 10	36 土坑	(22.7)	(6.0)	-	10%	外面体部タテハケ 口縁 部ヨコナデ 外面口縁部 ～体部に黒斑	内:7.5YR7/2 明褐灰 外:7.5YR6/3 にぶい褐	粗 1.5mm以下の赤色 酸化粒、チャートを 多量に含む	良好	反転復元
267	図 56 図版 49	土師器 甃	4-2区 J9ef9・ 10	36 土坑	(24.7)	(9.0)	-	20%	口縁部ヨコナデ 内面体 部タテ方向ナデ・ユビオ サエ 外面体部タテハケ	内:7.5YR6/2 灰褐 外:5YR4/4 にぶい赤褐	粗 3mm以下の片岩、 チャートを多量に含 む	良好	反転復元
268	図 56	須恵器 杯身	4-2区 J9t13	86 土坑	-	(3.0)	-	5%	回転ナデ	内:N7/0 灰白 外:N4/0 灰	やや粗 1.5mm以下の チャート、白色粒を 多量に含む	やや 軟質	反転復元
269	図 56 図版 49	備前焼 播鉢	4-2区 J9d8	37 土坑	-	(3.7)	(9.7)	5%以 下	内面体部播目 内面底部 ナデ 外面ナデ・ユビオ サエ	内:10R3/2 暗赤褐 外:7.5R4/4 にぶい赤	粗 3.5mm以下の白色 粒を微量含む	良好	反転復元

遺物観察表（石器・石製品）

報告書 番号	図・写真 図版	種類	調査区	出土遺構	法量			重さ g	石材	残存率	備 考
					最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm				
38	図 32 図版 39	石製品 カマド支 脚	2-3区 J2t11	竪穴建物 278 301 カマド	23.5	6.0	8.0	1670	砂岩	100%	上部と側面に叩打痕、下部に撞った痕 跡、上部が赤褐色に変色 磨石・敲石 を支脚に転用か
61	図 33 図版 40	石製品	2-2区 J2r1	竪穴建物 406 815 柱穴	6.2	4.0	4.3	181	チャート	25%以下	上部に研磨状の痕跡 玉砥石か
72	図 33 図版 41	石製品 砥石	2-2区 J2r6	竪穴建物 428 カマド	10.6	17.4	6.1	1910	砂岩	不明	側面に被熱、両面に使用痕 砥石を支脚に転用か

遺物観察表（金属製品）

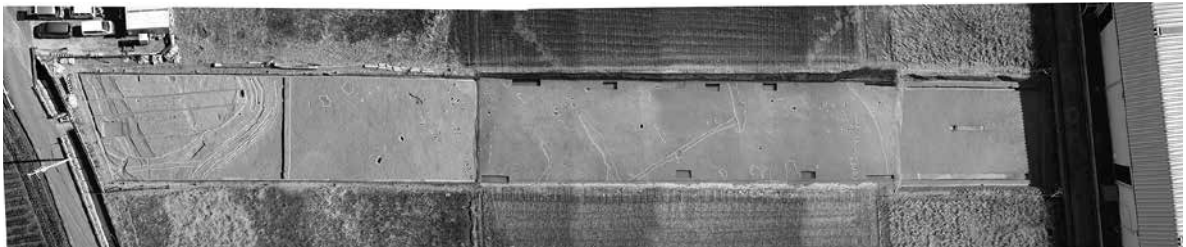
報告書 番号	図・写真 図版	種類	調査区	出土遺構	法量			重さ g	残存率	備 考
					最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm			
16	図 13 図版 38	鉄製品 握り鉄	1-1区 J10l15	1 落ち込み	13.1	2.6	0.55	12.57	80%	握り部分断面が方形
18	図 13 図版 38	銅製品 煙管・雁首	1-1区 J10k17	素掘り小溝群	5.15	1.0	1.5	5.95	雁首の70%	火皿部分欠損、全体に緑青が付着 18世紀か



1 1-1区・1-3区全景（北上空から）



2 1-2区全景（北上空から）



3 1-1区・1-2区・1-3区全景（西上空から）



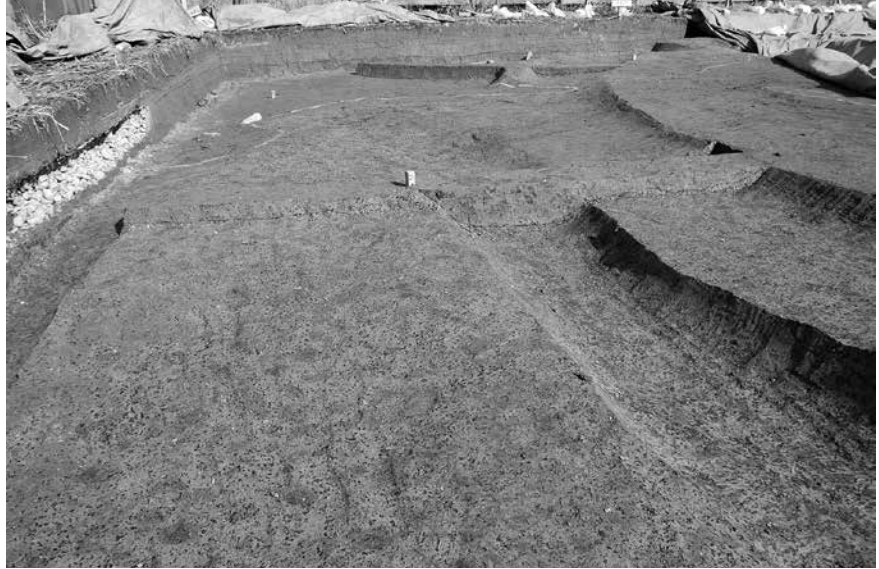
1 1-3区西壁・自然流路土層断面（北東から）



2 1-1区 掘立柱建物（北から）



3 掘立柱建物内6柱穴土層断面（南から）



1 1-1区 1 落ち込み・2 溝土層断面（南から）



2 1-1区 3 溝土層断面（南から）



3 1-1区 4 溝検出状況（南東から）



1 4 溝遺物等出土状況 (南東から)



2 4 溝土層断面 (南から)



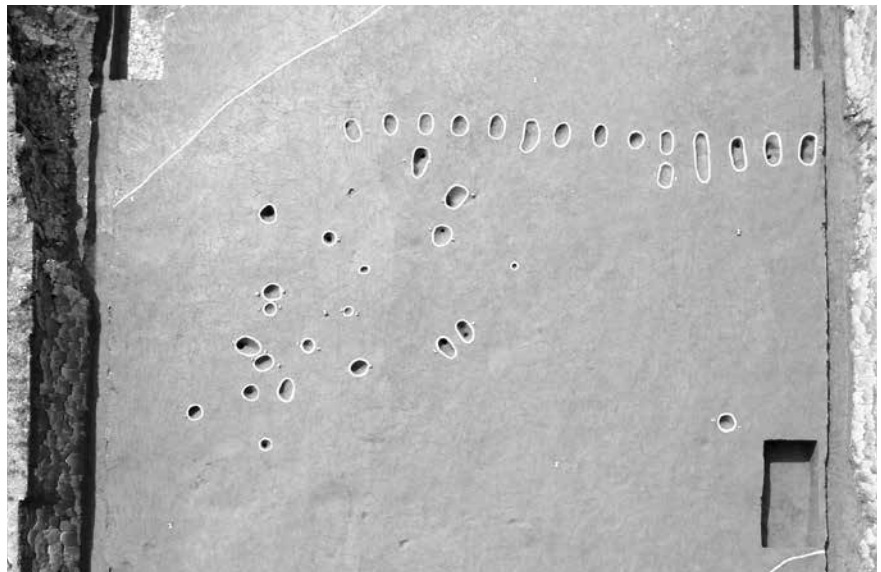
3 4 溝完掘状況 (南東から)



1 1-1区 14 溝土層断面 (東から)



2 1-2区 102 溝土層断面 (西から)



3 1-2区 連続土坑群 (南上空から)



1 2-1 区全景 (東から)



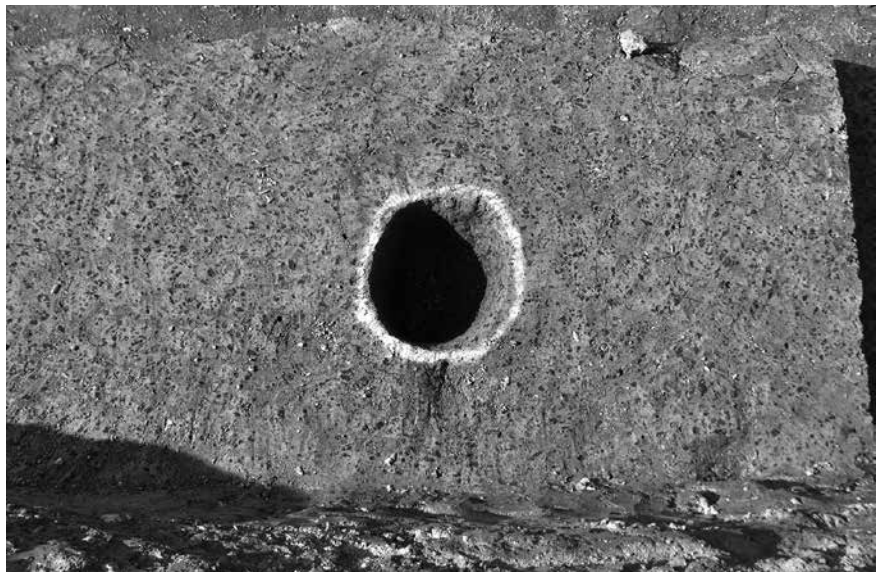
2 2-1 区南壁 (北から)



1 2-1区 201溝 (西から)



2 2-1区 202ピット土層断面 (西から)



3 202ピット完掘状況 (西から)



1 2-2区全景（北上空から）



2 2-3区全景（北上空から）



3 2-2区・2-3区全景（東上空から）



1 2-3区東壁（西から）



2 2-3区 竪穴建物 211、210 溝（西から）



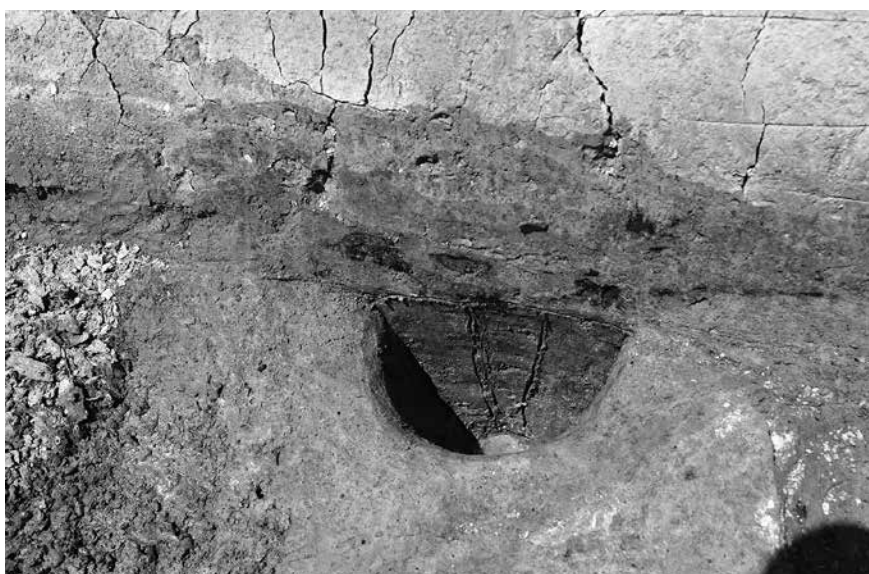
3 2-2区 竪穴建物 277・291（南西から）



1 竪穴建物 277 上面焼失材検出状況（南西から）



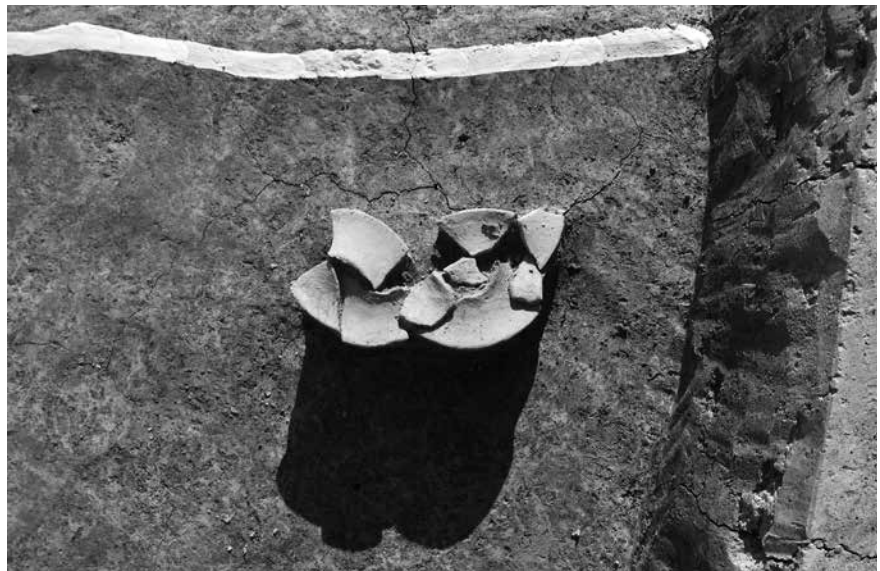
2 竪穴建物 277 南北土層断面（南から）



3 竪穴建物 277 内 900 柱穴土層断面（東から）



1 2-3区 竪穴建物 278・280・291 (南東上空から)



2 竪穴建物 278 遺物出土状況 (東から)



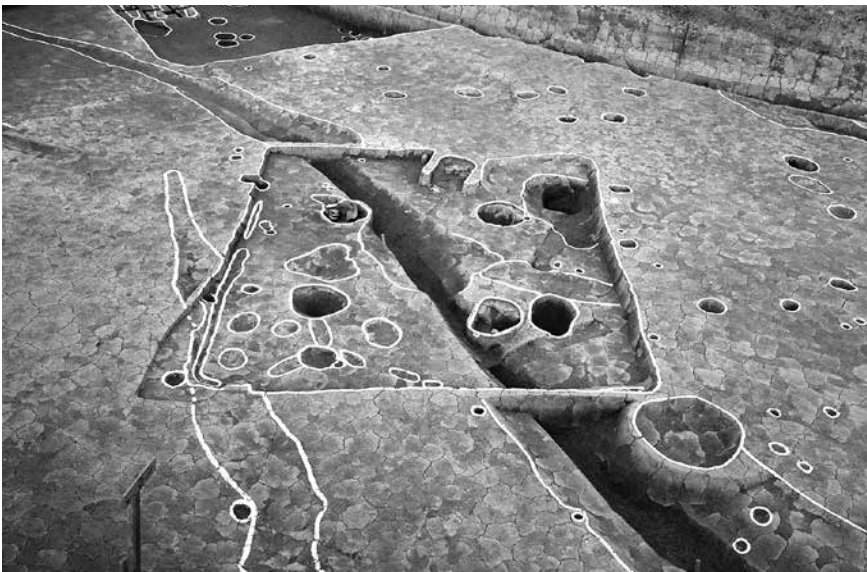
3 竪穴建物 278 内 301 カマド (西から)



1 竪穴建物 278 内 301 カマド東西土層断面 (南から)



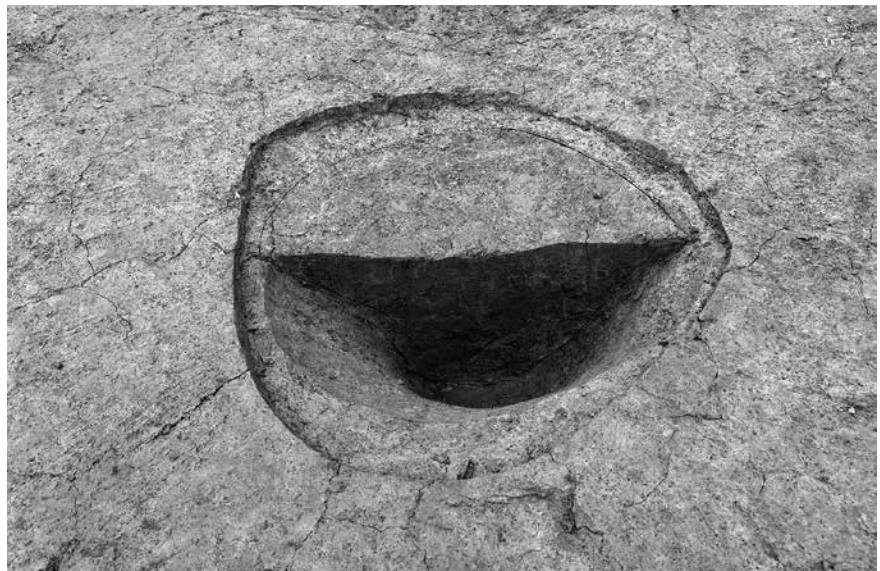
2 竪穴建物 278 内 312 土坑土層断面 (東から)



3 2-2区 竪穴建物 406 (南西から)



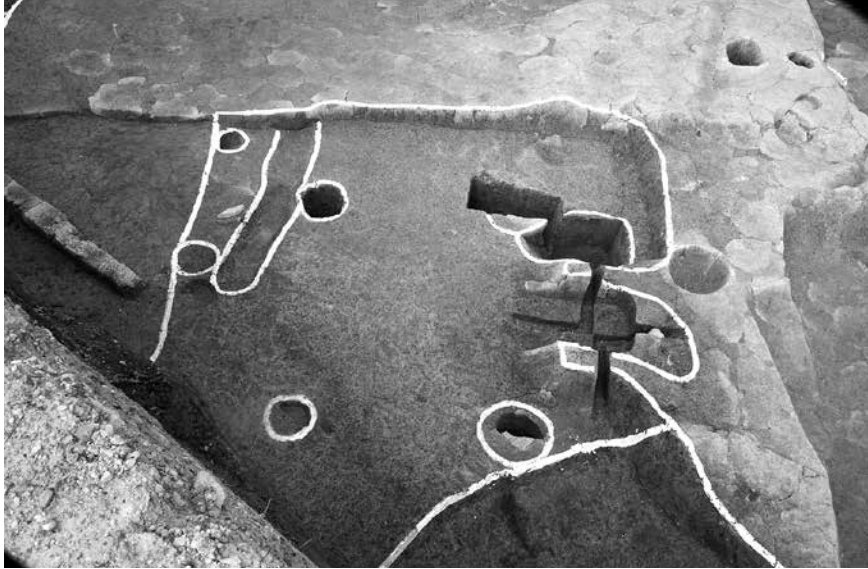
1 竪穴建物 406 内 806 柱穴遺物出土状況 (西から)



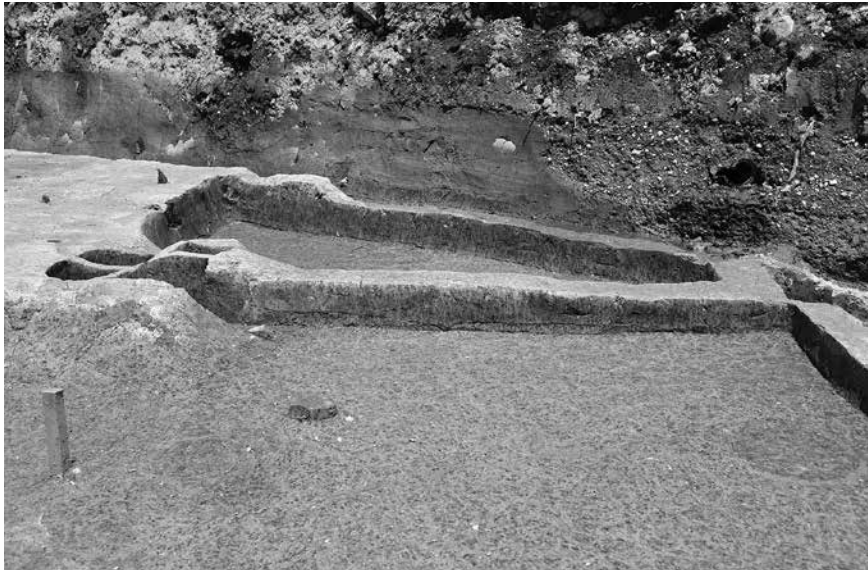
2 竪穴建物 406 内 809 柱穴土層断面 (西から)



1 竪穴建物 406 内カマド (西から)



1 2-2区 竪穴建物 428 (東から)



2 竪穴建物 428 南北土層断面 (西から)



3 竪穴建物 428 内カマド (南から)



1 竪穴建物 428 内カマド東西土層断面 (南から)



2 2-2区 竪穴建物 429 (南東から)



3 429 南北土層断面 (西から)



1 竪穴建物 429 内 937 柱穴土層断面 (西から)



2 竪穴建物 429 内 930 土坑遺物出土状況 (西から)



3 2-2区 竪穴建物 430 (南西から)



1 竪穴建物 430 南北土層断面 (西から)



2 竪穴建物 430 内カマド遺物出土状況 (西から)



3 竪穴建物 430 内カマド支脚出土状況 (南西から)



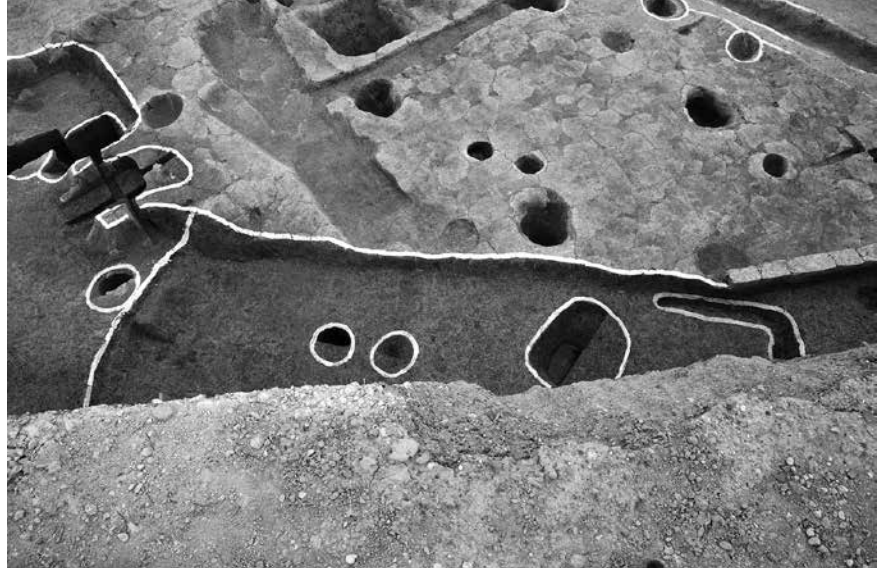
1 竪穴建物 430 内カマド南北土層断面 (南西から)



2 2-2区 竪穴建物 582 (南東から)



3 竪穴建物 582、922・899 柱穴南北断面 (北西から)



1 2-2区 竪穴建物 802 (西から)



2 2-2区 掘立柱建物 (西から)



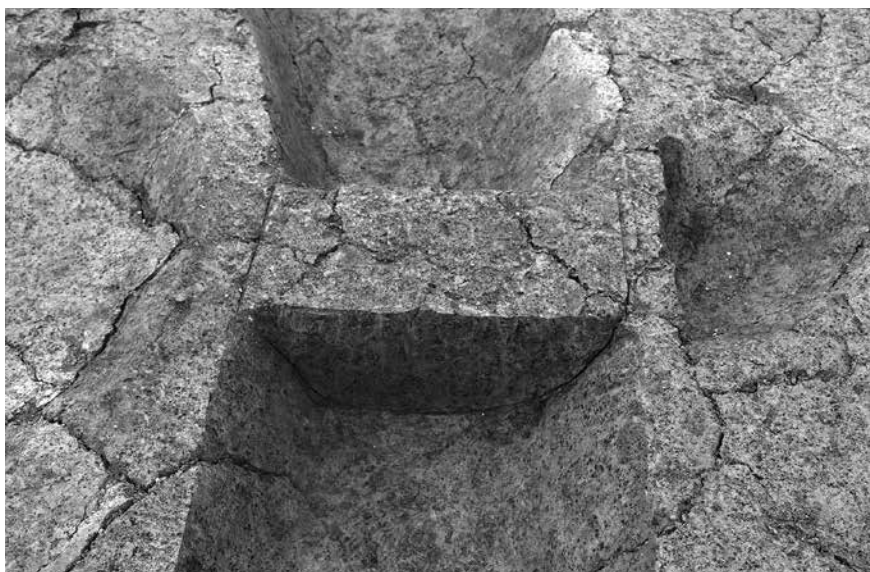
3 掘立柱建物内 944 柱穴土層断面 (西から)



1 2-2区 963 土坑遺物出土状況 (西から)



2 2-2区 410 溝土層断面 (西から)



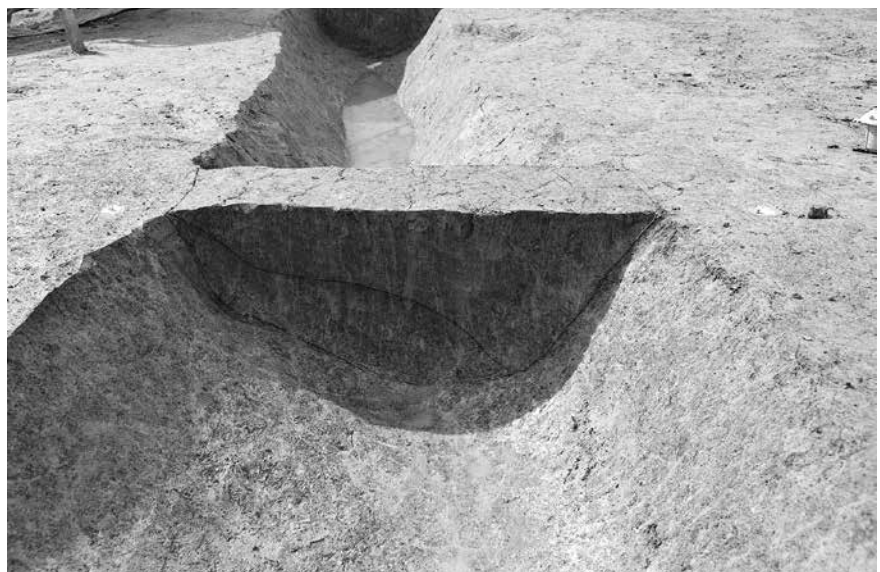
3 2-2区 441 溝土層断面 (西から)



1 2-2区 651溝 (西から)



2 2-2区 670溝 (南東から)



3 670溝土層断面 (東から)



1 3-1区全景（北上空から）



2 3-2区全景（南上空から）



3 3-1区・3-2区全景（東上空から）



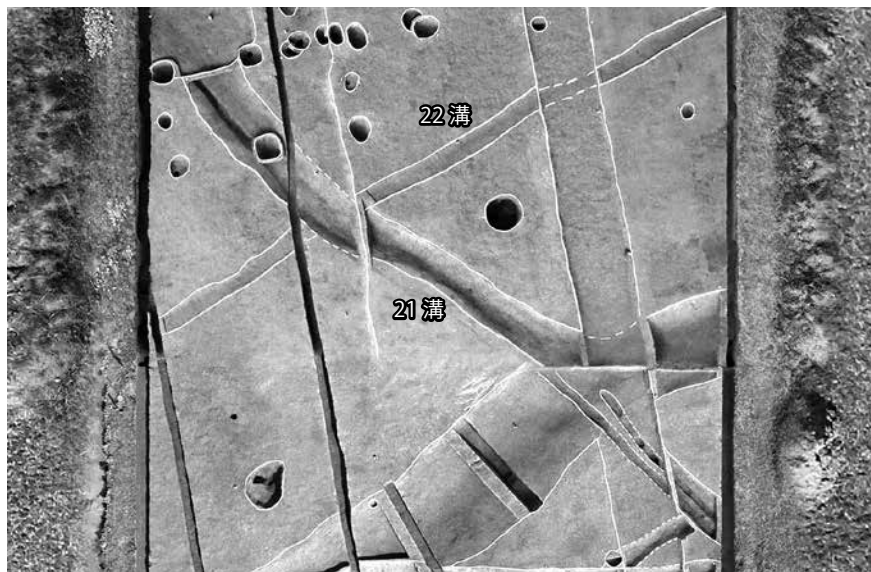
1 3-1 区西壁土層断面 (東から)



2 3-1 区 20・55 溝 (南から)



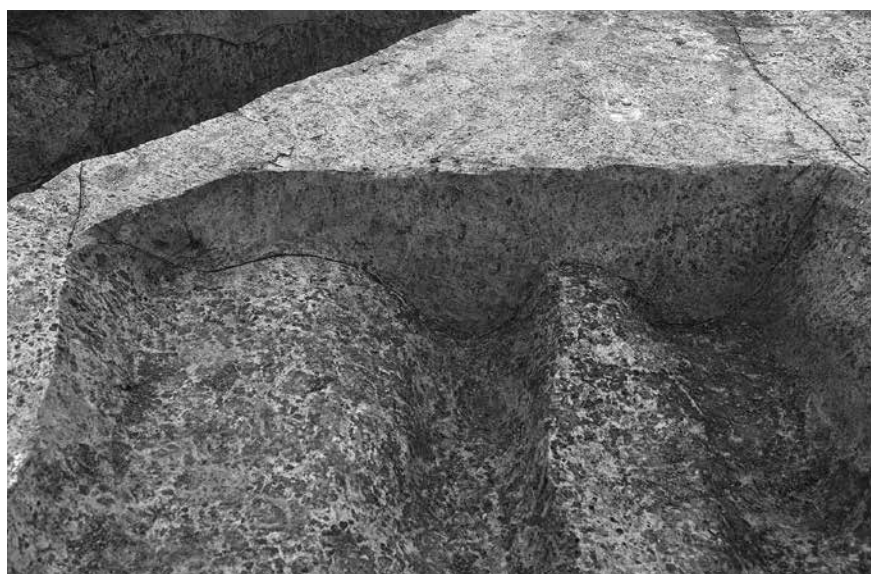
3 3-2 区 65 溝土層断面 (南西から)



1 3-1区 21・22溝 (南上空から)



2 3-1区 21溝土層断面 (南東から)



3 3-2区 21溝土層断面 (北西から)



1 3-2区 49溝 (北東から)



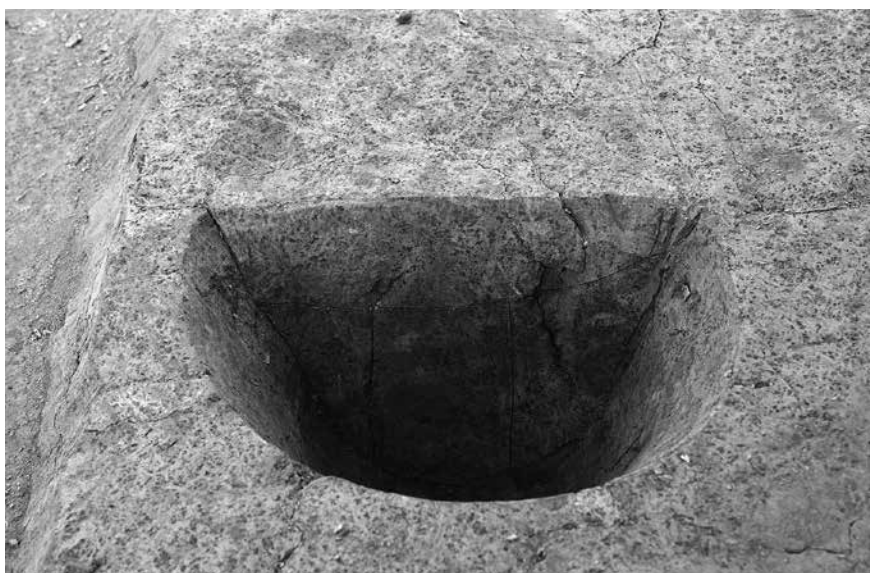
2 49溝土層断面 (東から)



3 3-2区 60・61溝土層断面 (東から)



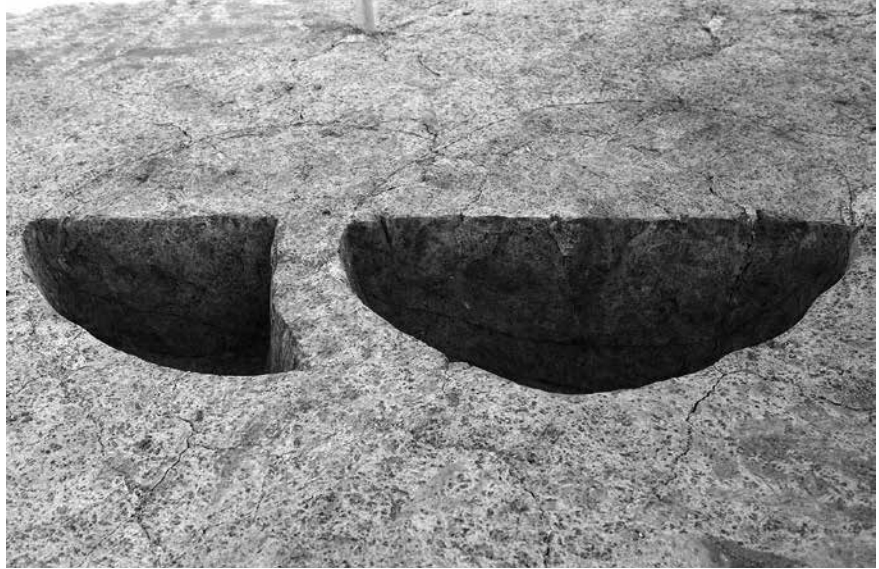
1 3-1区 掘立柱建物1 (南から)



2 掘立柱建物1内12柱穴土層断面 (南から)



3 3-1区 掘立柱建物2 (南から)



1 掘立柱建物2内10・11柱穴土層断面(南東から)



2 3-1区 竪穴状遺構35(東から)



3 竪穴状遺構35土層断面(東から)



1 3-1区 41土坑土層断面(南から)



2 3-1区 51土坑土層断面(北から)



3 51土坑杭跡検出状況(北から)



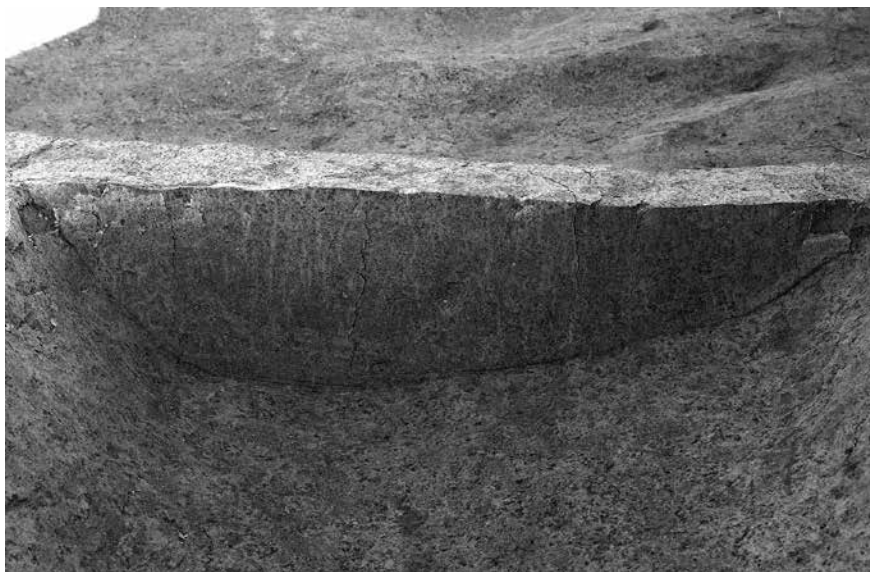
1 3-1区 33溝 (南上空から)



2 3-1区 59井戸、33溝土層断面 (東から)



3 33溝土層断面 (西から)



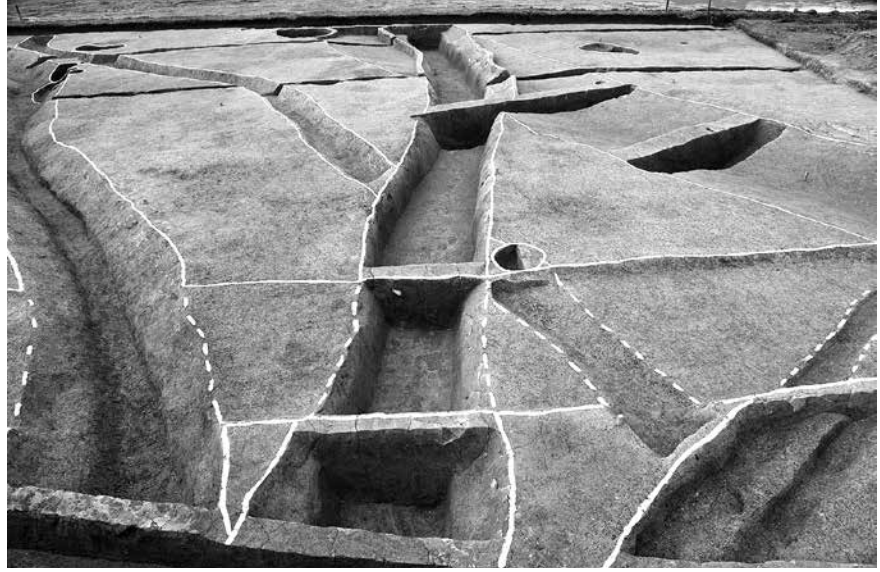
1 3-1区 55 溝土層断面 (南から)



2 3-2区 60・61・63 溝 (北東から)



3 3-2区 63 溝土層断面 (東から)



1 3-2区 67溝 (東から)



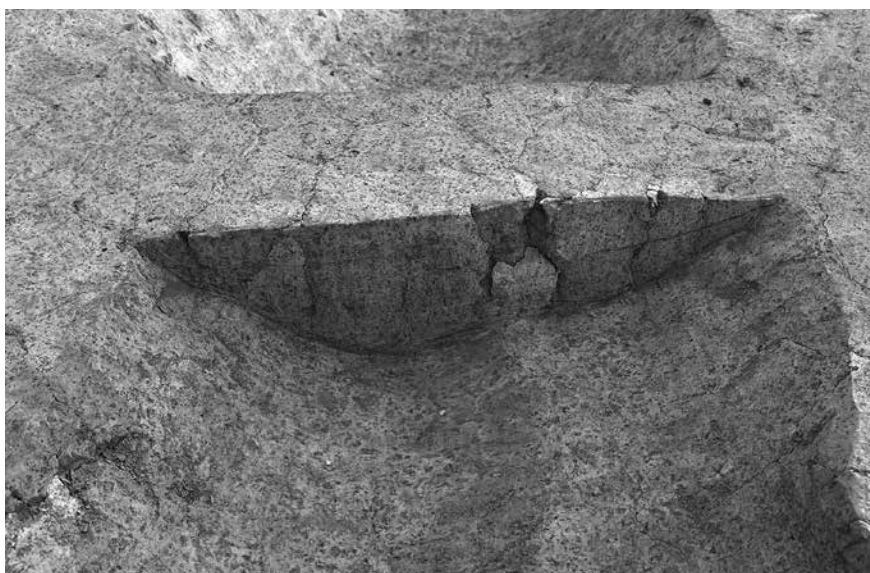
2 67溝土層断面 (東から)



3 3-1区 18井戸土層断面 (南から)



1 3-2 区 83 土坑土層断面 (西から)



2 3-1 区 19 溝土層断面 (南西から)



3 3-2 区 79 溝状遺構土層断面 (北から)



1 4-1区全景（北上空から）



2 4-2区全景（北上空から）



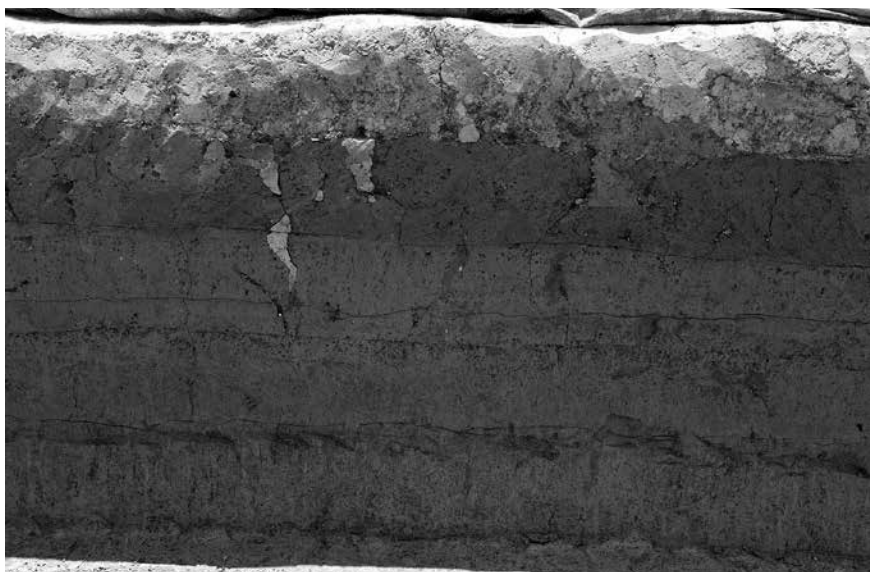
3 4-1区・4-2区全景（東上空から）



1 4-1区全景（南から）



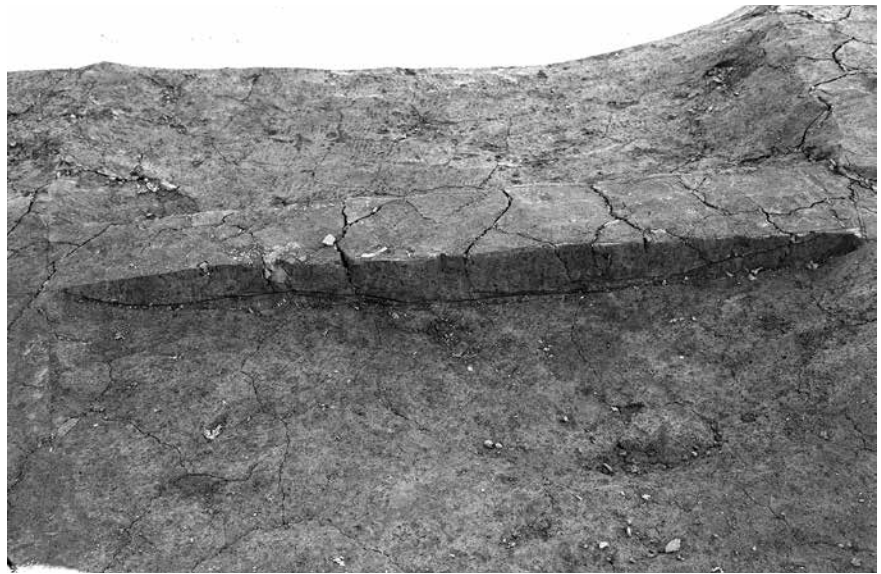
2 4-2区全景（南から）



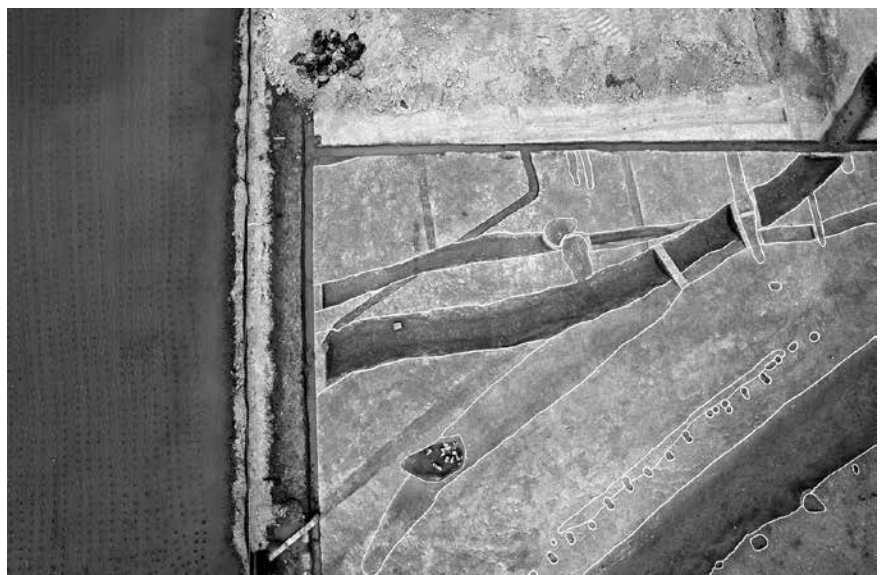
3 4-2区南壁土層断面（北から）



1 4-1区 10・14・18溝 (南上空から)



2 14溝土層断面 (西から)



3 4-2区 36・37土坑、26・35・39溝 (南上空から)



1 36 土坑遺物出土状況 (西から)



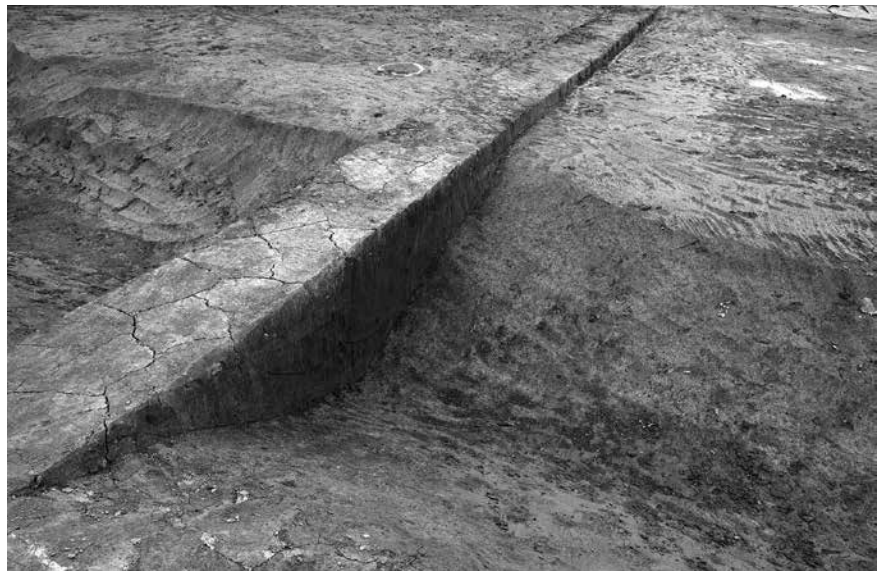
2 4-2区 34溝、86土坑 (西から)



2 4-2区 小穴列、34溝 (西から)



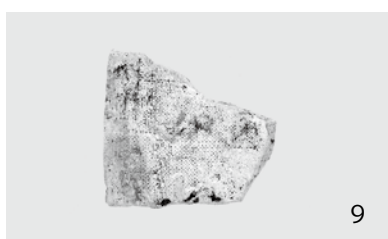
1 34 溝土層断面 (西から)

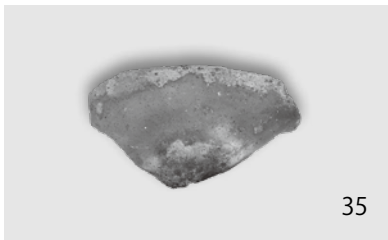


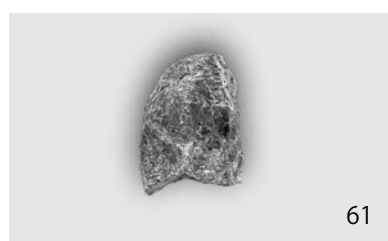
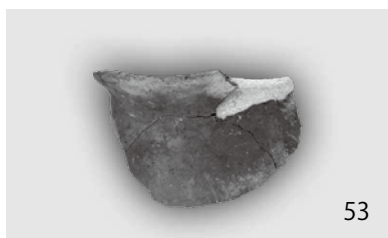
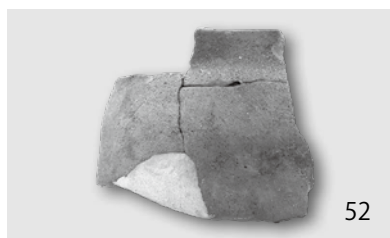
2 34 溝、86 土坑土層断面 (北西から)

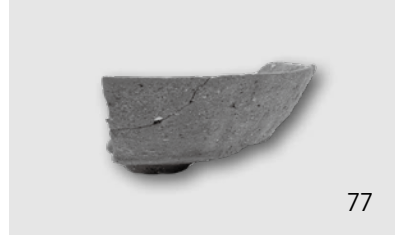
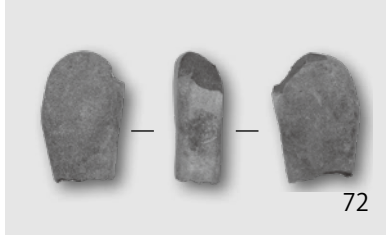


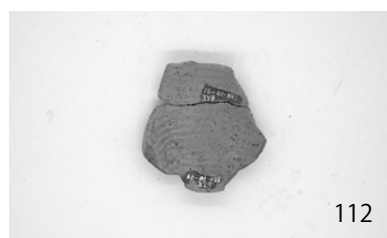
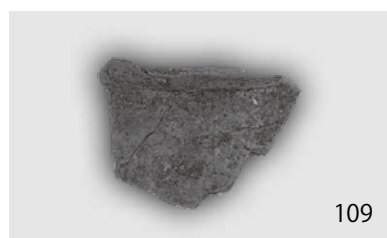
3 4-1 区 19・20・21 溝 (南から)

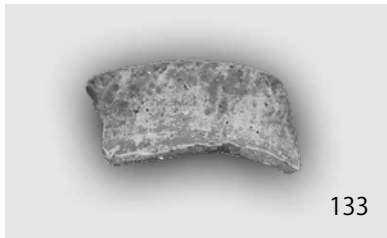
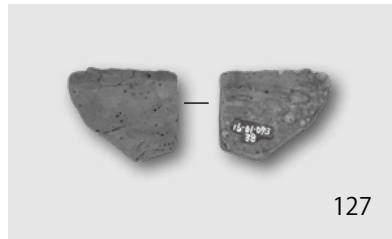
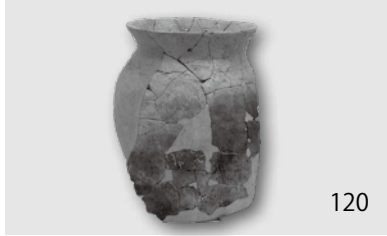
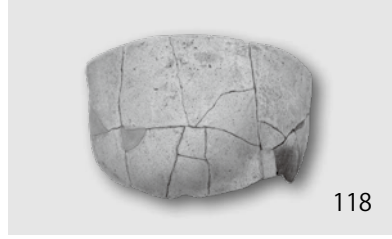


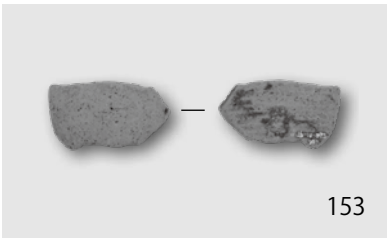
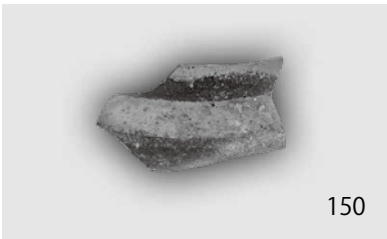
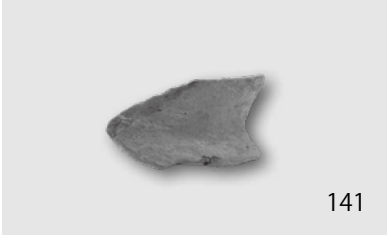


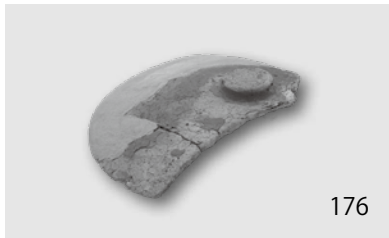
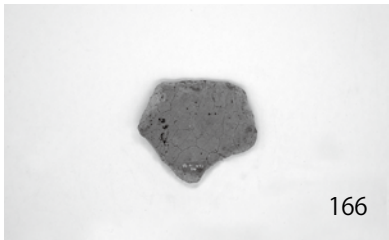


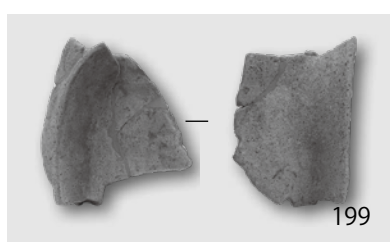
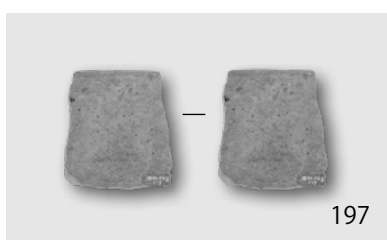
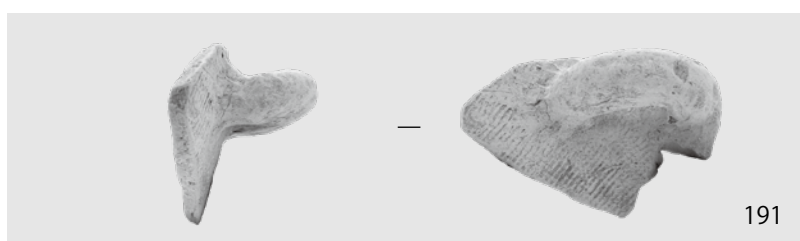
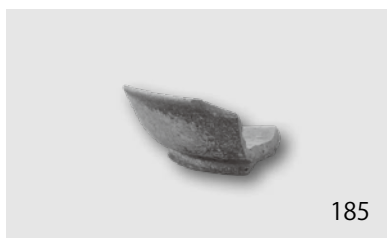




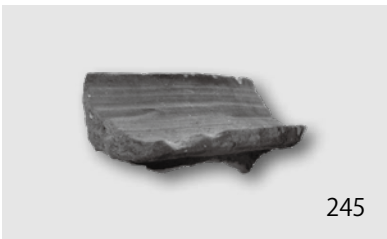
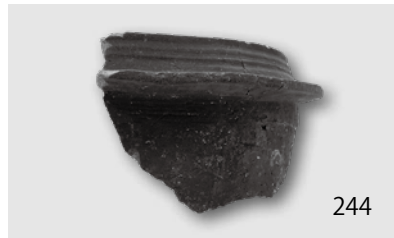
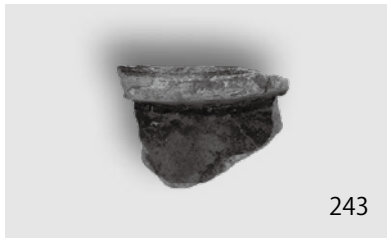
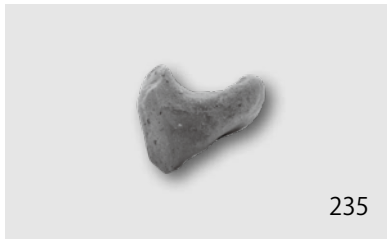
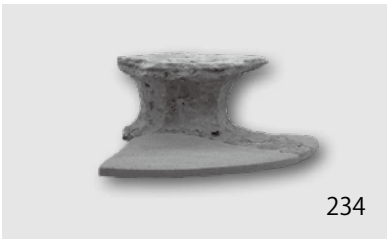
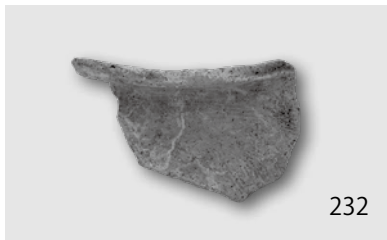
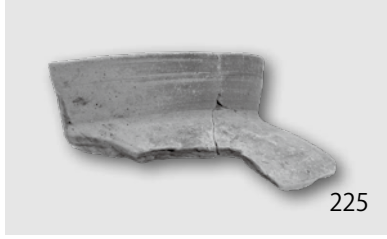


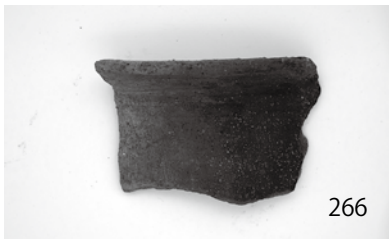












報告書抄録

ふりがな	たやいせき							
書名	田屋遺跡							
副書名	紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う発掘調査報告書							
編著者名	森田 真由香							
編集機関	公益財団法人 和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の 1 TEL 073-472-3710							
発行年月日	西暦 2020 年 12 月 28 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たやいせき 田屋遺跡	わかやまけん 和歌山県 わかやまし 和歌山市 たやあずしま 田屋・小豆島	3020150	093	34° 15'19"	135° 13'46"	第 1 次調査 20151226 ～ 20160308 第 2 次調査 20170221 ～ 20170805 第 3 次調査 20190115 ～ 20190227 第 4 次調査 20190408 ～ 20190626	第 1 次調査 1,987㎡ 第 2 次調査 1,782㎡ 第 3 次調査 786.6㎡ 第 4 次調査 1,049.3㎡	紀伊停車場 田井ノ瀬線 道路改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
田屋遺跡	集落跡	弥生～ 古墳	竪穴建物・掘立柱建物・ 溝		弥生土器・土師器・須恵器・ 製塩土器・土製品		調査区南部に集中した古墳 時代の竪穴建物を検出。	
		古代～ 中世	掘立柱建物・溝・連続 土坑群		土師器・須恵器		7～8 世紀の遺物を含む 溝を検出。	
要約	<p>田屋遺跡内の東部にあたる約 5,600㎡の発掘調査を行った。調査区南部の 2-2 区・2-3 区では、自然流路・低湿地に挟まれた微高地に集中して竪穴建物を検出した。こうした建物の分布は島状の微高地に集落が展開していたことを示している。また、調査区北部の 3 区・4 区では、時代ごとに方向の異なる溝を検出した。これらの溝のうち、古墳時代までのものは旧地形の起伏に沿い、古代以降のものは条里型地割に基づいて形成されていると考えられる。</p>							

田屋遺跡

—紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う発掘調査報告書—

発行年月日：2020年12月28日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市岩橋1263番地の1

印刷・製本：白光印刷株式会社
和歌山県和歌山市雑賀崎2021-3